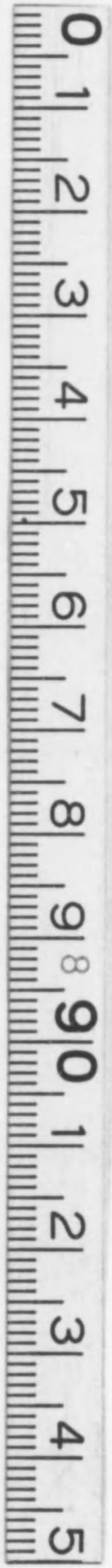


396-45



1200501464157

396
45



始



31 8 26

昭和
八年版

筑豊石炭鑛業要覽

納本

396-45

昭和八年版 筑豊石炭鑛業要覽目次

第一章 沿革 一

第一節 石炭發見の時代 一

第二節 徳川幕府時代の採炭業 三

第三節 明治維新後の第一期 五

第四節 明治維新後の第二期 九

第五節 大正時代の石炭鑛業 一三

第六節 昭和時代の石炭鑛業 一七

第二章 炭田 二一

第三章 鑛産額 二五

第一節 筑豊炭鑛々別産額並筑豊石炭採掘鑛區 二五

第二節 鑛山監督局管内鑛山別産額 四六

第三節 朝鮮總督府管内鑛山別産額 五五

第四節 樺太廳管内鑛山別産額 五六

第五節 臺灣總督府管内鑛山別産額 五七

第六節 全國(朝鮮・樺太)及筑豊炭鑛累計産額 五七

第四章 鑛夫 五九

第一節 筑豊炭鑛年別鑛夫調 五九

第五章 運炭 六八

第一節 概説 六八

第二節 鐵道運賃 七一

第三節 各鑛主要驛間新程及運賃表 七二

第四節 總送出高類別 七五

第五節 筑豊地方別總送出炭年別表 七五

第六節 送出炭年別仕向先別表 七九

第七節 鐵道「其他各驛」別送出炭年別表 八二

第八節 送出炭年別炭種別表 八二

第九節 炭鑛別送出高類別 九一

第十節 炭鑛別年別送出炭表 九四

第十一節 炭鑛別仕向先別送出炭表 九四

第十二節 炭鑛別炭種別表 一〇二

第十三節 製鐵所々屬炭鑛年別送出炭表 一〇七

第十四節 製鐵所々屬炭鑛年別送出炭表 一一二



第六章 貯炭、船積設備、手摺及船舶運賃

第一節 貯炭

- 若松港月末貯炭年別表……………一三三
- 門司港月末貯炭年別表……………一三四
- 山元月末貯炭年別表……………一三五
- 若松港兩港頭及山元月末貯炭年別表……………一五六

第二節 貯炭場の面積及使用料……………一七

第三節 船積設備及手摺料……………一七八

- 若松港……………一七八
- 若松港石炭船積運賃表……………一九
- 若松港石炭仲仕賃金最高標準表……………二〇
- 門司港……………二一
- 門司港石炭船積賃金最高標準表……………二二
- 門司港石炭仲仕賃金最高標準表……………二二

第四節 船舶運賃……………二三

- 帆船運賃……………二三
- 汽船運賃……………二六

第七章 内外仕向高……………二八

- 第一節 内地輸送高……………二八
- 内國海路輸送先別表……………二八

第二章 沿革

第二節 海外輸出高及内國汽船燃料炭年別……………二二八

- 海外輸出高……………二二八
- 海外輸出先年別表……………二四二

第三節 内外仕向總高……………二四六

- 筑豊炭内外仕向總高年別表……………二四六

第八章 全國石炭輸出入高……………二四八

- 輸出入高年別表……………二四八
- 港別及仕向先別輸出入高表……………二四九
- 港別及積出先別輸入高表……………二五〇

第九章 筑豊石炭鑛業組合……………二五二

- 第一節 組合事業の成績……………二五二
- 筑豊鑛山學校……………二五三
- 變災豫防に關する施設……………二五八
- 第二節 組合炭山に於ける社會的施設……………二六〇
- 第三節 組合炭鑛所在地一覽附組合役員……………二六七

地圖添付

筑豊炭鑛位置略圖

附字部、糟屋、唐津地方

昭和八年版 筑豊石炭鑛業要覽

第一章 沿革

第一節 石炭發見の時代

筑豊石炭發見の時代は特に文書の徵すべきものなしと雖も其の探掘が既に二百有餘年以前に於て稍見る可きものありしこと左の文書及事蹟口碑等に據り疑ふ可からざるもの、如し。

筑前續風土記中の一節 曰く「遠賀、鞍手、嘉麻、穂波の中、諸所の山野に燃石なるものあり、村民之を掘り採りて薪に代用せり、遠賀、鞍手には特に多し。頃年糟屋の山にても掘れり、煙多く臭惡しと雖、燃えて久しく、水風呂の釜に焚くに適し、民用に最も便なり云々」是に由りて之を觀れば且原益軒が筑前續風土記の脱稿せし元祿十五年以前に於て既に以上各郡と糟屋郡との民用として之を採掘しつゝ、ありしを知るを得べし。因に記す。元祿十五年は今昭和八年を去ること實に二百三十二年前なり。

嘉穂郡山野炭鑛の舊碑

明治三十一年中嘉穂郡稻葉村三井山野炭鑛第一坑開鑿の際三角形の石塊五六寸許り地表に露出せるを發見し試に土壤を掃ふて其の石塊を検せしに幅一尺一二寸高さ二尺五六寸の石碑にして、表面の上額に梵字を刻し、中央に「爲供養」の三字を大書し、向つて右に「享保十八天」左に「雪月日」と細書し、其の下に「空平、左市、半七、德平、地七妻、三介妻」と連名し、左側に「施主古江地平」と刻しありしかば、同炭坑事務所にては兎も角も一の記念として地表に掘り出し今尙保存せり。右に付同地父老の語る處によれば「石碑の施主古江地平は代々大庄屋の家格ある永富某の

第一章 沿革 第一節 石炭發見の時代

祖先にして、右の外同人の名を以て近郷の神社佛閣に碑石を建立寄進せしこと多ければ此の碑も亦變死者供養の爲めに建立せしものなるべし、而して其の位置在來の墓地にあらず又寺院の遺蹟にもあらず、無數の探炭舊坑散在せる林藪中なりしによりて察すれば此の變死者の此の地に探炭中天井磐の墜落に因り、一時に壓死せしものならんか云々」と云へり。此の説にして誤りなく其建立の當年（享保十八年）即ち今昭和八年を去ること二百一年前に於て、既に六名の坑夫が同時に入坑稼業すべき規模を以て探炭に従事せしことありしを推知するに足るべし。

之を前記筑前糠風土記の記事に参照すれば當時斯業の大要勞働として察すべきものあるを覺ゆべし。

口碑の一（堀川運河開鑿中の發見）寶曆年中、筑前國主黒田繼高祖先長政の遺志を繼ぎ遠賀川より洞の海に通ずる堀川運河開鑿中、楠橋村字壽命より同陣原湯までの間、吉田村の地内にて人夫等火を焚きて茶を沸かせしに忽ち黒色の石塊に燃え付きしを見て始めて燃料に適するを知りたるもの即ち同地方石炭發見の端緒なりと云ふ説あり、思ふに寶曆元年は今を去ること百八十三年前にして前記山野炭坑舊碑建立の年より十八年以後のことなれば、數里を隔てたる嘉穂郡の一部にて既に六人の坑夫が一時に探炭に従事せし頃にて遠賀郡の一部に、尙石炭の燃料に適するさへ知らざるものありとは今日に於て聊怪しむべきが如しと雖交通の不便なりし往時に於ては尙此の如き迂遠を免れざりしものならんか記して後日の參考に供す。

口碑の二（豊前赤池の坊主ヶ谷）田川郡赤池炭坑附近に坊主ヶ谷と稱する處あり約二百二十餘年前行脚の一僧山中に露宿し火を焚いて暖を取りしに黒色の石塊異臭を放ちて燃え上りしかば始めて燃料に適するを知り山を下りて之を里人に告げたるもの、即ち同地方石炭發見の嚆矢にして坊主ヶ谷の名亦因りて起る所以なりと。

以上の如く漠然として其の年代を詳にせざる傳説は尙之を聞くことなきにあらざれども今一々茲に採録せず。只參考として三池、高島、唐津、宇部等の各方面に於ける石炭發見の傳説を左に掲げ期せずして何れも偶然の發見なりしを證據立つる

こととすべし。

參考 四方面の傳説

三池炭

の發見は文明元年己丑の年、三池郡稻荷村の農夫傳治左衛門と云ふもの稻荷山に樵して焚火の黒石に點するを見たるに始まるといふ、今を去ること實に四百六十五年前にして傳説中最古のものなり。

高島炭

は寶永年中（約二百二十餘年前）肥前平戸の領民五平太なるものによりて發見され、之を附近の鹽田に供したりとの傳説あり果して事實なりすれば鹽田使用の嚆矢なるべきが如し。

唐津炭

は享保年間（約百九十餘年前）今の芳谷炭坑區内北波村大字岸山にて一農夫に發見せられたりし傳ふ。

宇部炭

は延寶年間（約二百五十餘年前）地方民によつて發見せられ當時農民の燃料となりしと云ふ。

第二節 徳川幕府時代の採炭業

二百三十餘年前燃石と云ふ名稱を以て具原益軒の手に紹介せられたる筑豊炭は、三池、高島、唐津等の石炭と共に僅に民家の燃料として採掘せらるること數十年にして、漸く製鹽用に供せらるることとなり。

筑豊炭製鹽用の嚆矢（和田佐平）今を去ること約百六十餘年前、即ち明和年間にて遠賀郡若松の庄屋に和田佐平と云へる人あり百方石炭の用途を研究せし末始めて製鹽用に適するを知りて販路を中國四國に開き採炭事業の擴張を試みしも當時藩廳の忌諱に觸れ一朝投獄の厄に遭ふて其事業の大頓挫を來したり佐平が投獄の大厄は斯業の發達を妨げたること

勿論なれども其製鹽用に適することを紹介したる功勞は永く没すべからざるものあるべし。

筑前の仕組法

(松本平内) 佐平投獄の後約八九十年にして、筑前の人松本平内(松本健次郎祖父)と云へる人あり藩廳に獻策して始めて仕組法なるものを定め、明治維新の頃まで實行せり是れ實に組織立ちたる鑛業法令の嚆矢なり。

仕組法は石炭、鷄卵、生蠟の三物産を一括し、共同販賣を目的とするものにして、其の取締所を遠賀郡蘆屋に置き若松港に焚石會所の出張所を設け年々各郡の採炭額を豫定して、之を當時の鑛業人に請負はしめ其の分課額の多少により坑夫の賃錢糧米等を前貸し採炭の全部を焚石會所に上納せしめ之を會所指定の石炭問屋に拂ひ下げ、代金の内より前貸金を控除して殘餘を鑛業人に下附すること、なしたれば、採炭、販賣共に家附の株となり互に其の權利を賣買し或は之を抵當として一時の金融を計ることあり且つ他より石炭買入れに來りたる船舶あれば問屋を経て其旨を會所に届出で再び問屋を経由して所要の數量を買ひ取らしめ入港當時の順序により其の出港を許すを例とし若し賣れ残りの石炭あれば之を割り込みと唱へて強て碇泊中の船舶に配當し義務買入を嚴命し若し其の命に應ぜざれば出港願を繰り下げて最後に出港せしめたりといふ。此の間に多少の弊害は行はれしやに傳ふれども散漫にして統一せざりし石炭鑛業を一括し規律的ならしむるに共に藩廳に於ける收入の一財源ならしめしは斯業に一步を進めたる時勢相應の良法なりしもの、如し。

小倉藩の赤池會所

筑前に仕組法の行はれし頃は豊前に屬する田川郡にも稍同一の方法行はれ赤池の沿岸に赤池會所なるものあり一般の採炭事業を總括し(豊前の採炭業は一般民業の外、藩業として坊主ヶ谷、林ヶ谷の二ヶ所に營まれ前者は町方役所の支配とし後者は郡方役所の支配に屬したり)採掘業者は年々若干金を前借して其採炭を赤池會所に上納し會所は之を相當代價に拂ひ下げ代金以上の賣上代は之を本人に下げ渡すこと、猶筑前の仕組法の如くなりといふ。而して其拂下げを受けたる仲買人は赤池川より遠賀川を下りて之を若松に送出し福岡藩の焚石會所に販賣を依託し或は小倉に回漕

して同地の會所に依託販賣せしことあり納税に就ては小倉藩の御用石と稱し採掘者一戸に付約千斤の石炭を上納する外別に負擔する處なく只川船を以て積み下すこと、筑前豊前の境界にて若干の通行料を收むるのみなりといふ。前記小倉藩の事業として、坊主ヶ谷及林ヶ谷より採掘せし石炭は主として藩廳の公用に供せられ内若干を藩士の用料に頒ちしことありし爲安政の頃より漸く汽船燃料の需用あり赤池會所亦鷄卵の大きさを度し其以下の小塊及粉炭は一切買上げざることとなりし爲め郡内の採炭業者始めて直接に若松に送り吏員の手を借らずして同地の川口屋、及小倉の中原屋等に依託し之を販賣せしことあり、蓋し鷄卵大以上の塊炭を藩廳に買ひ上げしは筑前、豊前共に同一にして筑前にては常に之を俵裝し若松港口に在る中の島に貯藏し置き年々時を期して幕府に獻納したりと云ふ。彼の川船の船頭等が今尙塊炭を呼びて單に御用と稱ふるは即ち當時の御用炭の名残りなり。

附記 燧石の發見

筑豊の間に採掘する燧石の發見は明治以前幕制の末年にあり發見者を田島屋久兵衛と稱し、後村上久三郎と改む、筑後久留米の人、曾て肥後天草に遊びて燧石を發見し其の使用法を研究して石炭製造用燃料に適するを知り後嘉穂郡上三緒、鞍手郡勝野、田川郡後藤寺附近にて燧石を採掘し漸次販路を擴張したりといふ。

第三節

明治維新後の第一期

(自明治元年至同廿四年)

明治維新後に至り始めて鑛業に關する法令の沿革の見る可きものあり、二年二月二十日太政官布告第七十七號を以て「鑛山開拓の儀は其地居住の者共故障無之候はゞ其の支配の府藩縣へ願の上掘出不苦候府藩縣に於ても舊習に不泥速に差免し可申事云々」と違せられしは政府が鑛山開放の方針を示せしものにして斯業に關する第一回の法令なりしも藩制中は筑豊地方尙舊慣を脱せずして毫も見ざる可き進歩の實なく、只高島に於て機械的設備を見たるに明治六年七月より三池炭山を買取して政

府の手に採掘業を起せしことありしに過ぎず、明治五年三月廿七日附太政官布告第百號を以て鑛山心得を發表し始めて斯業に關する根本的の方針を明にし、同六年七月廿日に至りては更に太政官布告第百五十九號を以て日本坑法を發布し其年九月より實行して全國の鑛業を統一し始めて成文法を見るに至りたり。是れ實に明治廿五年六月一日鑛業條例の實施に至るまで最も長き期間我が鑛業界を支配せし法文なり。

此の二十五年間に於ける筑豊の石炭鑛業は大に録すべきものありと雖も、多くは後半の十二年間に發達し其の前半就中明治七八年頃迄は之を混沌時代と稱すべく特に録するに足るものなし。明治八年片山逸太田川郡糸田村に始めて蒸氣機關應用の端緒を開きしは必しも氏の成功にあらずと雖斯業の發達に貢獻せしこと少からず、後貝島太助、帆足義方の二氏何れも片山の志を襲つて失敗し、十四年杉山徳三郎に依りて嘉徳郡尾炭坑に据付けられしもの、始めて完全に成功し爾後各所の炭山に應用するに至り漸次有力なる事業家の奮起を促し、十八年今の筑豊石炭鑛業組合(當初の筑豊坑業組合)組織以後時勢の進運に伴ひて海軍豫備炭田の指定あり、日本郵船會社、三菱會社を始め、東京大阪等の豪商、亦會社組織を以て指を筑豊の採炭業に染め一方に於ては久しく發起計畫中なりし九州鐵道の愈々廿一年を以て成立せるあり、若松築港會社及び門司築港會社等亦同年を以て起り、廿二年には門司の特別輸出港に編入せらるゝあり、筑豊興業鐵道亦同年を以て企劃され、二十三年に至りては別に豊州鐵道の發企あり何れも筑豊の石炭を中心とし其の大發展を促すべき機關として俄かに長足の進歩を示し、廿四年に至りては九州鐵道の門司久留米間、及筑豊興業鐵道の若松直方間開通し從來堀川運河の一條に據りし筑豊石炭の輸送をして、愈一大革新の機運に達せしめたり。明治八年の産額約九萬噸に過ぎざりしもの、同廿四年に於て九十萬噸、大正二年以降一千萬噸を超ゆるに至りしは亦以て其進歩の大勢を窺ふべし。尙本期間の重要事項を年別に記し讀者の參考に供すれば左の如し。

重要事項年表

明治元年	參考 鍋島家の家臣松林源藏、英人グラバーと高島炭坑を共同發業す。
同 二年	二月二十日太政官布告第百七十七號を以て鑛山開放を公布す。
同 三年	十月民政部にて石炭に關する調査を試む。
同 四年	四月五日鑛山出願者身元調べに關する達示あり。
同 五年	三月二十七日太政官布告第百號を以て鑛山心得書を發布す。
同 六年	七月太政官布告第百五十九號を以て日本坑法を發布し、同年九月一日より實施す。 參考 七月より三池炭坑を官業す。 十二月後藤象二郎高島炭坑を引受く。
同 七年	鑛物稅取纏めの爲め蘆屋若松に福岡縣の出張所を設け兼ねて採炭及び賣炭を監督す、蓋し維新後炭山開放の結果濫掘濫賣の弊に懲り當業者より懇請せしに由る。
同 八年	片山逸太田川郡糸田村の炭坑に蒸氣機關を据付け始めて汽力應用を試みしも成功せず。
同 九年	貝島太助鞍手郡直方炭坑に蒸氣機械を据付けしも亦好果を見る能はず。
同 十年	參考 西南の戦役に依り勞銀暴騰して斯業沈衰す。
同 十一年	帆足義方遠賀郡香月炭坑に蒸氣機械を据付けしも亦好果を奏すること能はず ◎山本貴三郎始めて糸田鑛區を出願し翌年許可せらる即ち今の豊國炭坑の始めなり。
同 十三年	各炭山の採掘炭依託販賣を目的とし若松商會を起せしものありしも事業大に振ふに至らずして廢業す ◎此の年冬より翌年にかけて、四十七日間の強風により蘆屋、若松より大阪送炭の帆船航海杜絶し、大阪の石炭相場一萬斤

に付百貳拾圓を唱へしも航通復舊して此の報の蘆屋若松に達せし頃は既に暴落して四拾圓となり蘆屋若松にては參拾七圓を最高値とし、最低拾貳圓に低落せり。◎松本藩高嶺炭坑第一坑を開く即ち今の製鐵所二瀬出張所に屬するもの是なり。◎麻生太吉亦鉢田炭坑を開く今三菱會社に屬するもの是れなり。

明治四年

杉山徳三郎筑前穂波郡(今の嘉穂郡) 目尾炭坑に蒸氣機械を据付け始めて好果を得たり今の古河會社に屬するもの是れなり、筑豊の炭山之に倣ふもの多し。◎直方町外十ヶ村の各礦區を一括して藤田傳三郎に許可せらる、地方の人々其の解放を懇請し翌年始めて目的を達す。

参考 此の年三菱會社高島炭坑を引受く。

同十五年

許斐駕助本洞炭坑を開く。◎伊藤綱索第二新炭坑を開く。

同十六年

斯波義象新入炭坑第一坑を開く、後近藤廉平の名義となり今現に三菱會社に屬するもの是れなり。

同十七年

貝島太助鞍手郡宮田村に大の浦炭坑を開く。◎山本貴三郎豊國第一坑を開きしが廿三年海軍豫備炭田の開放により更に其の事業を擴張す。

同十八年

四月九日福岡縣布達第三十四號を以て石炭礦業人組合準則布達せらる。◎田川郡に海軍豫備炭田を指定す。◎十一月十四日筑豊坑業組合を組織し、福岡縣屬石野寛平官を辭して其總長に就任し、直方蘆屋の外若松村新地六百二十二番地に事務所を置く、十二月二十八日申合規約並に總長就任認可せらる。◎白土某嘉麻郡額田村に明治炭坑第一坑を開く、明治二十年松本藩、安川敬一郎之を譲受け漸次事業を擴張す今の明治會社に屬するもの是れなり

同二十年

十一月五日修多羅村新倉五百八十三番地に組合事務所を新築移轉す。

同廿一年

海軍豫備炭田を鞍手郡御徳方面及嘉穂郡熊田村に選定す。◎若松築港會社を創立し筑豊坑業組合總長石野寛平社長となる。◎九州鐵道株式會社成立す。◎門司築港會社亦起る。

同廿二年

門司港を特別輸出港に編入す。◎筑豊興業鐵道株式會社を創立す。◎田川嘉穂兩郡の海軍豫備炭田一部解放さる

◎田川採炭株式會社起る。◎郵船會社野炭坑を買入れ、三菱會社亦鉢田新入の二炭坑を購ふ。◎安川敬一郎、平岡浩太郎の兩人赤池炭坑を開く。◎鉢田炭坑に始めて長壁式採炭法を行ふ爾後之に倣ふもの多し。

同廿三年

参考 三池炭坑公賣入札を以て佐々木八郎に拂下げられ翌年三井家の名義となる。

同廿四年

選定坑區を公示す。◎豊州鐵道株式會社を創立す。◎鉢田炭坑第一坑より嘉麻川沿岸に運炭用「エンドレスロープ」を用ふ爾後之に倣ふもの多し。◎鑛業條例發布せらる。

二月二十四日龍崎中和組合總長に就任す。◎筑豊興業鐵道若松直方間開通し是れより順次延長す(鐵道工事の進行は別記するを以て一々年別に掲出せず) 蓋し本鐵道の開通迄各炭山の運炭は本川及び堀川運河の水運に據りしが、此に至りて始めて鐵道運搬を見るに至りしなり。◎柏木勘八郎金田炭坑を開く後名義人の變更ありて毛利公爵家の有に歸し更に三菱鑛業株式會社に買收せしもの是なり。

第四節 明治維新後の第二期

(自明治二十五年至同四十四年)

明治十八年筑豊石炭鑛業組合成立の後時勢の推移に隨つて、漸次大資本家の注意を惹き筑豊炭田の開発に一大發展を促すべく機運は到来せり、就中九州鐵道の幹線は筑豊鐵道と折尾驛にて接続し且筑豊鐵道線路の漸次延長するに従ひ、門司若松に搬出すべき石炭に運搬上の一大改革を興へしと、門司の特別輸出港に編入せられしと、若松門司の築港會社を創立せしとは其の最も著しきものなりと而して、此等外部の施設に努むる頃は内各炭坑の事業に於ても着々改良の方針を取り比較的大規模を以て經營され漸く面目を一新せしとき、偶々二十七八年戦役の起るに會ひしも斯業の大勢は毫も挫折することなく、殊に

二十八年には豊州鐵道の小倉伊田間開通して田川炭の門司搬出に一步を進め、二十九年より三十年、三十一年の頃にかけては、炭況大に振ひて斯業の隆盛前古に比なく、門司若松の二港亦此の間に於て著しく發達し且つ三十年中遠賀郡八幡村に製鐵所を創立して更に斯業界の活氣を添へ、三十一年には三井鐵山會社亦始めて筑豊炭田に其の業を起すべく先づ山野炭坑を開き、尋で三十三年田川採炭坑を購入して大に業務を擴張し、其の他大資本の炭山皆争ふて擴張せしが戦後好況の反動は三十四五年の頃より現はれ、三十六年の不況に續きて三十七八年の戦役となり一時市場の不振に從つて各炭坑皆消極的方針を採り何れも事業整理の時機として採炭費を節約し又其事務を改善して炭坑經營上一步を進めたる傾きあり、三十八年より三十九年に入りては、所謂戦後の好況に因り炭價騰貴して殷盛を極め、四十年より四十一年の前半期にかけては尙其の精力を感じしも、四十一年の後半期より一般經濟界の不振と戦後好況の反動とにより漸く市場の不振を來し各炭坑も採炭壓縮の結果前年に比し其の送出高を減するに至れり。

尙毎年別に重要事項を列記すれば左の如し。若し夫れ事業の進歩を見るべき數字的資料に至りては以下各章に列記する統計に據り讀者の熟覽を請はんのみ。

重要事項年表

明治六年 四月二十二日稻垣徹之進組合總長となる ◎筑豊興業鐵道直方飯塚間及直方金田間開通す ◎鉢田炭坑に扇風機及正式の選炭機を据へ付け安全燈を使用す何れも筑豊地方に於ける嚆矢なり。 ◎十二月六日組合事務所を若松町新地に移す。

同廿七年 古河市兵衛嘉穂郡下山田礦區を購ふ ◎住友吉左衛門忠隈炭坑を購ふ ◎十月五日安達仁造筑豊石炭鑛業組合總

長に就任す。

参考 廿七八年戦役開始

同廿八年 廣岡信五郎潤野炭坑を開く今製鐵所に屬するもの是なり ◎長谷川芳之助新手炭坑を引受く ◎豊州鐵道小倉伊田間開通す、是より漸次延長せしも今一々之を記さず(別項鐵道記事参照) ◎原六郎平恒炭坑を經營し後他人に譲る今の飯塚炭坑是れなり。

参考 廿七八年戦役終了、日清講和條約成る。

同廿九年 五月十六日若松町旭小路に事務所を新築移轉す今の筑豊石炭鑛業組合事務所即ち之なり ◎新入炭坑に深さ七百尺の豎坑開鑿工事を起し三十三年竣工す ◎古河市兵衛勝野及び目尾兩炭坑を購ふ ◎岩崎久米吉岩崎炭坑を開く。

同三十年 八月筑豊興業鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す。

参考 製鐵所を遠賀郡八幡村(今の八幡市)に設置す。

同卅一年 三井、山野坑を開く ◎三菱、上山田坑を開く ◎田川採炭坑構内に電話機を私設す是より各坑鑛業用電話を設置するもの多し。

同卅二年 製鐵所高雄、潤野兩炭坑を買収す ◎六月豊國炭坑々内に瓦斯爆發して二百餘名の犠死者を生じ御救恤金の下賜あり且侍従日根野要吉郎を差遣せらる ◎麻生太吉豆田炭坑を譲り受く ◎田川採炭坑を田川採炭組に譲渡す

同卅三年 三井鐵山會社田川採炭組の事業を譲受く。

同卅四年 赤池炭坑安川敬一郎の専有となり、豊國炭坑平岡浩太郎の専有となる ◎九月豊州鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す ◎筑豊石炭鑛業組合より福岡縣工業學校採鑛科新設費として金參萬壹千圓を寄附す。

明治五年

藏内次郎作等第二峰地炭坑を開く。○麻生太吉藤槽炭坑を譲受く。○轟に株式組織を以て經營せし明治炭坑安川敬一郎の専有となる。○赤池炭坑に鑛山學校を起し豫定の人員を養成する。こゝにて廢校す。

同廿六年

十月八日安川敬一郎組合總長に就任す。○方城炭坑(三菱)鑛坑開鑿工事を起す。○三好徳松頃末炭坑の跡を譲受け三好炭坑を起す。

同廿七年

若松港特別輸出港に編入さる。○七月組合月報を創刊す。

同廿八年

三月法律第四十五號を以て鑛業法、六月農商務省令第十七號にて同法施行細則發布せらる。○古河、勝野炭坑を廢す。○三井田川炭礦伊田鑛坑開鑿工事を起す。○八月方城炭坑着炭す。

同廿九年

製鐵所中央鑛坑を起す。○三井山野炭鑛鴨生、漆生兩坑を開く。○豐州探炭株式會社大任、中津原の兩坑を經營す。○若松港戸畑沿岸の石炭積込機械運轉を開始す。○筑豐石炭鑛業組合より遠賀川改修工事費を以て金貳拾五萬八千貳百圓を寄附す(更に大正五年五月金貳萬千八百圓を寄附す)。

同四十年

三井鑛山會社本洞炭坑を購ふ。○七月豐國炭坑瓦斯爆發の爲め三百三十六人の變死者を生じ御救恤金の下賜あり侍従日根野要吉郎を差遣せらる。○安川敬一郎豐國炭坑を譲受く。○七月一日九州鐵道官有となる。

同四十二年

三井伊田鑛坑着炭す。○豐國炭坑第二坑開鑿工事を起す。○三菱鮫田炭坑専用運炭電車を運轉す。○貝島鑛業合名を株式組織に改む。○十一月大之浦炭坑桐野第二坑瓦斯爆發の爲め二百五十六人の變死者を生じ御救恤金の下賜あり侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

同四十四年

参考 安川敬一郎、松本健次郎の兩名寄附行爲を以て金參百參拾萬圓を投じ遠賀郡戸畑町に明治專門學校を建設し四月一日より開校す。○十一月より濠洲炭坑に鑛夫の同盟罷工あり。○十二月撫順炭坑大山坑着炭す。

同四十五年

三月十五日安川敬一郎筑豐石炭鑛業組合總長を辭任し後任として麻生太吉就任す。○四月藏内保房添田炭坑の一部を買収す。○六月忠限炭坑瓦斯爆發の爲め七十三名の變死者を出す。○當組合は直方町御館山に直方會議所を新築す。○米國鑛業會員ハント外七十餘名の觀光團來朝當組合にて歡迎會を門司俱樂部に開く。

同四十二年

安川敬一郎等明治鑛業株式會社を組織し明治、赤池、豐國の三炭坑を經營す。○鐵道室木線開通す。○四月廿六日遠賀川改修工事を起す。

同四十二年

参考 四月一日より三池港を開く。

同四十二年

三井伊田鑛坑着炭す。○豐國炭坑第二坑開鑿工事を起す。○三菱鮫田炭坑専用運炭電車を運轉す。○貝島鑛業合名を株式組織に改む。○十一月大之浦炭坑桐野第二坑瓦斯爆發の爲め二百五十六人の變死者を生じ御救恤金の下賜あり侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

同四十三年

参考 安川敬一郎、松本健次郎の兩名寄附行爲を以て金參百參拾萬圓を投じ遠賀郡戸畑町に明治專門學校を建設し四月一日より開校す。○十一月より濠洲炭坑に鑛夫の同盟罷工あり。○十二月撫順炭坑大山坑着炭す。

同四十三年

七月英國倫敦に開催せし日英博覽會に當組合より出品したる煤田地圖に對して名譽大賞牌を受領す。○十月三菱合資會社金田炭坑を買収す。○十二月三好徳松高松炭坑を買収す。

同四十四年

三月十五日安川敬一郎筑豐石炭鑛業組合總長を辭任し後任として麻生太吉就任す。○四月藏内保房添田炭坑の一部を買収す。○六月忠限炭坑瓦斯爆發の爲め七十三名の變死者を出す。○當組合は直方町御館山に直方會議所を新築す。○米國鑛業會員ハント外七十餘名の觀光團來朝當組合にて歡迎會を門司俱樂部に開く。

第五節 大正時代の石炭鑛業

(自明治四十五年至大正十四年)

明治四十五年 明治大帝神去り給ひて世は諒闇に入り經濟界亦沈衰炭況著しき變動を見ざりしも撫順、開平、山東等支那炭田の採掘増加、支那革命の餘波、其他の事情等は東洋市場の供給炭漸次需要に超過するの傾向を示し、需給調節の對策考究を

餘儀なくせられ茲に送炭調節の實行を見たるも、歐洲戰亂勃發し大正三年八月我が帝國亦同盟の誼により之れに参加するに至り事業漸く不振を來たし加ふるに外船の往來殆んど皆無の姿にして需要は益減少し二星霜の久しき繼續實施するに至りしが大正五年初春以來各種工業の勃興等により需要の増大を現出せしかば五年十一月之を撤廢せり。爾來數年間は所謂經濟界の黃金時代にして、各種工業所在に勃興し石炭鑛業界亦非常に活躍せしが九年初春財界一角の變調は漸次擴大して隨所に破産倒壞の悲劇を演じ我鑛業界も之れが影響を蒙り港頭貯炭逐月増加せしかば茲に全國一致の歩調の下に送炭調節の協定を遂げ十年五月以降繼續實施せしが、十三年十二月期限満了と共に一先づ廢止すること、なれり。尤も其間需給の關係に鑑み當初一割七分減とし十一月より四月迄一割二分五厘十一月十月よりは八分五厘減となせり。嗣つて炭坑の設備を見れば明治三十五年より四十年前後に至る六七十年の間に於ては、從來斜坑の時代なりしもの一進して將に堅坑の時代に入らんとする過渡の時代にして三十六年一月方城炭坑（三菱）の約一千尺に達すべき大堅坑を起行するあり。次で三十八年六月には伊田堅坑（三井）の約一千二百尺の見込を以て其工事を始むるあり製鐵所亦三十九年を以て約一千三百尺に達すべき中央堅坑の工事を起し各坑内外の設備既に竣工して斯業界の模範と仰がる、に至れり、斯業の前途は規模を大にし其事業を安全ならしむべく隆々として改善の機運に向ひつゝあり。殊に此の間數年に於て鑛夫の待遇上次第に改善する處あり労働者保護の目的を以て日用品の供給を便にし衛生及風紀上の取締を勵行し、共濟義會を設立し業務の勤勉を懸賞的に奨励し又は貯金方法を設くる等各炭坑概ね同一の歩調を採り且つ各種専門學校の出身者續々斯業に従事するに至り、技術及處務に關する炭坑經營上其面目を一新せしは斯業進歩の一徴として特に一言せざるを得ざる所なり。

若し夫れ労働法規に至りては當代に於て稍々完成し大正十五年七月より實施せられたもの、みにても甚だ多く第一に大正十二年の工場法中改正法律、この改正に伴ひて改正せられし工場法施行令及工場法施行規則と傭人扶助令、第二には大正十二年の工業労働者最低年齢法及び其施行規則、第三には大正十三年の鑛業法中改正法律、之れと不可分の關係を有する鑛夫勞務扶助規則、第四には健康保險法と其關係命令の一部、第五には治安警察法第十七條廢止に關する法律、第六には労働爭議調停法及其施行令等あり、實に大正の末代十五年は労働立法史上一新紀元を劃する年である。左に本期間の石炭業に關する出來事を列記して参考に資すべし。

重要事項年表

- 明治四十年 五月戸畑海岸に「ホイスト・クレーン」一臺を増設し運轉を開始す。◎七月十五日筑豊石炭鑛業組合にて買ひ入れたる救助器使用の第一回練習會を開く以來毎月數回開催進行す。
- 大正元年 九月堀三太郎御徳海軍炭山の拂下を受く。◎九月小松炭坑々々内浸水し二十四名の變死者を生ず。
- 同 二年 二月製鐵所二瀬出張所中央堅坑瓦斯爆發の爲め一百一名の變死者を生ず。
- 同 三年 五月伊藤傳右衛門其所有各炭坑を提議し古河虎之助と大正鑛業株式會社を組織す。◎五月より各地探炭制限實施せらる、組合炭山も亦制限を實施す。◎六月金谷炭坑々々外より浸水し死者六十三名を生ず。◎十二月方城炭坑瓦斯爆發の爲め六百六十八名の變死者を生じ御救恤金の下賜あり侍從日根野要吉郎を差遣せらる。◎十二月方城炭坑瓦斯參考 八月日獨國交斷絶青島攻圍開始せらる。◎十一月北海道若鍋炭坑瓦斯爆發の爲め四百二十三名の變死者を生ず。
- 同 四年 一月以來起工中の安全燈試驗場初夏の候に至り竣成す。◎十二月農商務省令第二十五號にて石炭坑爆發取締規則發布せらる。
- 參考 二月支那山東炭坑瓦斯爆發し坑夫八百餘名慘死す。◎四月東見初炭坑浸水の爲め變死者三百三名を生ず

- 大正五年 五月本組合より遠賀川改修工事費へ更に金貳萬千八百圓を寄附す。○八月農商務省令第二十一號にて礦夫勞役扶助規則同省令第二十二號にて鑛業警察規則布かる。○十一月一日より組合炭山の採炭制限を撤廢す。
参考 四月撫順炭坑大山、東郷兩坑發火す。○九月以來虎疫流行、船舶の入港減少し運炭の困難を來せり。
- 同 六年 二月當組合と福岡鑛務署との共同經營に係る安全燈試驗場を石炭坑爆發豫防調査所と改稱し爆發試驗をも行ふことす。○十二月本組合は創設費概算拾貳萬圓を投じ鞍手郡頓野村西尾（現直方市頓野）に地を卜して筑豐鑛山學校の設立を決議す（詳細は組合事業成績中にあり）。桐野炭坑瓦斯爆發の爲め三百六十九名の變死者を出し御救恤金の下賜あり侍從日根野要吉郎を差遣せらる。
- 同 七年 三月當組合より田川郡立中學校へ金參萬圓を寄附す。○四月中鶴炭坑瓦斯爆發の爲め三十名の變死者を出す。○五月遠賀川改修工事竣成式舉行さる。○五月當組合及び若松石炭商同業組合は其共有金中より建築費拾六萬圓を投じて公會堂を建築し九年十一月竣工若松市へ寄附す。○六月麻生太吉株式會社麻生商店を組織す。○米價暴騰の爲め全國各地に暴動勃發し延いて組合炭山中に二三不穩の兆候ありしも日ならずして鎮靜す。○十月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より壹萬五千圓を支出して第十二師團西比利亞出征軍人に慰問袋を寄附す。○十二月警察電話架設費として金壹萬貳千圓を福岡縣に寄附す。
- 同 八年 二月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より六萬圓を市立若松中學校に寄附す。○三月二十六日麻生太吉筑豐石炭鑛業組合總長を辭任し後任として松本健次郎就任す。○五月炭券（採炭切符）使用を禁止すべき旨福岡鑛務署より各坑へ達あり。○七月大正九年度に於て鞍手中學校に金壹萬貳千圓を寄附することに決す。○十月米國華盛頓府に於て第一回國際勞働會議開催され本邦選出委員も列席す。
- 同 九年 一月當組合より福岡工業博覽會に金壹萬圓を寄附す。

- 同 十年 五月全國工業家協定の下に送炭調節を實施し引續き十三年末に及ぶ。○十月石炭鑛業聯合會成立し事務所を東京市麴町區丸の内日本工業俱樂部内に置く。
- 同 十一年 四月法律第七十號を以て健康保險法公布せらる。○八月當組合水運部解散。○瑞西セネガアに於て國際勞働會議開催本邦委員出席後毎年出席す。
参考 十月支那開採炭坑に同盟罷業ありしも月餘にして鎮靜す。
- 同 十二年 三月法律第三十四號にて工業勞働者最低年齡法發布さる。○九月關東方面に大震災あり當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より金五萬圓を義捐す。
- 同 十三年 七月法律第二十二號にて鑛業法第八十條改正さる。○十月勞働統計實地調査行はる。○十二月去る十年五月より實施せる送炭調節を廢止す。○同月内務省令第三十六號を以て勞働者募集取締令布かる。
参考 一月北海道歌志内坂炭鑛に瓦斯爆發あり變死者七十七人を出す。○八月福島縣入山炭鑛變災あり死者七十五名を出す。
- 同 十四年 四月福岡縣令第二十四號を以て勞働者募集取締令、同施行細則及同上の取扱心得發布せらる。○同月二十六日當組合主催液體酸素爆發實驗を鞍手郡直方町石炭坑爆發豫防調査所及び鞍手中學校々庭にて行ふ。

第六節 昭和時代の石炭鑛業

（自大正十五年至昭和六年）

大正九年來の經濟界の不況は昭和となるも一向恢復の曙光だに見えざるのみか漸次深刻味を加へ殊に昭和五年に入りては金輸出解禁、支那の銀相場低落、印度に於ける綿布關稅引上げ等の惡材料の影響を受けて一層沈衰の度を増し全く逆轉すべ

からざるものあり、されば之が対策として我石炭鑛業界に於ては去る大正十五年度より引續き送炭調節を勵行して之に備ふると同時に一方産業の合理化に向つて鋭意調査研究を怠らず、仍ち各坑は坑内外作業の機械化又は改善を行ひ坑木の取引にメートル法を採用して取引の簡明及節約を期し、當組合は炭坑用品規格調査委員會を設けて先づ最も普遍的なる炭車の規格統一を圖れり。若し夫れ病災害の防止、無駄排除、能率増進等については日本鑛山協會、縣鑛工聯合會、縣能率協會、協調會と協力して、講演講習會、ホスター、文書により之が徹底を期し、特に能率増進に對しては成績優良の炭坑當務者を煩して講演並に質疑につき應答を乞ひ各坑の参考に供する等百方合理的方法を以て生産費の低減を圖りつゝあり。左に本期間中の石炭鑛業に關係ある重なる事項を掲げん。

重要事項年表

大正五年 一月より全國一齊に送炭調節を實行す ○四月法律第五十七號を以て勞働爭議調停法、六月勅令第九十六號を以て同法施行令布かる ○四月法律第六十號を以て暴力行為等處罰に關する法律發布せらる ○六月鑛山及工場相互の連絡を圖り鑛夫職工の表彰申慰を行ひ其他諸般の講究を爲し事業の進歩發展を期する目的を以て福岡縣鑛工聯合會成立す ○六月勅令第二百四十三號を以て健康保險法施行令布かる ○六月内務省令第十七號を以て鑛夫勞務扶助規則中一部改正さる ○六月内務省令第十四號を以て工業勞働者最低年齢法施行規則發布あり ○七月内務省令第三十六號を以て健康保險法施行規則布かる ○十二月松本健次郎、中野昇等嘉穗鑛業株式會社を創立し嘉穗炭礦を開掘す。

昭和二年 参考 三月福島縣磐城炭礦町田坑に變災あり死者百三十四名を出す ○七月鑛山に於ける災害の防止、衛生状態の改善並に能率の増進を圖る目的を以て社團法人日本鑛山協會成立す ○十二月北海道美唄鑛山に變災あり死者三十九名を出す。

同 三年 一月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より三萬圓を戸畑市公會堂建築費へ寄附す ○五月同共有金より二萬圓を若松市海員兒童合宿所建設費へ寄附す ○七月福岡縣能率協會成立す ○九月田澤義輔氏を聘し思想善導の爲め炭坑巡回講演並に直方、飯塚、後藤寺に於て講演會を開く。

同 四年 四月東北大學助教理學士長尾巧氏に委嘱し數年來調査作成中の筑豊炭田地質圖完成す ○商工省令第二十號を以て鑛業調査規則布かれ同年十二月一日より施行さる ○五月麻生大吉等九州鑛業株式會社を創立し帝國炭業株式會社の木屋ノ瀬、起行小松兩坑の事業を繼承す ○六月内務省令第二十五號を以て鑛夫勞務扶助規則の一部改正さる ○十月萬國工業會議東京市に於て開催さる ○十二月商工省令第二十一號を以て鑛業警察規則改正、同省令第二十二號を以て石炭坑爆發取締規則改正各五年一月一日より實施する ○十二月三井山野三坑に變災あり死者三十五名を出す。

同 五年 三月戸畑炭積機使用汽船積石炭取扱手續改正さる ○四月一日より鐵道省メートル法採用運賃改正さる ○五月「炭坑の保安」(災害防止を目的とする叢集四月筑豊炭の液化研究を明治專門學校教授栗原博士に委嘱す ○五月「炭坑の保安」(災害防止を目的とする叢集四年四回發行)第一號を發刊す ○七月法律第六十五號を以て鑛業法の一部(鑛業税)改正さる (昭和七年十一月十一日勅令第三五二號を以て昭和七年分の鑛業税及之に對する附加税より施行さる) ○八月小林勇平新手段炭坑を開き送炭を開始す、同月貝島鑛業會社と大辻岩屋炭礦會社と合併貝島炭礦株式會社と改稱す ○八月若松港沖仲仕の總罷業起りしも旬日ならずして解決す ○九月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より三萬圓を若松公立病院改築費に寄附す。

参考 一月直方町に市制を施行○四月全國産業團體聯合會成立す ○六月西部産業團體聯合會成立す ○七月
軍部に於ては關門北九州の重要産業地帯並に筑豊炭田の一部を地域として防空演習を舉行さる。 ○七月
同 七年 六月日本鑛山協會にては年五回の豫定にて「鑛山俱樂部」(災害防止叢集)を創刊す、之れと目的を同ふること
となりたるを以て當組合發刊の「炭坑の保安」は三月第四號限り廢刊す。

参考 一月二十日飯塚町に市制を施行 ○八月北海道空知礦瓦斯爆發死者五十七名を出す ○十一月二十六日
内地石炭販賣統制の爲め昭和石炭株式會社(資本金五百萬圓、四分の一拂込)創立され八年一月一日より營業
開始す。

第二章 炭田

筑豊炭田は筑前の遠賀、鞍手、嘉穂三郡及び豊前の田川郡に跨れる本邦最樞要の産炭區域にして遠賀川及其支流に沿へる
低地を占め北々西方より南々東方に亘り延長約十二里東西の幅員三里より七里に達し大凡五十一平方里の面積を占む、炭田
の地形は狭長なる盆地をなせる波浪狀の丘陵にして總して高さ三十米乃至六十米なるも南方及び北西方に於て百二十米乃至
百五十米に達する所あり、盆地の東西兩側は高さ三百米乃至六百米の山岳地にして東側に福知山麓西側に弘大寺及三郡兩山
脈あり盆地の中央部にも是と併走する六ヶ嶽、金國山脈並に飯塚の東方を走れる山地あり爲めに炭田は北方にありては二區
域に南方にありては三區域に分たる。

筑豊炭田の基盤及四圍の山岳地を構成する地層は南方に古生層北方に中生層あり 其走向は筑紫山脈の方向に倣つて東北東
方より西南西方を示し急傾斜の褶曲によつて著しく變動するのみならず花崗岩、閃綠岩、蛇紋岩等の火成岩の爲めに貫かれ
激甚なる接觸變質を受く、此外北方に粉岩あり 南北に噴出せる玄武岩及安山岩は第三期層及炭層を貫き屢々岩床狀をなす所
謂「ごん」と稱するもの是なり。

挟炭層は基盤炭層の走向と直交し北々西方より南々東方に走り概して東方十度乃至二十度に緩傾斜せる單斜構造を呈すと
雖も炭田各區域の東側に近づけば地層は反對に西方に急傾斜し茲に非對稱的の向斜構造を呈するを常とす。

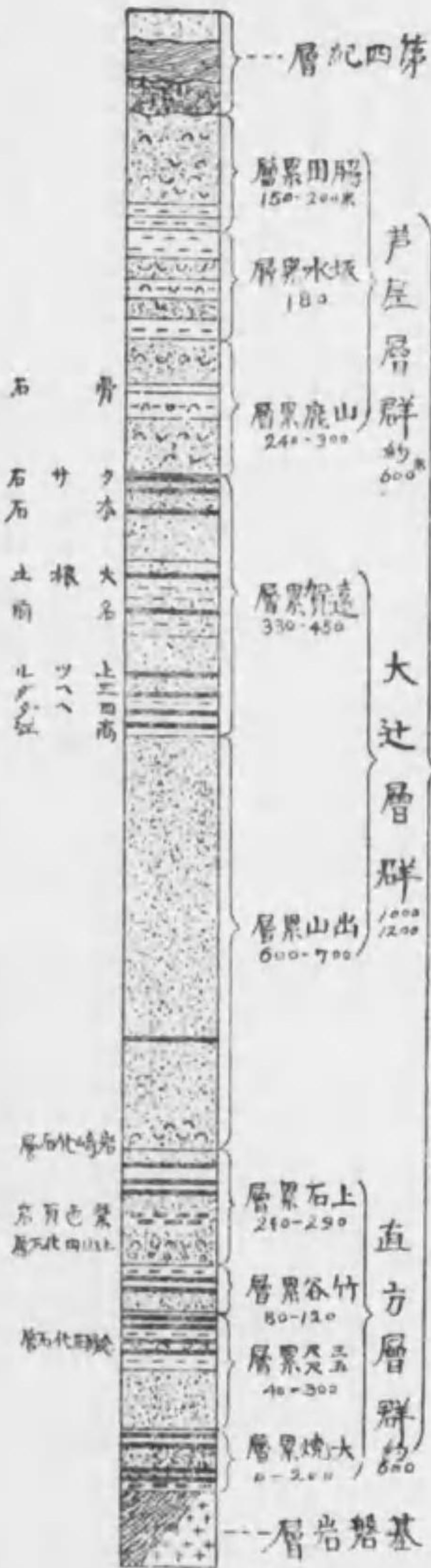
斷層は地層の一般傾斜と反對に西方に急斜せる階段斷層顯著にして所謂深上り斷層をなし深部の炭層は爲めに其位置を轉
じて屢々地表に近く其露頭を現はすに至る。

挟炭層は砂岩、頁岩及變岩の互層にして之に石炭層を夾めり、矢部、長尾兩博士は挟炭層を分つて直方層群(大燒累層、

三尺五尺累層即ち本層群、竹谷累層、上石累層) 大辻層群(出山累層、遠賀累層) 蘆屋層群(山鹿累層、坂水累層、脇田累層)の三層群九累層となし之に含有する炭層の位置は柱狀圖に示すが如し。

筑豊炭田地層柱狀圖

古第三紀層



挾炭層は之に含有する化石の證左によつて古第三紀層に屬し晚新紀層及至始新紀層たる事又上下を通じ整合的に重疊する事、直方、大辻兩層群は淡水又は牛鹹、牛淡水中に蘆屋層群は海水中に堆積せる地層たる事等明となれり、岩石の特徴とする所は直方層群には紫色頁岩及石炭層あり、出山累層には厚き礫岩層あり、遠賀累層には凝灰質頁岩と石炭層あり、蘆屋層

群には綠色砂岩と海成化石あり、石炭層は厚薄總てを算すれば數十に達す可く直方層群に四累層をなし其中主要なるもの十五乃至二十層を遠賀累層に七層を算す其厚さ二尺乃至六尺時に十五尺に達す。

直方層群中最下に在るを大燒累層と稱し第三紀層の基底をなせる古期岩石に接し直立約三百五六十尺の間に十六枚の炭層を有す。最下の砂境層と稱するものは基底岩より隔るゝに僅に十數尺なり、此累層の最上部をなす大燒層の上方約百三十四尺にして本層群あり、最重要なる炭層を有し(約二百尺の間に十枚乃至十五枚の炭層を有す)三尺層及び五尺層は殊に著名にして此累層を一名三五尺累層と稱す、此累層の最上層をなす明治山張層の上約二百七十尺にして竹谷累層あり、平均百六十尺の間に三枚乃至五枚の炭層を藏す、其上三百七八十尺を隔て、約百三十尺間に二三枚の炭層を有する上石累層あり、竹谷累層及び上石累層中の或る炭層は室木線地方及嘉穂郡南部に良好の發達をなせり、上石累層の上方は暫く石炭を欠き遠く約二千六百尺を隔て、遠賀累層あり、直方層群の各累層に於て炭層非常に密接して存するに反し此累層に在りては其存在疎らにして十枚の炭層は約千百尺の間に散布せり、第三紀層の基底面より遠賀累層の最上層なる臭石に至る總ての炭層及岩層の厚さは約五千五百尺に達す、尙第三紀層は臭石層の上蘆屋層群となりて厚く重疊すると雖今日まで未だ石炭層の發見せられたるものなし。

遠賀累層は遠賀郡の東部と鞍手郡の一部とに跨り遠賀川の東邊にあり北方山鹿より折尾中間香月地方鞍手郡木屋瀬町の東方及び上頓野に亘る一帯の地にある炭坑は此累層に屬する炭層を採掘するものなり十餘の炭層の内高江層、三尺層、五尺層等は其主なるものなり。

上石累層竹谷累層本層群及び大燒累層は互に相接近し遠賀郡の西部と廣く鞍手、田川、嘉穂郡の各地に現はれ地體の斷裂の爲め數帯をなす、直方の北方及び東南の地方より田川郡内の各地に群集せる數多の炭坑は最東列の諸炭層を採掘せり、九州本線の海老津驛附近の炭坑及び西川筋即ち室木線に沿へる諸炭坑、桐野小竹驛間鯉田驛附近、山野漆生線に沿へる諸炭坑

及び大隈下山田上山田驛地方のものは前者の西に並走せる諸炭層を採掘せり、又飯塚市の附近及び飯塚白井驛間の諸炭坑は西列の炭層を採掘せり、製鐵所の二瀬炭坑は此列中にあり、長尾驛附近及大分地方の炭層は別に各一區域をなす。

石炭の名稱は或は炭層の厚さにより三尺炭五尺炭八尺炭等と呼ぶことあり或は其性状により臭石炭、角石、縮縮等と呼ぶことあり、或は又遠賀炭、田川炭等と地方名を冠することあり或は炭坑名を以てすることあり、然れば同名の石炭と雖も炭坑の異なるに従ひ炭層を異にすることあり、或は又同じ層の石炭にても炭坑又地方により其名稱を異にすることあり、本層群の三尺炭は新入坑にては五尺炭と云ひ明治炭坑にては三尺炭豊國炭にては八尺炭、三井田川鐵業所にては田川八尺炭と云ふが如し。

炭層の數多きに従ひ炭質も亦種々にして船舶用、機關車用、汽罐用、瓦斯用、骸炭製造用等一として産せざるはなし、普通の瀝青炭の外に炭層中に突入したる火山岩の高熱の爲め石炭より化成したる燧石及無煙炭なるものあり共に炭種の天然骸炭にして燧石は熱するに従ひ爆碎するの性ありて石灰焼、セメント製造等に歡迎せらる、無煙と稱するは眞の無煙炭に屬する炭種には非ざるも火山岩と接觸の爲に著しく揮發分を喪失し煙少なく臭臭なきを特徴として家庭用として用ゆるも亦可なり。筑豊炭田に存する大小炭坑の數は殆ど百を算し炭田の全部を蓋ふが如しと雖も炭坑位置略圖に明なるが如く炭田中未だ燧石を立てざる所少なからず之に加ふるに採掘の猶治れからざる區域の存するあり諸工業の旺盛に伴ひ供給多々益辨す云ふべきなり。

第三章 鑛産額 附筑豊石炭採掘鑛區

第一節に於て先づ昭和六年中の筑豊炭鑛々別産額並に昭和七年七月一日現在の筑豊石炭採掘鑛區全部を掲げて其の採掘、未採掘を示し、第二節以下に全国各地の鑛別産額を掲げて石炭分布の状態を明にし、末節に於て全國及筑豊炭鑛の累年産額を記して參考に供することとせり。

第一節 筑豊炭鑛々別産額並ニ筑豊石炭採掘鑛區 (昭和七年七月一日現在)

(製鐵所々屬炭鑛ヲ含ム)

遠賀郡

鑛名	昭和六年産額	登録番號	町村名	坪數	鑛業權者	住 所
中 鑛	四〇六、〇五二	一三五	中間外五	一、九九九、六二二	大正鑛業株式會社	福岡縣遠賀郡中間町中間
大 辻	三六、三〇二	七〇〇	香月外三	一、〇五一、九八九	貝島炭礦株式會社	下關市唐戸町二
高 松	二〇八、一五二	一三三	水巻外二	六五七、五〇〇	三好鑛業株式會社	福岡縣遠賀郡折尾町折尾
岩 崎	九一、七八四	二四二	中間外二	一三三、一三九	岩崎伴次郎	福岡縣遠賀郡中間町中間

第三章 鑛産額

第一節 筑豊炭鑛々別産額並ニ筑豊石炭採掘鑛區

第三章 鑛產類

第一節 筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年産額	登錄番號	町村名	坪數	鑛業權者	住 所
深 坂	七六、〇八三	二〇八七	中間外一	五三四、四三七 五三八、八四八	岩崎壽喜藏	福岡縣遠賀郡中間町中間
大 君	七四、三八六	四七〇	水卷外二	六九、三三三 五六〇、五四六 四八二、〇七六	大君鑛業株式會社	福岡縣遠賀郡折尾町折尾
海 老 津	六〇、三〇一	二〇五五	岡垣外一	一、〇七、四〇〇	海老津炭鑛株式會社	福岡縣遠賀郡香月町楠橋
高 尾	五二、〇六〇	二二四	水卷外二	二、三五、二七〇	三好鑛業株式會社	福岡縣遠賀郡香月町楠橋
大 限	五八、三四四	一九二	香月外二	九三、三五五	大限鑛業株式會社	福岡縣遠賀郡中間町
新 手	三六、一五七	二〇三七	中 間	三七八、六三五	小林 勇 平	福岡縣遠賀郡中間町
新 江 手	一九、二〇五	二二七五	香月外一	五六、一七〇	合資會社 高江炭坑	福岡縣香月町馬場山
岸 本	二四六	二二三	香 月	一四四、一七七	金 丸 勘 吉	福岡縣遠賀郡香月町楠橋
未 探 掘	三五	一〇八	島門外一	五五、九六六	永井浦一 外一	福岡縣遠賀郡山田町下山田
同		一九	遠 賀	四五、三〇〇	武 內 禮 藏	福岡縣遠賀郡香月町楠橋
同		三六	香月外一	六二、五五〇	安 田 森 吉	福岡縣若松市古前町
同		一三七	岡 垣	二〇、〇八六	吉 田 磯 吉	福岡縣若松市連歌町一丁目
同		一四〇	底井野	一三〇、三六〇	堂 垣 内 萬 吉	廣島縣佐伯郡大竹町大竹
同		四四四	上津役外一	一三、一〇〇	大正鑛業株式會社	前
同		四四四	芦 屋	一八二、三七七	大君鑛業株式會社	前

同 同

第三章 鑛産類

第一節 筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年産額	登錄番號	町村名	坪數	鑛業權者	住 所
香月外一	四三、四三七	四五六	香月外一	四三、四三七	佐藤慶太郎	福岡縣若松市安政町一丁目
上津役外一	七三、五〇五	五二五	上津役外一	七三、五〇五	大正鑛業株式會社	前
水 卷	一一、〇〇〇	六三七	水 卷	一一、〇〇〇	佐藤慶太郎	前
底井野	二七、〇三八	七七八	底井野	二七、〇三八	岡崎共同株式會社	大阪市西區南堀江
岡 垣	八五、三五〇	七六三	岡 垣	八五、三五〇	武 內 禮 藏	前
香 月	九〇、〇〇〇	七八二	香 月	九〇、〇〇〇	木 原 靜 子	福岡縣若松市古前町
水 卷	一一、五六五	八〇二	水 卷	一一、五六五	佐藤慶太郎	前
岡 垣	三三、六三三	八〇九	岡 垣	三三、六三三	坂 田 茂 登	福岡縣久留米市洗町
遠賀外二	七四、八三六	八三三	遠賀外二	七四、八三六	唯井六次郎	神戸市中山手通四丁目
遠 賀	二五、二一五	八六〇	遠 賀	二五、二一五	株式會社 麻生商店	飯塚市立岩
折 尾	九三、〇〇〇	九四四	折 尾	九三、〇〇〇	日本鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
香月外一	五、〇〇〇	九二二	香月外一	五、〇〇〇	貝島炭鑛株式會社	下關市唐戸町二
芦 屋	二四、六八七	九三三	芦 屋	二四、六八七	株式會社 麻生商店	前
遠 賀	一七、四三九	九三九	遠 賀	一七、四三九	南 川 マ ス ヨ	福岡市西方寺前町
同	三八、〇二二	九五一	同	三八、〇二二	株式會社 麻生商店	前
同	四六、八五三	九五二	同	四六、八五三	大浦寛次郎	香川縣木田郡屋島村西湯村
同	三五、六五八	一〇三二	同	三五、六五八	株式會社 麻生商店	前
同	三二、五〇〇	一〇三六	同	三二、五〇〇	岩崎鶴龜	福岡縣遠賀郡中間町中間

第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住所
未探掘		一〇四九	岡垣	七九三、〇〇〇	中島德松	福岡縣糟屋郡宇美町昭和鑛業所
同		一〇五五	同	七九、五六五	廣海二三郎	大阪市西區江ノ子島東之町
同		一〇六七	島門外一	六〇〇、〇〇〇	株式會社麻生商店	前
同		一〇八九	島門外一	三三、〇〇〇	林友憲外一	大阪市南區天王寺眞法院町
同		一一三三	水卷外一	三三三、〇二八	三好鑛業株式會社	前
同		一一三六	中間	一八三、八七八	岩崎壽喜藏	前
同		一二七四	香月外一	六、四三三	金丸勘吉	前
同		一二七六	香月外四	一、二六一、三三三	三菱鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
同		二八八	水卷外一	一八、七〇〇	大君鑛業株式會社	前
同		二九二	遠賀	三三、四三六	株式會社麻生商店	前
同		三三四	折尾外三	三三、四三九	大正鑛業株式會社	前
同		一三六	中間外一	五〇、八〇〇	後藤清一	福岡縣遠賀郡折尾町折尾
同		一三七	遠賀	八六、五六二	三好德行	福岡縣遠賀郡折尾町折尾
計	一、三三八、〇三三			三三、四八四、〇九三		

鞍手郡及直方市

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住所
大之浦	九七、七〇一	二五八	宮田外三	五、二七一、六七〇	貝島炭礦株式會社	下關市唐戸町二
新入	三三、〇九七	一一四〇	植木外六	二、四六五、六六五	三菱鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
木屋瀨	一六、五六八	一一四二	木屋瀨外二	四、五二七、〇七五	九州鑛業株式會社	飯塚市立岩
古河目尾	一三、一四六	一一六八	小竹外四	一、二七一、九四七	古河鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
三笠	二五、四九八	一一二六	西川外一	六、一九、三四七	株式會社三笠商會	福岡縣若松市本町一丁目
泉水	二五、四三八	一一二七	西川外一	四、七八、五四六	木戸正三	小倉市寶町
香ノ浦	三三、六六三	一一二八	西川外二	六、九二、一〇〇	藤井與三郎	直方市山部
新目尾	三三、二八七	一一二九	西川外一	二、七三、四七三	前田幸一外一	福岡縣若松市山手通五丁目
旭成	一七、九六五	一一三〇	西川外一	七、六三、七二三	高井泰次郎	福岡縣若松市
大成	一四、八九〇	一一三一	西川	二、七八、九五〇	藤井伊藏外一	福岡縣若松市山手通五丁目
小竹	一四、三三二	一一三二	小竹外一	三、〇〇、九五四	青柳治太郎	福岡縣鞍手郡小竹町小竹
新高江	一三、八二四	一一三三	直方	一、七〇、五〇〇	松尾三藏	福岡縣遠賀郡香月町香月

第三章 鑛產額

第一節

筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

第三章 鑛產類 第一節 筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區 三〇

鑛名	昭和六年 産額	登録 番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
第二御徳	四、四二一	二二〇	小竹	七、三〇〇	山田竹之助 外一	三重縣阿山郡上野町
本入	九〇	八九〇	小竹	一五、〇〇〇	長網好富	上野丸ノ内
百立	七三	二二二	西川	七、四〇三	小久保國夫	下關市入江町
南御徳	一八	一〇三三	小竹外一	一五、三〇〇	野見山音平 外一	福岡縣宗像郡神湊町神湊
第二庄司	二三	八三八	小竹	四、五八	和田京吉 外二	福岡縣嘉穂郡二瀬村片島
未採掘		二七	西川	四、八三二	堤安	福岡縣嘉穂郡東脊振村石動
		四	木屋瀬外一	六、三三〇	株式會社中野商店	佐賀縣神埼郡東脊振村石動
		四	木屋瀬外一	一八、一九一	同	福岡縣嘉穂郡二瀬村川津
		一〇二	宮田	一三、八三七	貝島炭礦株式會社	同
		二二九	木屋瀬外一	九、六四〇	三菱鑛業株式會社	前
		一三〇	木屋瀬	一、〇三三	株式會社中野商店	前
		三三	直方市	二九、七二六	三菱鑛業株式會社	前
		二七八	木屋瀬	一七、二八	株式會社中野商店	前
		二八四	西川	一五、八八	佐藤慶太郎	福岡縣若松市安政町一丁目
		三〇八	小竹	五、七七七	太田儀作	福岡縣京都郡行橋町大橋
		三三二	宮田	二六、四六〇	芦立文助	東京府荏原郡荏原町上蛇窪

第三章 鑛產類 第一節 筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區 三一

鑛名	昭和六年 産額	登録 番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
同		四八二	直方市	一〇〇、三三七	篠崎貞次郎 外三	福岡縣嘉穂郡穗波村天道
同		五三六	笠松	九、六〇〇	井上商事會資會社	福岡縣鞍手郡西川村八尋
同		六三三	直方外二	三、一五、六四四	三井鑛山株式會社	東京市日本橋區駿河町
同		六四九	直方	五、七、三四	同	同
同		六五九	宮田	二〇四、九七七	仰木七太郎	福岡縣遠賀郡中間町中間
同		六七八	小竹外一	三、三、四四	長網好富	前
同		六九三	直方	六、四八〇	森與三松	直方市直方
同		六九六	直方外一	六、七、四〇	三井鑛山株式會社	前
同		七三三	小竹	一三六、八〇〇	山田留次郎	大阪市東區
同		七三九	直方	三、一、八七五	株式會社中野商店	北久太郎町一丁目
同		七五三	直方	二、八、五三	三菱鑛業株式會社	前
同		七五七	宮田外一	一、九三、五九六	勝部行一	鹿兒島市下荒田町
同		七五七	宮田	五、三、三三	株式會社中野商店	前
同		七七二	古月外一	五〇、七〇〇	宮川謙一	福岡縣若松市本町三丁目
同		八〇三	宮田	六、八、三〇	和邊繁	福岡縣嘉穂郡西村潤野
同		八〇三	直方	一〇、一、八〇	寶邊直之	福岡縣若松市本町三丁目
同		八三三	西川	二、四、二五〇	江島安人	直方市須崎町
同		九七九	宮田	六〇、二、四二	小野七郎	大分縣速見郡上村久木野屋

第三章 鑛產額 第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住所
未探掘		九九五	小竹	二五、七六四	太田儀作	福岡縣京都郡行橋町大橋前
同		一〇〇一	笠松	九七、六〇〇	株式會社三笠商會	大阪府西區新町南通一丁目
同		一〇〇二	宮田	一七〇、五〇〇	濱口彦太郎	福岡縣荒戶町二丁目
同		一〇三三	同	二五、三〇六	小森牛次	福岡縣遠賀郡青屋町山鹿
同		一〇三七	直方	八二、三六〇	田中新外一	京都府加佐郡新舞鶴町濱
同		二〇一	西川	一四、三九九	井上鑛業合資會社	福岡縣鞍手郡植木町
同		二二二	笠松外一	三九、四〇〇	松本亭造	前
同		二九〇	笠松外一	六、四五二	宮川謙一郎	前
同		二三八	小竹	五〇、三〇〇	明治鑛業株式會社	戶畑市戶畑
同		二二九	直方	六八、〇〇〇	大森官次郎外三	直方市頓野
計	一、七四、六六五			二七、七二、五八〇		

嘉穗郡及飯塚市

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	町村名	坪數	鑛業權者	住所
三井山野	四六八、六八三	二〇九	山田外三	一八三、七五四	三井鑛山株式會社	東京市日本橋區駿河町
飯塚	四三、五〇〇	二二〇	穗波外三	一、六九三、〇〇〇	飯塚鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
住友忠隈	三九一、四七二	七八八	穗波外二	一、四三九、三五七	住友炭礦株式會社	大阪府東區北濱五丁目
芳雄	二五五、六五七	二七〇	稻築外二	一、九二一、八二〇	株式會社麻生商店	飯塚市立岩
網分	二四六、四九八	二二二	庄内	一、三八一、九三六	同	同
上山田	二三四、四六五	三四一	山田外二	三九三、五五〇	三菱鑛業株式會社	前
古河下山田	一八二、二七三	二〇五	山田	五九三、七八〇	古河鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
吉隈	一八〇、三六三	二〇六	山田	八九四、九六五	株式會社麻生商店	前
嘉穗	一七、一七三	二二二	桂川外四	二、二二三、〇三六	株式會社麻生商店	前
山田	一五五、〇五六	二一六	大分外一	一、五四九、七二〇	嘉穗鑛業株式會社	戶畑市戶畑
稻築	二九、一五〇	二五三	山田外一	一、一五八、八八四	野上鑛業合資會社	直方市直方
明治	二〇、四五二	一	大限外一	三六六、三九九	商工省	戶畑市戶畑
漆生	一〇五、五六六	二二七	颯田外四	二、六六八、一四四	明治鑛業株式會社	戶畑市戶畑
豆田	八二、六三三	三六二	稻築外二	三〇五、四七三	久恒鑛業株式會社	福岡縣嘉穗郡大隈町牛隈
		九三五	上穗波外一	一三六、〇三九	株式會社麻生商店	前
		一〇四八		一〇九、三一九		
		二五七		九三、四三五		

第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

第三章 鑛產額

第一節 筑豊炭鑛々別産額並ニ筑豊石炭採掘鑛區

三四

鑛名	昭和六年産額	登録番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
上 山	五七、七七八	一六六	山田外一	五四五、五二六 二六六、五三七 二八、二〇〇 一四、三二九	橋 上 保	福岡縣嘉穂郡山田町上山田
安 倍	四一、四〇九	一三六	山 田	二四、五五〇	野上鑛業合資會社	前
日 吉	三四、一三三	一〇九七	山田外二	九一、三三五 五二、七四〇	共同石炭株式會社 外一	福岡縣築上郡宇島町宇島
大 和	三二、四三五	一三九	山 田	四四、六七二 五三、六四八	小 島 治 平	神戶市葦合磯上通七丁目
筑 西	二七、三三〇	一一九	鎮西外一	八一、四五四 三二、三五九	坂 木 忠 雄	佐 世 保 市 花園町
支 王	一六、六二六	一一〇	山 田	一八一、二九四	橋 本 信 次 郎	東京市京橋區築地二丁目
支 新	一四、九〇九	一一七	同 田	五八、九九二	田龍鑛業株式會社 外一	福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈
支 三	一一、三六三	一一五	同 田	三四八、一五五 一九九、五五三	中 島 德 松	福岡市 極樂寺町
相 田	一一、〇一五	六九七	二 瀨	二九九、二六〇 五五、八三五	秋 山 長 三 郎	福岡縣鞍手郡木屋瀨町野面
庄 司	七、四三五	四四三	幸 袋	二六、五〇〇 五、〇〇〇	古 野 春 吉 外 二	福岡縣嘉穂郡幸袋町中
本 大 城	四、九九六	一八四	額 田	一〇二、九七〇	合資會社大橋商會	門司市門司東本町二丁目

鑛名	昭和六年産額	登録番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
猪ノ鼻	三、〇三三	一一八	山 田	三九、六八一	久 恒 貞 雄	中 津 市 上 宮 永
大 山	一、〇〇〇	一〇〇	上穂波外一	一一、四三〇	西 山 六 郎 助	福岡縣嘉穂郡桂川村豆田
額 田	八八	七六二	額 田	二二、八八九	木 戸 正 三	小 倉 市 寶 町
吉 野	六八	一〇	同 外一	二二、八六七	日 高 房 次 郎	福岡縣田川郡上野村市場
白 岩	三五	一〇四	大隈外一	二四、五八五	古 賀 清 吾 外 四	直 方 市 下 境
小 富 士	八八	一五三	額 田	四三、九九六	横 尾 萬 吉	嘉 穂 郡 額 田 村
第一上目尾	三元	七	幸 袋	六、一六〇	野 見 山 平 吉	福岡縣嘉穂郡幸袋町目尾
第二寶滿	毛	一〇八〇	穗 波	七、五六七	佐 伯 武 市	福岡縣嘉穂郡穗波村樂市
未 探 掘	毛	五	穗 波	六、九三三	株式會社麻生商店	前
同	毛	九	千手外一	一四、二〇〇	新野新太郎外一	福岡縣嘉穂郡大隈町貞月
同	毛	四	山 田	一〇五、八三三	兒 島 完 一 外 一	福 岡 市 養 巴 町
同	毛	三	幸 袋	六五、九二四	野 見 山 平 吉	前
同	毛	二	飯 塚	二九四、七二四	株式會社麻生商店	前
同	毛	一	桂 川	三三八、五九九	齋 藤 株 式 會 社	宮 城 縣 桃 生 郡 前 谷 地 村 前 谷 地
同	毛	〇	上 穂 波	六四〇、二六七	日本鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
同	毛	〇	大 分	六六、五〇〇	同	同
同	毛	〇	上穂波外一	七四、〇九八	同	同

第三章 鑛産額

第一節

筑豊炭鑛々別産額並ニ筑豊石炭採掘鑛區

三五



第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
未探掘		九	幸袋	三九、一三	松本作次外一	福岡縣嘉穗郡穗波村平恒
同		二二	山田外一	二六、一九七	株式會社麻生商店	前
同		三三	穗波外一	二〇、五九九	株式會社中野商店	福岡縣嘉穗郡二瀬村川津
同		二六	穗波	一六七、七九〇	同	同
同		二九	山田	四三、四二四	田籠鑛業株式會社	前
同		三六	唯井	三六、二八三	株式會社麻生商店	前
同		三六	上穗波	七六、五三〇	榑原喜代治郎	愛知縣縣東端中村
同		三三	桂川	一五七、五〇〇	久家喜七郎	福岡縣嘉穗郡千手村九郎原
同		四〇	飯塚	一六、八三〇	株式會社麻生商店	前
同		四〇	大隈	八、七九	上村加久治	小倉市足原
同		四九	桂川	三、三六七	株式會社麻生商店	前
同		四六	飯塚	五、七〇〇	松本作次外一	前
同		四七	大隈	四三、三七	久恒貞雄	前
同		四八	唯井	三、四八五	橋本謹爾	下關市丸山町
同		四九	碩田	八六、〇〇八	土肥暉雄	廣島縣比婆郡西城町西城
同		五三	唯井外一	一四七、九六〇	佐藤慶太郎	福岡縣若松市安政町一丁目

鑛名	昭和六年	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
同		五五	唯井	一五、〇三三	久恒貞雄	前
同		五五	上穗波	二三、三二〇	日本鑛業株式會社	前
同		五九	稻築外一	七、六〇〇	粟飯原正雄	小倉市紺屋町
同		六四	大隈外一	一三、六五	國際興業株式會社	東京市京橋區南大工町
同		六五	同	八、六六〇	同	同
同		六三	上穗波	六、五〇〇	同	同
同		六三	大隈	八、五八八	日本鑛業株式會社	前
同		六四	桂川	八、五〇一	木下徳次郎	東京市京橋區築地一丁目
同		六五	桂川	一三、一五四	久保田コウ	兵庫縣川面坂郡
同		六七	飯塚	二九、一九七	株式會社麻生商店	前
同		六八	飯塚	五〇、三六〇	同	同
同		七四	幸袋	一〇三、九二	合資會社成東商會	大阪市北區眞砂町
同		七八	穗波	一八、五〇〇	藤田歎治	福岡市西新町
同		七五	大分	六、二〇〇	日本鑛業株式會社	前
同		七九	幸袋	二七、〇〇〇	花村久助	飯塚市立岩
同		八〇	稻築	七四、八七四	中山貞雄	東京府多摩郡千駄ヶ谷町
同		八五	桂川外一	一三、五四〇	野見山廣吉	福岡縣嘉穗郡稻築村漆生

第三章 鑛産額

第一節 筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

第三章 鑛產額

第一節

筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
未採掘						
大隈外一	八五五	八五五	大隈外一	一九、八四	久恒貞雄	前出
鎮西外一	八七九	八七九	鎮西外一	二〇、四〇一	野見山佐一	福岡縣嘉穗郡穗波村枝國
大隈	八八二	八八二	大隈	一三、三五〇	大河内市右衛門	福岡縣嘉穗郡山田町下山田
同	八八三	八八三	同	二六、二六五	上田直外一	直方市日吉町
同	八九八	八九八	同	一五〇、五八九	吉成貫二	福岡縣鞍手郡小竹町勝野
同	八九九	八九九	同	二三、三六〇	久恒貞雄	前出
同	九三九	九三九	同	二五、〇〇〇	今泉重藏	福岡縣糟屋郡須惠村須惠
同	九三六	九三六	同	五二、〇〇〇	同	前出
同	九六三	九六三	同	二四、二二一	株式會社麻生商店	前出
同	九七〇	九七〇	同	三八、三九四	日本鑛業株式會社	同
同	九七一	九七一	同	二六、三五五	同	同
同	九七三	九七三	同	五〇七、八五四	同	福岡縣八女郡岡山村蒲原
同	九七七	九七七	同	九六、八三六	室園七太郎外一	前出
同	九七八	九七八	同	一一、〇〇〇	久恒貞雄	前出
同	九八四	九八四	同	二一、〇五七	明治鑛業株式會社	前出
同	九八六	九八六	同	五〇、〇七二	三菱鑛業株式會社	前出
同	九八八	九八八	同	一五〇、二六一	株式會社麻生商店	前出

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 計

第三章 鑛產額

第一節

筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
大隈外一	一〇三	一〇三	大隈外一	一八七、八〇〇	中島森太郎	福岡縣糟屋郡宇美町炭燒田屋ノ前
大分	一〇二九	一〇二九	大分	一八、六四四	株式會社中野商店外一	福岡縣嘉穗郡二瀬村川津
幸袋外一	一〇三四	一〇三四	幸袋外一	六六、六〇一	千代田商事株式會社	東京府北豐島郡瀧野川町中里
二瀬	一〇三五	一〇三五	二瀬	三二五、二〇〇	佐藤慶太郎	前出
桂川外一	一〇七六	一〇七六	桂川外一	一、三九五、三五九	平山鑛業株式會社	戶畑市戶畑
穗波外一	一〇八一	一〇八一	穗波外一	九三、九七〇	日本鑛業株式會社	前出
額田外一	一〇九五	一〇九五	額田外一	五〇、四四三	久恒貞雄	前出
庄内	一〇八	一〇八	庄内	一五、四〇〇	三井鑛山株式會社	前出
稻築	一一六八	一一六八	稻築	一七八、六九	株式會社麻生商店	前出
穗波	一二九	一二九	穗波	三五〇、四四〇	中西正一	岡山縣兒島郡下津井町下津井
穗波外一	一二〇	一二〇	穗波外一	一五、一〇〇	石原勉	堺市榮橋通二丁目
大隈	一二三	一二三	大隈	六三、五〇〇	喜多捨三	大阪市東區道修町一丁目
山田	一二九	一二九	山田	五八、四四五	三菱鑛業株式會社	前出
幸袋外一	一二〇八	一二〇八	幸袋外一	九八、八〇〇	峠國松	福岡縣若松市濱三番町二丁目
桂川	一二三三	一二三三	桂川	三九、〇八三	株式會社麻生商店	前出
計	四、八七四、三三三			四七、七〇、六〇三		

田川郡

鑛名	昭和六年 産額	登録 番號	市町村名	坪 數	鑛業 權者	住 所
三井田川	八七七、八七六	二〇九八	後藤寺外六	七、九四六、九〇九	三井鑛山株式會社	東京市日本橋區駿河町
豐國	四五七、〇七〇	一一八一	後藤寺外四	九八六、五二二	明治鑛業株式會社	戶畑市 戶畑
赤池	三四三、五五五	一一二二	上野外三	三、一八五、三三五	同	同
方城	二七七、三七七	一〇七二	方城外二	二、三三三、五五六	三菱鑛業株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目
大峯三	二〇二、五五四	一〇五九	大任	一、五五、五七三	藏内鑛業株式會社	福岡縣田川郡添田町庄
峯地	一六一、二八三	一〇六四	添田外一	八二一、八九五	同	同
大峯	一三三、一五五	七九九	添田外二	五、六三三、七四八	藏内鑛業株式會社外一	同
宮尾	一一二、六〇一	一一九四	勾金外一	七、六、七三四	宮尾鑛業株式會社	福岡縣田川郡勾金村中津原
起行小松	七八、三三九	五五二	後藤寺外一	五、四三、五五八	九州鑛業株式會社	飯塚市 立岩
豐州	五三、九八七	四三八	川崎外一	五、四七、九八〇	福岡縣田川郡	福岡縣田川郡
香春	四六、二八〇	三八〇	大住外一	一、九四、〇四九	香春鑛業株式會社	福岡縣田川郡弓削町
大峯分	四三、七九一	九五五	添田外一	一、四、〇三四	藏内鑛業株式會社	福岡縣田川郡勾金村中津原

鑛名	昭和六年 産額	登録 番號	市町村名	坪 數	鑛業 權者	住 所
中津原	一一、〇七六	一一〇一	勾金	五〇、六三〇	秋元近嘉	福岡縣田川郡香春町
池尻	二、〇一〇	一一三	川崎	三、四、四六七	中島清隆外一	福岡縣田川郡川崎村池尻
糸飛	一、〇一一	六八一	金川外一	一、三六、六六二	株式會社糸飛炭坑	大阪府西淀川區
川崎	四八三	二四八	川崎外二	三、五、七三八	藏内鑛業株式會社	福岡縣田川郡添田町野田
野田	四三〇	三六八	添田	二、五、三三八	宮城犬久	福岡縣田川郡上野村赤池
小樋井	二〇九	九四三	上野	二、五、三五〇	藤尾仁朗	大阪府中河內郡
大昭	一〇〇	一〇六三	川崎	七、八、〇三三	尾島義唯	大阪府中河內郡
未採掘	一〇〇	六〇	金田	九、九、四六七	池邊爲喜	大分縣大分郡大分村今津留
同	一〇〇	九七	川崎	一、八、四四〇	福田定次外三	福岡縣田川郡
同	一〇〇	一一三	安真木外一	三、四、一八二	株式會社麻生商店	飯塚市 立岩
同	一〇〇	一四四	川崎	二、九、八四〇	尼崎炭鑛株式會社	大阪府北區中之島七丁目
同	一〇〇	一四五	同	一、七、五八九	同	同
同	一〇〇	一八九	糸田外一	七、三、三〇〇	岡崎共同株式會社	大阪府西區南堀江
同	一〇〇	二二三	添田外一	三、三、九四七	秀村ハル	大阪府西區南堀江
同	一〇〇	二四二	後藤寺外一	三、三、五三七	明治鑛業株式會社	福岡市藥院堀端
同	一〇〇	二七〇	金田外三	六、五、八四三	三菱鑛業株式會社	福岡市藥院堀端

第三章 鑛產額

第一節

筑豐炭鑛々別産額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭探掘鑛區

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住所
未探掘		二七五	猪位金外一	四七、六八〇	福田定次外三	前飯塚市立岩出
		三三七	同	一四九、五二二	麻生太吉	前大阪府東區北濱五丁目
		三三五	添田	一九一、一六四	住友炭鑛株式會社	前東京市四谷區鹽町三丁目
		三四四	金田外一	二〇四、五〇八	三菱鑛業株式會社	前西村來藏方
		三四九	上野外一	二七三、二九三	大友安利子外一	別府市別府
		四三三	金田外一	五二、五二五	藤岡熊彌外一	福岡市中間町
		四七五	方城	九二、三五〇	下澤平太郎	前福岡市上芦町
		四八三	上野	五二五、一八九	大友安利子外一	前佐賀市上芦町
		五三〇	添田外三	三〇一、三三〇	住友炭鑛株式會社	前福岡縣田川郡後藤寺町奈瓦
		五六〇	勾金	六二、八八七	馬場辨三	前東京府豐多摩郡戸塚町諏訪
		五八六	方城外一	九九、〇二五	三菱鑛業株式會社	福岡縣田川郡奈田村
		五九三	安真木	一四四、九四〇	住友炭鑛株式會社	同
		五九五	同	二六三、五二五	身吉秋義	同
		六〇三	川崎外一	七三、七〇〇	神林虎雄外二	同
		六二二	金田	二七、二〇〇	吉田己三	同
		六三三	同	三三、三九〇	同	同

同同同同同同同同同同同同同同同同同

第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭探掘鑛區

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住所
		七三三	添田	四八五、二四八	住友炭鑛株式會社	前大阪府北區三丁目
		七四六	糸田	八八、六七〇	石田利三郎	前宮城縣桃生郡
		七五二	添田	二六、五〇〇	齊藤株式會社	前福岡縣田川郡添田町野田
		七六二	同	三、六九八	宮田寅之輔	福岡市上名島町
		七八二	彦山外一	二五、二四八	權藤峰二郎	西宮市川尻
		八二二	猪位金	一六〇、八八八	小森市太郎	前福岡縣田川郡後藤寺町奈瓦
		八三〇	猪位金外一	一七、八五五	尾島義唯	前福岡縣田川郡後藤寺町奈瓦
		八六八	後藤寺	一五、七六八	木村	前福岡縣田川郡猪位金村猪國
		八七二	後藤寺外一	六九、一五三	明治鑛業株式會社	福岡縣田川郡後藤寺町奈瓦
		八七五	猪位金	七九、〇〇〇	中村宗一	福岡縣田川郡後藤寺町奈瓦
		九三三	大任	一一、九九二	加治三嗣	福岡縣京都郡行橋町大橋
		九四三	添田	一七、九二五	樹見替吉	前福岡縣京都郡行橋町大橋
		九五八	安真木	二四八、〇〇〇	住友炭鑛株式會社	同
		九五九	添田外一	四、八二六	同	同
		一〇〇〇	川崎	六九、八〇〇	辛島孝助	小倉市魚町三丁目
		一〇三三	勾金	一一、八二七	神澤又市郎	別府市別府
		一〇五一	糸田外一	六九五、六五五	岡崎共同株式會社	前別府市別府

第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

四四

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
未採掘						
同		一〇五三	方城外一	一八三、七〇〇	村田文之進	東京市小石川區雜司ヶ谷
同		一〇五六	大住外一	七八、七〇七	三井鑛山株式會社	前
同		一〇六一	添田外一	一三六、〇八〇	住友炭礦株式會社	前
同		一〇七〇	金田外一	六五、六二五	三好孝宗	福岡縣遠賀郡水卷村頃末
同		一〇七七	後藤寺外二	一、八八、四七三	麻生太吉	前
同		二二五七	添田	一六、六八八	井上松太郎	福岡縣三井郡北野町中
同		二二八三	後藤寺外一	一六四、〇〇〇	北代市治	福岡縣田川郡後藤寺町奈良
同		二一八三	同	一〇二、四〇〇	同	同
同		三〇〇〇	同	五〇、四三〇	早麻崎藏	福岡縣田川郡糸田村
同		二二〇三	同	七三、八三〇	株式會社宮尾炭礦	福岡縣田川郡勾金村中津原
計	二、七九、〇三六			三四、〇四六、六六六		

企救郡及小倉市

鑛名	昭和六年產額	登錄番號	市町村名	坪數	鑛業權者	住 所
仁田	五三七	七四一	同	七〇、〇〇〇	吉田千工	小倉市馬借町御弓町
未採掘		一七五	小倉外一	二一、九二七	本郷太郎	秋田縣平鹿郡
同		三三三	小倉	四九、二二七	友枝多三	角間川町西中上町
同		三三七	同	一〇三、五九二	同	小倉市富野
同		三三八	同	二五七、七九〇	同	同
同		四七七	同	一〇九、〇七〇	同	同
同		二九一	同	二〇五、〇〇〇	兒島完一	福岡市中島町
計	一〇、八〇一、〇八一			一、一五三、三三六		

備考 鑛名及產額ハ福岡鑛山監督局調査ニ依ル

第三章 鑛產額

第一節 筑豐炭鑛々別產額並ニ筑豐石炭採掘鑛區

四五

第二節 鑛山監督局管内鑛山別産額

福岡鑛山監督局管内 (筑豊地方ニ於ケル炭山ノ分ハ如前掲)

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年産額	鑛業權者
山口	宇部市	東見初	三、四、九三	藤本 開作
同	同	王子	三、五、七	岡本 三郎
同	同	長生	五、〇、八四	山田 新松
同	宇部市	沖之山	八、八、五三	沖ノ山炭鑛株式會社
同	宇部市	西沖之山	二、六、三二	國重時右衛門外二
同	吉敷	東宇部	六、六	東宇部炭鑛株式會社
同	厚狹	小野田	三、一、四六	野島 土人
同	同	長門起業	二、八、九七	長門起業炭鑛株式會社
同	同	高千穂	八、〇	高瀬 源一
同	同	増生無煙	八、八	大道 美津子
同	同	住吉	一、三、〇	江本龜太郎外一
同	同	若山		
山口	厚狹	元山	一、六	堀井 松吉
同	同	大力	一、四九	山田 柄子外四
同	同	萩森	一、〇、七三	江本龜太郎外一
同	同	沖田	一、三、〇八	宮崎 久米藏
同	同	宮田	六、〇六	石川 鶴松外一
同	同	第ニ	三、〇、三	長門起業炭鑛株式會社
同	同	新沖山	一、七、〇九	渡邊 祐策
同	同	酒井	一、九七	酒井 清造
同	同	高千穂	八、九	岡田 文三郎
同	同	萩山	五、三、四	潮村哲次郎外四
同	同	山陽大嶺	一、〇、八、六三	山陽無煙炭鑛株式會社

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年産額	鑛業權者
山口	美禰	有之木	二、四、五二	田中 市次郎
同	同	荒川	八、三、〇四	森 直記
同	同	長尾	二、四、九	大嶺無煙炭鑛株式會社
同	同	第二荒川	八	森 直記
同	同	大嶺	七、〇、六六	大嶺無煙炭鑛株式會社
福岡	大牟田市	三池	一、八、六、七五	三井鑛山株式會社
同	糟屋	糟屋	一、七、八、四一	日本鑛業株式會社
同	同	海軍新原	三、四、〇、八	海軍 省
同	同	篠栗	二、九、九二	篠栗炭鑛株式會社
同	同	日野	六、二〇	松本 林藏
同	同	第二大谷	六、三、三	櫻 羽
同	同	龜山	一、六、四、九	東邦炭鑛株式會社
同	同	昭谷	一、五、七、四二	中島 鶴松
同	同	大谷	七、六、七三	大谷炭鑛株式會社
同	同	敷島	一、一、二、〇	尼崎 伊三郎
同	同	高田	二、〇、八、五九	明治鑛業株式會社
同	同	宗像	五、九、七、四	木原鑛業株式會社
福岡	朝倉	寶珠山	二、六、六二	寶珠山鑛業合名會社
同	同	筑紫	四、二、九	大和 藤兵衛
同	同	同	二、三、五、四	府内 義郎
同	同	同	五、五、三六	東 保次
同	同	早良	二、四、七、三三	早良鑛業株式會社
同	同	早池	六	三菱鑛業株式會社
同	同	永池	四、六、三	同
同	同	柚ノ木原	一、九、六、七一	中村 徳次
同	同	入野	二、七、三、六八	古川鑛業合名會社
同	同	新屋敷	八	藤田 虎吉
同	同	前田	四、七、三	菅谷幸太郎外一
同	同	苦見堂	二、八、五、七五〇	三菱鑛業株式會社
同	同	相知芳谷	一、五、七、四、六	貝島炭鑛株式會社
同	同	岩屋	四、四	池田 澤太
同	同	藤熊	三、九、五	池田 澤太
同	同	安之浦	一、八	廣中 權左衛門
同	同	西ノ岳	四、〇、五、三六	村井鑛業株式會社
同	同	向山	五、九、八、九三	村井鑛業株式會社
同	同	杵島		杵島炭鑛株式會社

第三章 鑛產額 第二節 鑛山監督局管内鑛山別產額(福岡)

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
長崎	佐世保市	中	二、四七五	山崎駒雄外一
同	佐世保市	外一	四、四五	早川新藏
同	佐世保市	日字不動	三、四	白川助太郎
同	同	龍	一、九七	小代新二
同	同	川	一、六	川野菊子
同	同	名切	五、一〇〇	草場淺市
同	同	白嶽	四、〇	田川チカ
同	同	矢嶽	三	古賀林作
同	東彼杵	松島	三、三、六、七	松島炭鑛株式會社
同	西彼杵	崎戸	六、七、五、〇	九州炭鑛株式會社
同	同	濱泊	二、八	日支炭鑛株式會社
同	同	高島	三、四、五、八	三菱鑛業株式會社
同	同	東松島	三、三、八〇	堀鑛業株式會社
同	北松浦	上野	二、八、四	長崎炭鑛株式會社
同	同	前岳	一、九	法師山五郎
長崎	北松浦	榎木山	三、〇	古川彌六外一
同	同	三七三	五〇	白倉敏堆外一
同	同	平松	三、五	野口淺市
同	同	大嶽	三、一、九〇	石橋林市
同	同	鷺尾嶽	三、五、八	中村禎一
同	同	平田山	九、三、九	河内進
同	同	田中	一、三	田中幸四郎外一
同	同	江口	三、九、〇	木原峰次郎外一
同	同	調川	一、三、三	古藤松平
同	同	小川内	一、〇	龍政太郎
同	同	叶爪	四、一、四〇	野見山治郎右衛門
同	同	鹿爪	二、三、三	長崎炭鑛株式會社
同	同	松浦	一、三、三	岡本彦馬
同	同	山口	九、三、三	山口炭鑛株式會社
同	同	池野	九、三、三	靜
同	同	福井	二、七、六	松島志米藏外二
同	同	黒潮	三、四、七	小野一外一
同	同	改瀬	一、八〇	緒方勇外一

第三章 鑛產額 第二節 鑛山監督局管内鑛山別產額(福岡)

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
長崎	北松浦	榎木山	三、〇	古川彌六外一
同	同	三七三	五〇	白倉敏堆外一
同	同	平松	三、五	野口淺市
同	同	大嶽	三、一、九〇	石橋林市
同	同	鷺尾嶽	三、五、八	中村禎一
同	同	平田山	九、三、九	河内進
同	同	田中	一、三	田中幸四郎外一
同	同	江口	三、九、〇	木原峰次郎外一
同	同	調川	一、三、三	古藤松平
同	同	小川内	一、〇	龍政太郎
同	同	叶爪	四、一、四〇	野見山治郎右衛門
同	同	鹿爪	二、三、三	長崎炭鑛株式會社
同	同	松浦	一、三、三	岡本彦馬
同	同	山口	九、三、三	山口炭鑛株式會社
同	同	池野	九、三、三	靜
同	同	福井	二、七、六	松島志米藏外二
同	同	黒潮	三、四、七	小野一外一
同	同	改瀬	一、八〇	緒方勇外一
長崎	北松浦	神田	一〇三、九六〇	靜
同	同	大嶽	六、三三	松井興一
同	同	第二大嶽	四、六、五九	靜
同	同	矢嶽	五、〇、七三	矢嶽炭鑛株式會社
同	同	福島	三、七、四、九五	村井鑛業株式會社
同	同	八ノ久保	一、一、六〇	堀井仲
同	同	大平	三、〇、〇九	眞木修平外三
同	同	住友大瀬	一、七、九、四〇	住友炭鑛株式會社
同	同	平尾力富	一、五、八	力富又四郎
同	同	岳下	六、八、五	株式會社麻生商店
同	同	大德	一、五、八	若林文子
同	同	内裏	二、八、八	大久保佐馬外一
同	同	天竺	三、六、九四	九州鑛業株式會社
同	同	中里	三、八、八〇	中里炭鑛株式會社
同	同	住友芳野浦	二、七、四〇	住友炭鑛株式會社
同	同	長迫	六、五	荒川初藏
同	同	水無	三、九	荒木秋三郎
同	同	アクト石	一〇	杉野外生

第三章 鑛產額 第二節 鑛山監督局管内鑛山別產額(大阪)

五〇

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
同	同	櫻川	三	高橋 末造
同	同	鶴尾	一七	宮崎 長松
沖繩	八重山	沖繩	三、九二六	沖繩炭礦株式會社
同	同	高星	二、三六五	河野吉憲外一
計			八、六八五、五四八	

大阪鑛山監督局管内

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
京都	加佐	舞鶴	四、三九九	藤本甚良外一
同	同	松尾寺	一、五九	佐々木多吉
和歌山	東牟婁	植松	一、九七〇	植松 新十郎
計			七、五〇六	

東京鑛山監督局管内

府縣名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
茨城	久慈	大子	一、二九三	坂田 順治
同	多賀	山口無煙	二〇、五九	山口 一良
同	同	高萩	七〇、八八三	大日本炭礦株式會社
同	同	上田	五七、八九三	倉田 龜之助
同	同	磯原	六〇、三三一	大日本炭礦株式會社
同	同	重内	六九、六八一	磐城炭礦株式會社
同	同	千代田	四一、三七五	同
同	同	大倉無煙	八七、七六	大倉鑛業株式會社
新潟	北蒲原	赤谷	六、三七七	東洋物產株式會社
同	中頸城	大槌	一〇七	上野猛二外一
計			四一九、二一一	

第三章 鑛產額 第二節 鑛山監督局管内鑛山別產額(東京)

五一

仙臺鑛山監督局管内

縣名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
山形	西田川	由良	六、六	石塚清
同	北村山	川前	七、五七	淺野同族株式會社
同	同	大浦赤繩	三、九七	伊藤眞治外一
同	同	大石田	六、三九	中川脩
同	同	荒楯	六、三	渡會孫兵衛
同	同	淺見川	一、九四	今幡西衛
同	同	高倉	二、八	田野元次
同	同	廣野	一、九、四七三	入山探炭株式會社
同	同	伊勢	六、四四	箕田長三郎
同	石城	好間	一、六、八〇〇	古河鑛業株式會社
同	同	隅田川	三、九三	小田吉治
同	同	浪花	二、四、五〇	關又一外一
同	同	越賀	二、三、六三	榎武
同	同	宮	三、三	東日本炭礦株式會社
福島	石城	不動澤	四、二七	不動澤炭礦株式會社
同	同	五十嵐	二、八、三五	五十嵐榮次郎
同	同	內郷	八、六、四六三	磐城炭礦株式會社
同	同	入山	三、六、三三五	入山探炭株式會社
同	同	小田	九、三、六	小田炭礦株式會社
同	同	小田第二坑	六、一、五三	同
同	同	川瀬	二、一、八三	川瀬幸治
同	同	品川赤井	二、〇一	品川白煉瓦株式會社
同	同	大倉	一、九〇	井上武八
同	同	東海	一、〇、四	大日本炭礦株式會社
同	同	丸上	五、〇、四	齋藤惣一郎
同	同	王城第二	九	王城炭礦株式會社
同	同	山木	二、三、八四	木村康一郎外一

同	同	勿來	五、六、五	大日本炭礦株式會社
同	同	日支勿來	四、三、六五	日支炭礦汽船株式會社
同	同	小野田	八、七、五五〇	磐城炭礦株式會社
同	同	川田無煙	五、五九	北村民也
同	同	富士	七、五四	鳳城炭礦株式會社
計			一、九三、七三	鳳城炭礦株式會社

札幌鑛山監督局管内

國名	郡市名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
後志	古宇	茅沼	五、一、六四	茅沼炭礦株式會社
石狩	空知	奔別	一、八、二、六八五	住友炭礦株式會社
同	同	歌志內	一、一〇、〇〇四	同
同	同	機内	一、四〇、四三四	北海道炭礦汽船株式會社
同	同	機春別	二、八、六、三四	同
同	同	豐田	一〇、六、六二	登川久吉外一
同	同	唐松	五、七、六、六一	住友炭礦株式會社
同	同	開北	七、八、七三	株式會社南昌洋行
同	同	上歌志內	一、六〇、〇六六	住友炭礦株式會社
同	同	新美唄	一、九、三、〇三	德田康作
同	同	奈良	四〇、八、五〇	北海道協同炭礦株式會社
同	同	三菱齊別	一、五〇、二、三五	三菱鑛業株式會社
同	同	美流渡	七、四、四〇〇	北海道炭礦汽船株式會社

第三章 礦產額 第二節 嶺山監督局管内嶺山別產額(札幌)

五四

國名	郡市名	礦名	昭和六年產額	礦業權者
石狩	空知	彌生	一三四、七八四	東邦炭礦株式會社
同	同	新赤平	五四八	高倉安次郎
同	同	空知	三三、〇六三	北海道炭礦汽船株式會社
同	同	新歌志内	六五、九七三	住友炭礦株式會社
同	同	萬字	二二〇、〇〇〇	北海道炭礦汽船株式會社
同	同	三井美唄	一九三、八三〇	三井礦山株式會社
同	同	大谷	六〇	生田源四郎外一
同	同	三美美唄	六四四、二八七	三美礦業株式會社
同	同	三井砂川	五五、三六五	三井礦山株式會社
同	同	茂尻	二九、六〇八	茂尻炭礦株式會社
同	夕張	二股	一三、〇九〇	北海道炭礦汽船株式會社
同	同	真谷地	三九、五四二	同
同	同	大夕張	二七〇、四八三	三美礦業株式會社
同	同	新夕張	九三、五五〇	北海道炭礦汽船株式會社
同	同	登川	九三、五五〇	三美礦業株式會社
石狩	夕張	新夕張	三三、四一六	同
同	同	雨龍	七六、五三〇	淺野雨龍炭礦株式會社
同	同	雨龍	三七、一五五	同
同	同	昭保	七六、九六六	明治礦業株式會社
同	同	昭保	七五、三三二	同
同	同	加利庶	六八、六六六	株式會社南昌洋行
同	同	尺別	六〇、九〇五	雄別炭礦鐵道株式會社
同	同	昭和	二、三六六	吉岡萬藏
同	同	八千代	一、九八二	金澤濱次郎
同	同	雄別	一七五、三五〇	雄別炭礦鐵道株式會社
同	同	春探	二六、三〇八	太平洋炭礦株式會社
同	同	寶沼	二五八	島津由太郎
計			六、一三三、五五〇	

第三節 朝鮮總督府管内嶺山別產額

道名	郡名	礦名	昭和六年產額	礦業權者
慶尙北	迎日	寺坂	一四五	藤木永吉
同	同	林中	五五〇	同
同	開慶	開慶	一、二七七	西脇健治外二
全羅南	和順	龜岩	八三	鳳城炭礦株式會社
同	鳳山	鳳山	五七、七九〇	同
同	同	沙里院	四、〇二七	明治礦業株式會社
平安南	安州	安州	五八、七九八	同
同	大同	平壤	一四、六八〇	海軍省
同	同	真柏	三、〇二二	朝鮮電氣興業株式會社
同	同	大文山	二〇、五八八	同
同	同	三神	六、二五三	朝鮮無煙炭株式會社
同	同	大寶	四三、三六五	三菱製鐵株式會社
同	同	江東	六三、三九九	朝鮮電氣興業株式會社
道名	郡名	礦名	昭和六年產額	礦業權者
平安南	江東	大成	二八、五九四	明治礦業株式會社
同	江西	江西	五九、九六六	朝鮮無煙炭株式會社
同	江界	江界無煙	二七	植貝光治
同	通川	通川	五、七三三	東洋拓殖株式會社
同	新興	金剛山	三三〇	同
同	新興	咸興	一九、九六六	大森宅二
同	文川	文川	一六、一〇四	朝鮮無煙炭株式會社
同	鏡城	生氣嶺	三九、五五八	生氣嶺粘土炭株式會社
同	同	浦辻	四、〇七三	浦辻東策
同	同	朱乙野田	二、〇六三	野田清定
同	同	朱南	一、六九九	土井卯三郎外三
同	同	羅南	一三八	安永英次
同	同	永安	一四、七九九	朝鮮窒素肥料株式會社

第三章 礦產額

第三節 朝鮮總督府管内嶺山別產額

五五

第三章 鑛產額 第四節 樺太總管内鑛山別產額

五六

道名	郡名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者	道名	郡名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
威鏡北	明川	昭和	三、九一八	小林 德一郎	威鏡北	慶興	阿吾地	四、六三六	荒井 初太郎
同	同	古站	四、七四九	内外鑛業株式會社	同	同	青 鷗	六、三三〇	迫間 房太郎
同	會寧	咸北	九、六四四	大 森 宅 二	同	吉州	院 坪	二、七九	吉松 三郎
同	同	鳳儀	一、八四三	同	同	城津	訓 戎	九、四七	渡邊精吉 郎外二
同	同	竹浦	六、三三三	植 森 濟 吉	同	慶源	古 乾 原	六、五〇	麻 生 音 波
同	同	會寧	一、五三三	鳳城炭礦株式會社	計			八、九二、七四五	
同	同	遊仙	一、九二五〇	岩 村 長 市					
同	同	西儀峰	四、〇〇〇	渡 邊 龜					

第四節 樺太總管内鑛山別產額

郡名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者	郡名	鑛名	昭和六年產額	鑛業權者
長濱	美田	二、〇二	代表者 瀧 口 松太郎	元泊	知取	一三、七〇	登帆炭礦株式會社
豐原	川上	三、七、一六二	三井鑛山株式會社	同	樺 保	一〇、四三	細 入 富 重
同	千歲	二、七六五	大 橋 秀 次	同	東 海	三、五八三	代表者 寺 島 藤兵衛
同	東白浦	一、四、七五七	樺太炭礦株式會社	本斗	内 幌	一六、〇一一	内幌炭礦株式會社

名	居	大 榮	四、〇〇〇	樺太工業株式會社	名	好 大 平	一七、四、九四三	樺太工業株式會社
同	北泊帆	四七三	梅 野 良 藏	數 香 内 川	川	三〇四	三井鑛山株式會社	
同	天 内	一六、三九〇	代表者 宮 崎 温 計			六三六、五三二		

第五節 臺灣總督府管内總出炭額

臺灣總督府管内昭和六年中總出炭額ハ一四二万疋ニシテ各鑛產出額ハ軍部ノ關係上發表シ得ザルヲ以テ省略ス

第六節 全國(朝鮮、樺太、臺灣ヲ除ク)及筑豊炭鑛累計產額

年	全國產額	筑豊炭鑛(製鐵所)產額(所屬炭鑛)	全國產額に對する歩合	年	全國產額	筑豊炭鑛(製鐵所)產額(所屬炭鑛)	全國產額に對する歩合
明治三十一年	六、七四九、六〇三	三、六三四、一六四	五、四〇	明治三十八年	二、五四二、三九七	五、八〇四、〇九〇	五、三
同 三十二年	六、七五五、五七一	三、四六〇、五五二	五、二	同 三十九年	二、九二〇、一〇三	六、四四五、五五〇	四、九七
同 三十三年	七、四八八、八九一	四、〇一七、五三二	五、三六	同 四十年	三、八〇三、九六九	六、九二九、一六六	五、〇一
同 三十四年	九、〇二七、三三五	四、八五五、二四七	五、三八	同 四十一年	一四、八二五、三六三	七、四二四、一四六	五、〇一
同 三十五年	九、七〇一、六八二	四、九三〇、四〇九	五、〇八	同 四十二年	一五、〇四八、一一三	七、四七二、〇〇七	四、九六
同 三十六年	一〇、〇八八、八四五	五、〇五六、三三五	五、〇一	同 四十三年	一五、六八一、三三四	七、八〇〇、九八三	四、九八
同 三十七年	一〇、七三三、七九六	五、三八七、四七三	五、三二	同 四十四年	一七、六三三、七二〇	八、七三三、〇三八	四、九四

第三章 鑛產額 第五節 臺灣總督府管内總出炭 第六節 全國及筑豊炭鑛累計產額 五七

第三章 鑛産類 第六節 全國及筑豊炭鑛累年産額

年	全國産額	筑豊炭鑛(對總產額を除外)	全國産額に對する歩合
明治四十五年	一九、六三九、六五五	九、四九五、三八九	四、八四
同 二 年	二一、三二五、九六三	一〇、五二七、〇七二	四、九三
同 三 年	三三、二九三、四一九	一〇、三四一、四〇七	四、六四
同 四 年	三〇、四九〇、七四七	八、七六九、五五八	四、二七
同 五 年	三三、九〇一、五八〇	九、八四五、六七三	四、二九
同 六 年	二六、三六一、四三〇	一一、三三一、九三三	四、三六
同 七 年	二八、〇三九、四三五	一一、六三一、六八八	四、一五
同 八 年	三三、二七一、〇九三	一二、七九九、九五二	四、一一
同 九 年	三九、三四五、三八四	一一、六八九、七一四	四、〇〇
同 十 年	三六、三二〇、六二七	一〇、六八九、二〇九	四、〇八
昭和十一年	二七、七〇一、七三二		
同 十二 年	二八、九四八、八二〇		
同 十三 年	三〇、一〇、八二六		
同 十四 年	三二、四五九、四一五		
同 十五 年	三二、四三六、五四九		
昭和十六年	三三、五三〇、六〇七		
同 十七 年	三三、八六〇、一八一		
同 十八 年	三四、二五〇、一六六		
同 十九 年	三一、三六六、〇二六		
同 二十年	二七、九六九、五四二		
大正十一年	二七、七〇一、七三二	一一、二四一、一八七	四、〇六
同 十二 年	二八、九四八、八二〇	一一、六八四、七〇三	四、〇四
同 十三 年	三〇、一〇、八二六	一二、三二四、五二五	四、〇九
同 十四 年	三二、四五九、四一五	一二、七四六、七五六	四、〇五
同 十五 年	三二、四三六、五四九	一二、七七八、二五	四、〇六
昭和十六年	三三、五三〇、六〇七	一三、三五〇、六六二	四、〇四
同 十七 年	三三、八六〇、一八一	一三、一九二、二五七	三、九〇
同 十八 年	三四、二五〇、一六六	一二、七九六、〇八四	三、七四
同 十九 年	三一、三六六、〇二六	一一、四六七、四九八	三、六六
同 二十年	二七、九六九、五四二	九、七八六、七六〇	三、五〇

第四章 鑛 夫

第一節 筑豊炭鑛年別鑛夫調

鑛名	昭和七年 六月末	昭和六年 六月末	昭和五年 六月末	昭和四年 六月末	昭和三年 六月末	昭和二年 六月末	大正十五年 六月末	大正十四年 六月末
合 計	四八、九九七	五〇、二七六	七六、七五〇	九〇、五三四	九六、五三〇	九九、三八一	一〇〇、三〇六	一〇四、七三四
大之浦	四、二八七	五、一七三	八、六〇九	八、六七七	八、八一九	九、四六〇	九、七五五	九、七八一
三井田川	三、四九三	四、一四六	六、一八七	七、〇三八	七、五五〇	八、〇八五	七、四九二	九、四一六
鯉 田	二、一五〇	二、四六六	三、四九六	四、〇九三	四、三四九	四、七三四	三、六九七	四、一五〇
高松本坑(高尾ヲ含ム)	二、〇六七	一、八九一	一、七六三	一、八七三	一、六九二	一、三三二	一、一一一	九八五
中鶴第一坑	二、〇四二	二、〇一〇	二、五八九	二、六二五	二、七二六	二、五九二	二、二八五	二、三三五
三井山野	二、〇〇八	二、二七一	三、四八二	三、四九二	三、七八二	三、八〇四	三、六二六	四、〇九九
木屋瀬	一、八八三	一、八七〇	二、一八五	二、五三〇	三、一九〇	二、六九八	二、三三五	二、六八七
芳 雄	一、六八九	一、五四九	三、〇二七	三、二五二	二、八三三	二、三七六	二、一六二	二、三〇五
住友忠限	一、五九	一、八六〇	三、六七七	四、二六五	四、三三七	三、九四九	三、九八七	三、七九四
吉 隈	一、四三五	一、三三六	一、九二二	二、〇〇八	一、六九六	一、四五七	一、一一六	一、〇八四
新 入	一、四二一	一、五二〇	二、四五九	二、五七九	二、七三三	二、九八一	四、六八七	四、六五八
豊 國	一、三三八	一、三六九	一、八九八	二、三八三	二、六四九	二、七〇四	二、九五七	三、一〇四

第四章 鑛夫 第一節 筑豊炭鑛年別鑛夫調

第四章 鑛夫 第一節 筑豊炭鑛年別鑛夫調

鑛名	昭和七年 六月末	昭和六年 六月末	昭和五年 六月末	昭和四年 六月末	昭和三年 六月末	昭和二年 六月末	大正十五年 六月末	大正十四年 六月末
大峰	1,288	1,716	2,676	3,316	4,302	4,872	5,470	5,104
飯塚	1,264	1,693	3,284	4,588	5,659	5,778	4,985	5,739
大辻	1,202	1,293	2,513	2,745	2,546	2,433	2,511	2,606
古河下山田	1,110	890	1,034	1,171	1,605	1,540	1,457	1,309
方城	1,099	1,536	2,054	2,570	2,711	2,731	2,494	2,738
赤池	1,068	1,069	1,856	2,663	2,871	2,934	2,957	2,732
宮尾	1,019	966	769	740	1,035	536	413	456
古河目尾(第二期)	966	1,190	1,170	1,977	3,143	2,871	2,474	2,438
上山田	786	935	2,181	2,800	3,463	2,383	2,451	2,733
赤坂	762	555	973	1,101	1,110	1,031	985	1,037
網分	760	683	1,015	1,116	1,144	1,056	1,016	836
峰地	777	821	1,509	1,653	1,933	1,963	1,850	1,550
新地	700	—	—	—	—	—	—	—
起行小松	691	443	607	900	774	1,011	1,156	1,719
岩崎	691	651	675	767	737	670	667	537
漆生	633	835	867	1,354	1,393	1,447	1,279	1,311

六〇

鑛名	昭和七年 六月末	昭和六年 六月末	昭和五年 六月末	昭和四年 六月末	昭和三年 六月末	昭和二年 六月末	大正十五年 六月末	大正十四年 六月末
深坂	67	588	544	510	—	—	—	—
中鶴第二坑	581	628	771	904	960	809	73	723
大君高尾	570	672	758	1,051	1,007	1,663	1,031	927
山田	519	556	830	899	735	705	—	—
豆田	518	543	665	602	540	488	349	499
嘉穂	496	528	498	377	—	—	—	—
海老津	430	475	633	800	1,271	1,241	1,170	1,123
島廻	388	483	664	688	632	656	633	679
中山	276	238	—	—	—	—	—	—
中吉	276	221	202	192	269	299	357	349
新目尾	199	171	136	127	139	162	274	310
平山	174	—	—	—	—	—	—	—
旭山	127	123	153	221	227	227	241	177
鎮西	92	370	204	585	628	531	506	505
小竹	62	72	75	208	221	226	218	145
其他	3,743	2,045	6,000	9,314	10,339	13,086	17,438	18,174

備考 製鐵所々屬炭鑛を含まず

第四章 鑛夫 第一節 筑豊炭鑛年別鑛夫調

六一

鑛名	探炭夫	支柱夫	運搬夫	選炭夫	機械夫	工作夫	雜夫	合計
大之浦	九三八	一、二〇〇	三五四	二七九	三四三	一五五	四九九	三、七七七
三井田川	七五四	七九八	二四四	一六九	一七五	五〇一	六二五	三、二五六
高松本坑(含高尾)	一、〇五九	二二二	一五三	一六七	一九	九五	三三三	二、一七八
中鶴第一坑	九二〇	三八	二四九	二〇四	九〇	一六八	一〇七	二、〇五六
三井山野	五八四	四三七	一七六	七三	二八	二二九	二六八	一、八七五
住友忠隈	六九五	一六〇	一〇三	一〇五	二九	二〇六	四二四	一、八三二
木屋瀬	六七七	一八一	八八	一三	二八	二〇	二三三	一、五三九
豐國	一、〇三三	二一五	二二	一〇一	四七	二四	五六	一、四八八
赤池	四八六	二九五	一五六	一三	九八	一四四	九五	一、三六七
新入	四三三	三二〇	二五	八三	七九	一五〇	五四	一、二二三
吉隈	四九六	二一九	七六	六四	五	五九	三三〇	一、一九九
飯塚	五二六	二八八	八七	四七	六	五七	一一二	一、一八三
大辻	四七七	三七	四九	二四	六	五	三九	一、一五〇
古河下山田	四四六	二二五	一〇〇	六八	六	七一	一四一	一、一〇九
	三二八	三九五	六三	四七	四九	八九	一三三	一、〇八三

第二節 筑豊炭鑛作業別鑛夫調 (昭和七年十二月末現在)

古河目尾	一八七	四〇三	五七	六三	一〇五	一三九	九八	一、〇五三
大峰	四三八	三八	八四	五一	五	三五	七五	一、〇四七
宮尾	六七五	一〇〇	四三	五七	五〇	三七	四四	九九四
芳雄	四九六	一八六	八九	四一	五〇	五二	七四	九九三
方城	一六〇	二〇〇	八	一〇〇	六四	七五	七四	九四八
新分	六六九	二八	四〇	五七	二〇	二〇	二七	八六一
網手	三七八	二七	八三	三九	七三	四〇	七七	八二一
赤坂	四一九	一〇五	三	七三	五三	四〇	九六	八二五
漆生	四六五	一六八	三五	二八	三三	三四	三三	七七五
起行小松	二四五	二八二	六六	五	三	一七	三三	七五一
峰地	二七四	一四六	七〇	三	三	二二	四七	七三一
岩崎	五三七	一四	二	三	三	一三	七	七〇八
深山	四七三	三三	一九	九二	〇	三三	一四	六六五
上山田	二七一	五九	三〇	九二	三	三三	一八	六四三
大君高尾	三三〇	六五	三〇	三四	四	四四	一六三	五六六
嘉穂	三三九	三九	一四	二四	五	二六	四〇	五〇〇
豆田	二四七	一〇	二四	三三	六	二四	四〇	四九九
山田	三三九	三九	一四	二四	六	二七	一五	四七四

計	樋口	安部	小竹	庄司	筑紫	大谷	本城	大白	白立	百立	宮ノ上
一九、五五四	五	七	五	九	八	五	六	五	〇	五	三
八、二二	一	二	六	一	一	二	一	二	三	一	一
三、三六	二	三	三	二	二	二	二	二	二	二	三
三、二四	二	二	六	六	五	九	五	四	五	一	一
二、六五四	三	〇	三	三	二	一	一	一	一	一	一
三、〇七九	四	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
五、〇二〇	五	二	一	三	一	一	三	二	二	二	二
四、七六	六	七	六	六	六	五	八	三	二	〇	八

鑛名	探炭夫	支柱夫	運搬夫	選炭夫	機械夫	工作夫	雜夫	合計
中鶴第二坑	三五四	六	一九	一六	三〇	四	四	四五五
上山	二六九	五	三二	四八	二二	六	七	四五五
支王山	二九七	〇	一三	三九	三	五	五	四〇三
香春	一五二	八	一九	四七	〇	七	二	三六三
豐州	一九二	六	一三	四七	四	六	二	三三八
海老津	一六七	四	四	一五	三	七	三	三三九
島廻山	一九八	五	八	七五	三	二	二	三二二
大谷 <small>(在津)</small>	一七二	九	五	一六	三	二	〇	二七六
平日吉	二二〇	七	〇	三九	三	五	二	二四九
高山	二二〇	二	七	一四	三	〇	二	二四八
旭江藤	九〇	四	一〇	一六	七	一	二	一七八
中津原	九〇	四	五	一〇	一	一	二	一六八
猪鼻	七六	四	四	七	六	二	二	一〇九
鎮西	五〇	八	三	〇	三	四	三	一〇一

◎製鐵所々屬炭鑛作業別鑛夫調 (昭和七年十二月末現在)

鑛名	採炭夫	支柱夫	運搬夫	選炭夫	機械夫	工作夫	雜夫	合計
高 雄	八〇	五八三	二八六	三三	一五七	二五三	四二	二、五四三
中 央	八三	六五〇	三七六	二	一四三	一九一	四三五	二、六三八
稻 築	三九	一八五	八七	二	七〇	七二	一五二	九一五
計	一、九七二	一、四一八	七四九	五五	三六九	五二五	一、〇八	六、〇八六

金	外				總平均	一ヶ月
	一、二六七	一、三四八	〇、九五五	一、〇四三		
一、二七四	一、三三三	〇、九七二	一、〇二九	一、二七二	二七、五一五	
一、二五五	一、三三八	〇、九六六	一、〇三七	一、二八五	二八、五三二	
一、二五八	一、三三〇	〇、九五八	一、〇二九	一、二九三	二八、七八〇	
一、二六八	一、三四三	〇、九六七	一、〇五〇	一、三二九	三〇、九五八	

第三節 鑛夫出炭高、就業歩合及日數、賃金調 (主要炭鑛六十一に就て)

摘要	期月	昭和五年											
		十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
一人一日當出炭	採炭夫	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八	二、二六八
	坑内夫	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇
一人一ヶ	採炭夫	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五	〇、七四五
	坑内夫	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三	一、五五三
就業歩合	採炭夫	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三	七三、三
	支柱夫	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八	七五、八
就業日數	採炭夫	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五	二五、五
	支柱夫	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇	一、六八〇
採炭夫	採炭夫	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三	一、六四三
	支柱夫	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七	一、六三七
運搬夫	運搬夫	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八	一、四二八
	機械夫	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
工作夫	工作夫	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六	一、四二六
	雑夫	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一	一、一三一
夫平均	夫平均	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七	一、一三七
	夫平均	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八	一、五七八
選炭夫	選炭夫	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇	〇、七四〇
	選炭夫	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一

備考 昭和七年一月以降製鐵所々屬炭坑を含む

第三節 鑛夫出炭高、就業歩合及日數、賃金調 (主要炭礦六十一に就て)

月當出炭	就業歩合			就業日數		坑内			坑外			總平均	平均					
	採炭夫	支柱夫	全鑛夫	採炭夫	支柱夫	運搬夫	機械夫	工作夫	雜夫	平均	運搬夫			機械夫	工作夫	雜夫	平均	
一八、一ヶ	72.3	75.8	77.4	25.5	1,680	1,637	1,499	1,324	1,440	1,137	1,578	0,740	1,223	1,344	1,436	1,089	1,425	28,125
一、五、五三	72.3	75.8	77.4	25.5	1,680	1,637	1,499	1,324	1,440	1,137	1,578	0,740	1,223	1,344	1,436	1,089	1,425	28,125
一、三、九七九	72.0	73.8	76.3	24.7	1,643	1,607	1,418	1,310	1,426	1,131	1,541	0,748	1,199	1,336	1,403	1,104	1,401	28,183
一、三、六六八	68.8	74.0	77.6	21.9	1,622	1,583	1,401	1,311	1,433	1,146	1,524	0,754	1,192	1,332	1,420	1,085	1,393	25,611
一、四、九七九	71.2	76.5	77.0	24.9	1,633	1,604	1,410	1,290	1,405	1,145	1,535	0,750	1,193	1,324	1,411	1,062	1,398	28,859
一、四、五五一	70.4	75.5	76.6	24.3	1,611	1,603	1,389	1,281	1,400	1,133	1,508	0,736	1,167	1,314	1,426	1,003	1,374	26,818
一、四、四五五	68.5	74.8	76.4	24.9	1,603	1,537	1,374	1,456	1,382	1,121	1,490	0,722	1,145	1,281	1,378	1,053	1,353	25,198
一、五、三五五	71.6	76.3	79.0	24.4	1,623	1,537	1,374	1,265	1,381	1,106	1,493	0,719	1,154	1,278	1,386	1,059	1,355	26,995
一、五、一六六	71.1	74.1	76.9	25.1	1,549	1,534	1,358	1,270	1,391	1,106	1,456	0,726	1,119	1,275	1,363	1,050	1,356	26,918
一、四、〇六九	70.2	75.3	76.1	23.4	1,517	1,525	1,326	1,242	1,369	1,080	1,418	0,701	1,111	1,341	1,357	1,043	1,313	25,139
一、四、八六八	70.2	77.0	76.8	24.9	1,533	1,489	1,345	1,291	1,347	1,089	1,433	0,704	1,125	1,357	1,339	1,031	1,305	26,546
一、六、四四〇	71.8	77.0	76.7	26.0	1,566	1,485	1,347	1,234	1,354	1,086	1,453	0,705	1,124	1,355	1,343	1,032	1,313	28,178
一、六、〇二六	73.6	79.3	79.0	24.4	1,568	1,510	1,349	1,234	1,347	1,093	1,469	0,718	1,124	1,345	1,345	1,042	1,318	27,762
一、七、九二一	76.9	80.7	81.2	25.7	1,567	1,491	1,356	1,238	1,363	1,088	1,469	0,722	1,135	1,355	1,348	1,042	1,316	29,716
一、七、二八九	74.3	80.7	80.9	24.5	1,592	1,540	1,362	1,270	1,384	1,107	1,478	0,729	1,127	1,370	1,370	1,074	1,359	29,592
一、六、四八八	73.4	78.9	79.7	23.2	1,426	1,517	1,356	1,263	1,389	1,101	1,478	0,724	1,128	1,366	1,366	1,003	1,372	28,261
一、八、七二七	73.5	78.4	79.1	26.1	1,624	1,538	1,366	1,264	1,386	1,108	1,498	0,727	1,128	1,366	1,366	1,000	1,373	30,643
一、七、六二二	72.9	78.4	79.1	24.8	1,578	1,516	1,364	1,267	1,386	1,108	1,498	0,727	1,128	1,366	1,366	1,000	1,373	28,549
一、八、〇五九	74.1	78.1	79.5	25.8	1,564	1,507	1,354	1,256	1,374	1,099	1,477	0,705	1,121	1,378	1,362	1,057	1,332	30,187
一、五、七八九	75.1	80.7	80.9	25.0	1,530	1,504	1,341	1,248	1,365	1,080	1,435	0,700	1,126	1,378	1,368	1,051	1,332	28,978
一、七、三五八	75.0	80.8	81.2	25.0	1,475	1,478	1,323	1,232	1,353	1,074	1,401	0,697	1,123	1,367	1,347	1,040	1,326	28,628
一、六、三九六	73.5	79.5	80.1	23.5	1,447	1,440	1,310	1,218	1,347	1,081	1,365	0,675	1,121	1,347	1,347	1,043	1,327	27,180
一、七、八〇八	73.9	78.7	80.1	24.5	1,443	1,432	1,292	1,200	1,333	1,063	1,370	0,677	1,106	1,324	1,333	1,039	1,327	27,515
一、九、三二七	74.8	79.2	80.9	25.3	1,457	1,440	1,290	1,209	1,333	1,070	1,367	0,687	1,124	1,324	1,338	1,037	1,328	28,531
一、九、〇〇七	76.6	79.6	81.5	24.8	1,497	1,449	1,300	1,216	1,333	1,077	1,403	0,683	1,126	1,328	1,338	1,029	1,323	28,780
二〇、八九一	78.3	82.8	83.1	25.9	1,532	1,474	1,333	1,215	1,333	1,075	1,429	0,694	1,153	1,328	1,343	1,050	1,339	30,958

以降製鐵所々屬炭坑を含む

第四節 全國石炭山鑛夫調 (鑛夫五十名以上使用の分)

管轄山鑛別	昭和七年 六月末		昭和六年 六月末		昭和五年 六月末		昭和四年 六月末		昭和三年 六月末	
	坑内	坑外	坑内	坑外	坑内	坑外	坑内	坑外	坑内	坑外
關 東	七六、一七五	二八、八五〇	八六、一六〇	三、八三五	一八、五〇一	一三、五、一〇〇	一四、〇、一五五	一四、〇、一五五	一四、〇、一五五	一四、〇、一五五
大 阪	二	二	二〇	二〇	二六	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
東 京	一、六四三	六六	一、七九七	七三九	二、六三二	九六四	三、四三〇	一、二八四	四、四〇七	一、七〇九
計	二、三二九	二、三二九	二、五三六	三、五九六	四、七二四	六、二一六	六、二一六	六、二一六	六、二一六	六、二一六
仙 台	五、〇三七	三、〇三五	六、二九九	二、八四六	八、一四〇	三、四八八	三、七六六	四、〇四二	四、〇四二	四、〇四二
札 幌	二、九三三	五、六四四	一三、九五五	六、三〇四	一九、五三七	七、八四〇	二〇、四五五	二一、八〇四	二二、八〇四	二二、八〇四
合 計	九六、八三三	三八、一七六	一〇八、二五四	四一、七四四	一四八、五八三	一六七、六四二	一七六、〇五三	一八五、一七六	一九四、〇五三	一九四、〇五三
計	一三、四、九九九	一四、九、九九八	二〇、二、〇〇〇	二二、〇、〇〇〇	二三、九、〇八二	二四、〇、四三六	二四、〇、四三六	二四、〇、四三六	二四、〇、四三六	二四、〇、四三六

第五章 運炭

第一節 概説

鐵道開通前の筑豊炭の輸送機關は炭田を貫流する遠賀川本支流に於ける船船なりしが、明治二十四年筑豊興業鐵道の直方若松間、二十八年には豊州鐵道の小倉伊田間開通し年を逐ふて延長せらるゝに及び時間的に又經濟的に不利不便なる船送炭は逐年減少し今日に於ては皆無となれり。其の全盛期の船數は約六千五百隻を算し石炭を滿載して降下するもの、順風に帆をあげて逆航するもの絡繹たりし往時の盛觀を回想すれば轉今昔の感切なるものあり。

鐵道の沿革に就ては既に其の一端を第一章に掲げしも左に發達の大要を年別に示さん。

筑 豊 線

- 明治二十四年 八月若松直方間開業、九鐵本線亦本年より折尾にて接續す
- 同 二十五年 十月小竹驛開業
- 同 二十六年 二月金田驛及堀川貨物驛、七月鯉田、飯塚兩驛及鯉田芳雄貨物驛、十一月筑前植木の各驛開業、十二月底井野、筑前植木間複線開業
- 同 二十七年 十月新入第三、第四の貨物驛、十二月幸袋驛及庄司高雄の貨物驛折尾中間、直方筑前植木間の複線開業
- 同 二十八年 四月臼井驛開業
- 同 二十九年 四月若松折尾間複線開業

田 川 線

- 四月小倉伊田間開通、伊田、香春兩驛開業
- 二月後藤寺、西身内谷貨物驛開業

- 同 三十年 八月新入貨物驛開業、同月筑豊興業鐵道を九州鐵道に合併
- 同 三十一年 二月大隈、下山田、中泉各驛、三月忠隈、平恒、藤棚、日燒の各貨物驛、十一月直方勝野間複線開業
- 同 三十二年 二月本洞貨物驛、八月二島驛開業
- 同 三十三年 一月伊岐須貨物驛、九月楠驛、大城第一、第二の貨物驛、十一月瀬野貨物驛開業
- 同 三十四年 六月上山田驛、十一月大辻貨物驛、十二月天道、長尾驛開業
- 同 三十五年 二月勝野、桐野兩驛、六月鹽頭、上三緒、山野の各貨物驛開業
- 同 三十六年 四月豆田、十一月目尾、赤池金田各炭坑の貨物驛開業
- 同 三十七年 十一月菅牟田貨物驛、勝野小竹間複線開業
- 同 三十九年 四月方城貨物驛開業
- 同 四十一年 二月枝國貨物驛、室木線各驛開業、七月岩崎、香月各貨物驛開業
- 同 四十三年 十月第二菅牟田貨物驛開業、十二月中鶴貨物驛開業
- 同 四十四年 十月中間香月間旅客取扱開始、關門間貨車航送開始
- 明治四十五年 一月新入貨物驛開業、七月勝野、磯光、桐野驛旅客取扱開始

〔十一月宮床驛、大蔵、豊國、起行の各貨物驛開業〕

十二月南身内谷貨物驛開業

〔一月夏吉、七月後藤寺原、池尻、川崎、第一大任の各貨物驛開業〕

四月東身内谷貨物驛開業

九月豊州鐵道を九州鐵道に合併

添田驛及庄貨物驛開業

一月第二大任貨物驛開業

筑 豊 線

大正二年 七月新多貨物驛開業、八月鴨生、漆生貨物驛開業
 十一月潤野驛を二海驛と改稱し旅客取扱開始
 同三年 十二月新管半田貨物驛開業
 同四年 二月赤坂貨物驛開業
 同五年 三月新平恒貨物驛開業
 同六年 四月筑前中山貨物驛開業
 同七年 四月目尾分岐點廢止目尾驛にて一般旅客取扱開始
 同八年 五月山野分岐點廢止山野、漆生兩驛にて一般旅客取扱開始
 同九年 十二月本洞貨物驛廢止、中間新中間三線運轉
 同十年 四月折尾、中間四線運轉
 同十一年 五月大城第二驛廢止、同月稻築驛貨物取扱開始、七月中旬筑前植木間三線運轉
 同十二年 二月芳雄、上三籍、赤坂、鴨生、漆生、筑前山野各驛の一般運輸營業開始
 同十三年 七月九州産業鐵道線船尾山、赤坂炭坑間營業開始
 同十五年 四月三好鐵道折尾頃末、頃末吉田間運轉開始
 昭和二年 十二月筑豊本線筑前内野、鹿兒島本線原田間連絡
 同四年 五月鹿兒島本線折尾と本城間の連絡設備完成

田 川 線

二月後藤寺原貨物驛廢止
 九月東身内谷貨物驛廢止
 十二月西身内谷貨物驛廢止
 〔二月起行貨物驛に於て九州産業鐵道株式會社線と貨車の連帶輸送開始〕
 六月伊田線金田炭坑驛廢止

附記

小倉鐵道は小倉鐵道株式會社の經營に係り、大正四年四月より旅客取扱を開始し石炭運輸は同年十一月より開始す、東小倉驛は同社に屬する一驛なり

第二節 鐵道運賃

昭和五年四月一日より改定實施せられたる石炭貸切扱賃率表及各炭鑛より主要送炭先(若松、戸畑、門司)への運賃(一越當)を示せば左の如し。

鐵道省
石炭貸切扱賃率表

(昭和五年四月一日)
よ 實 施

料程	一越付	二越付	料程	一越付	二越付
5	26	80	175	290	384
8	32	85	182	305	390
11	39	90	189	320	408
14	46	95	196	335	419
17	53	100	203	350	430
20	60	110	214	365	440
23	66	120	225	380	450
26	72	130	236	395	460
29	78	140	247	410	470
32	85	150	258	425	480
35	91	160	263	440	490
38	97	170	279	455	500
41	104	180	290	470	510
44	110	190	301	485	520
47	117	200	312	500	530
50	124	215	324		
55	132	230	336		
60	141	245	348		
65	150	260	360		
70	159	275	372		
75	168				

備考 貸切扱に限り最低運賃金四圓とす。

◎各礦主要驛間程及運賃(一吨當)表

所屬驛	炭礦名	若松驛		
		新程運賃	戶畑驛	門司驛(葛葉)
折尾	大君高尾	二〇、八	一三、九	二九、二
	高尾			八五
	高松本坑			
海老津	海老津	二〇、一	一三、二	二八、五
	大谷			一〇四
新延	新目尾	三三、二	二五、三	四〇、六
	大成			一〇四
八尋	旭	二四、四	二七、五	四二、八
	白山			二一〇
室木	野口	二六、二	二九、三	四四、六
	香之浦			二一七
桐野	大之浦八	三三、八	三五、九	五二、二
	大之浦七			一三三
菅牟田	大之浦五	三三、三	三五、四	五〇、七
	大之浦二			一三三
新管牟田	大之浦三	三三、〇	三五、一	四九、四
	大之浦六			一三三
筑前中山	新入	三〇、八	三三、九	四九、二
	大之浦			一〇四
岩崎	岩崎	一七、六	二〇、七	三六、〇
	大辻			九七
香月	大辻	一八、四	二一、五	三六、八
	新入			九七
新深坂	新深坂	一六、二	一九、三	三四、六
	新深坂			九一
中鶴	中鶴第二坑	二四、九	二八、〇	四三、三
	中鶴第一坑			九一
中鶴	中鶴第一坑	一五、八	一八、九	三四、二
	中鶴第一坑			九一

所屬驛	炭礦名	若松驛		
		新程運賃	戶畑驛	門司驛(葛葉)
新多	第二目尾	三四、四	三七、五	五二、八
	本入			一三三
鹽頭	鹽頭	三三、六	三六、七	五二、〇
	小竹			一三三
總田	本大坑	三五、四	三八、五	五三、八
	本大坑			一三三
忠隈	住友忠隈	三九、九	四三、〇	五八、三
	住友忠隈			一四二
新平	飯塚	四〇、九	四四、〇	五九、三
	飯塚			一四二
平恒	飯塚	四一、六	四四、七	六〇、〇
	飯塚			一四二
白井	吉隈	四六、四	四九、五	六四、八
	吉隈			一五〇
大隈	漆生	四九、〇	五二、一	六七、四
	漆生			一五九
下山田	古河下山田	五二、八	五五、九	七一、二
	古河下山田			一六八
赤坂	赤坂	四三、六	四五、七	六一、〇
	赤坂			一五〇
上三緒	上三緒	四〇、七	四三、八	五九、一
	上三緒			一四二
芳雄	芳雄山内	三七、六	四〇、七	五六、〇
	芳雄山内			一四二
二瀬	二瀬	三八、九	四二、〇	五七、三
	二瀬			一四二
庄司	庄司	三六、七	三九、八	五五、一
	庄司			一四二
目尾	目尾	三三、五	三六、六	五二、九
	目尾			一三三
豆田	豆田	四五、七	四八、八	六四、一
	豆田			一五〇
上山田	上山田	五三、八	五六、九	七二、二
	上山田			一六八

所屬驛	炭鑛名	若松驛			
		若松驛	戸畑驛	門司驛(島葉)	門司驛(島葉)
		若松驛	戸畑驛	門司驛(島葉)	門司驛(島葉)
鳴生	三井山野三	四、八二〇	四、六九二	六、三二一	一、五〇〇
漆生	三井山野二	四、六二二	四、九三二	六、四六六	一、五〇〇
大城第一	明治一	三〇、八八五	三、九九九	四、九二二	一、二三四
赤池	赤池	三、三七九	三、六八八	五、三一	一、三三三
方城	方城	三、五七九	三、八八八	五、四一	一、三三三
上穂波	嘉穂	四、八一	五、二二二	六、六五	一、五九九
香春	香春	四、三七	四、六八	五、七七	一、四二
伊田	三井田川三	四、一〇	四、四一	五、九四	一、四二
後藤寺	三井田川一	四、三六	四、六七	六、二〇	一、五〇〇
起行	起行小松	四、三二	四、七四	六、二七	一、五〇〇
所屬驛	炭鑛名	若松驛	戸畑驛	門司驛(島葉)	門司驛(島葉)
池尻	豐州	四、五八	四、八二七	六、四九	一、五〇〇
川崎	三井田川四	四、八三	五、二四	六、七	一、五九九
第一大任	島	四、九二	五、三三	六、七六	一、五九九
第二大任	大峰一	五、〇二	五、四三	六、八六	一、五九九
添田	峰地二	五、一九	五、六〇	七、〇三	一、六八
庄	峰地一	五、三九	五、八〇	七、二三	一、六八
大藪	三井田川二	四、五六	五、〇七	六、四〇	一、五〇〇
豐國	國	四、九	五、四〇	六、五三	一、五九九
木屋瀨	木屋瀨	三、四	三、八六	五、九二	一、三三
野面	木屋瀨	二、六	三、〇	四、四八	一、二九
赤坂炭坑	赤坂	四、五六	四、八七	六、四〇	一、七六

○小倉鐵道線

所屬驛	炭鑛名	東小倉驛
上香春	宮尾	三、七〇
今任香春	新宮尾	四、三〇
伊原大峰一	大峰一	五、〇〇

特定運賃

大峰一坑側線發ニ限リ 一〇五錢
 特定運賃
 上添田峰地一 五、〇 二七
 備考 高濱海岸に於て荷卸するものに對しては一應五錢の海陸聯絡線料を徴す

第三節 總送出高類別

筑豊炭の總出高は組合創立の翌年即ち明治十九年以後の送出高を地方別、送出先別、炭種別にしたる年別表を掲げ參考に供するこゝせんとせん。

○筑豊地方別總送出炭年別表

年次	遠賀	鞍手	嘉穂	田川	企救	合計
明治十九年	四、三七〇	一、四三二	八三、三三八	三九、八三九	—	一三〇、九八〇
同二十年	四、六八〇	一、八九三	一一四、七七六	六一、二七五	—	一三二、〇〇四
同廿一年	八七、四三三	三二、九四九	一五六、九九六	九五、二六〇	—	二〇二、一三八

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(總送出炭地方別年別)

七六

年次	遠賀	鞍手	嘉穗	田川	企救	合計
明治廿二年	一三一、九六七	二二三、〇六五	二二九、八二一	九五、一一三	六六九、九五六	六六九、九五六
同廿三年	一三八、八五七	二五六、〇一九	二七九、七七九	一二三、九三六	七八七、五九一	七八七、五九一
明治廿四年筑豐興業及九州鐵道石炭運搬開始	一五七、七四九	二六二、四六三	三二三、七四三	一八六、四五六	九二〇、四一一	九二〇、四一一
同廿五年	一三三、七四四	三三七、三〇五	三三九、九四九	二二九、七七九	一、〇三九、七七七	一、〇三九、七七七
同廿六年	一四〇、三七四	四二四、二六一	三七二、二五九	二九七、一八四	一、三四〇、〇七八	一、三四〇、〇七八
同廿七年	一七五、七二五	五八二、四三五	五四二、五〇二	四二〇、三三五	一、七二〇、八八七	一、七二〇、八八七
明治廿八年豐州鐵道石炭運搬開始	二二三、〇六一	七九六、〇四〇	六八一、六四一	四四五、八七三	二、一三六、六一六	二、一三六、六一六
同廿九年	二二八、三三〇	八三三、三三三	六六六、六六五	六四四、二四五	二、三三二、五六二	二、三三二、五六二
同三十年	三〇〇、〇九〇	八九五、〇一八	六三六、一六五	八九五、一二九	二、七二六、三四二	二、七二六、三四二
同卅一年	五〇、三三六	九九八、一一一	七九八、五〇一	一、〇八三、九四六	三、四〇〇、七九四	三、四〇〇、七九四
明治卅二年企救郡各坑組合に加入	五二、三三三	一、〇一七、九〇一	九六、六七五	一、〇一八、〇八三	二四、三七八	三、五三三、三五〇
同卅三年	五二、五七一	九九三、八四七	一、〇六〇、五一七	一、四五〇、八八〇	六〇、四四〇	四、〇八七、二五四
同卅四年	六二八、五四一	一、二九一、四三四	一、二五八、三三三	一、五四〇、六四七	五二、七〇七	四、七六一、六三二
同卅五年	六二〇、二九九	一、四九九、一一一	一、三六六、八八六	一、五三三、二一九	六四、一六三	五、〇四三、五四八

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(總送出炭地方別年別)

七七

年次	遠賀	鞍手	嘉穗	田川	企救	合計
同卅六年	五九八、五三三	一、五七六、五三四	一、四九七、八一〇	一、四八四、二五三	七、五六五	五、一六四、六八四
同卅七年	五二五、八八二	一、七二三、五三八	一、四六四、五四七	一、六三八、五七五	四三、九七七	五、三八六、五一九
同卅八年	五一五、〇三九	一、六三九、〇八四	一、四六四、六四三	一、七七五、一一三	六三、六四九	五、四五七、五二八
同卅九年	六九五、四三九	一、四六八、三五七	一、八七九、三七九	一、九五四、〇七六	三九、七三〇	六、〇三六、九六一
同四十年	七〇七、七八八	一、六四二、〇九一	二、一三三、五八五	一、八九六、九七七	二二、〇七三	六、四六二、四六三
同四十一年	八五四、〇二八	一、六七〇、九九四	二、三三三、四三七	二、三三〇、八八五	一五、三三二	六、九〇二、六三六
同四十二年	八七六、〇七二	一、五九九、六六六	二、二七三、四三〇	二、一一〇、四七一	—	六、八六九、六一九
同四十二年	八七一、五三四	一、五九〇、一九一	二、三七七、八〇三	二、三三〇、八四四	五、四四四	七、〇六九、八一六
同四十四年	九八七、三三四	一、七九三、四四五	二、六六〇、八五〇	二、四七〇、七八五	一四、三九八	七、九二六、七八二
大正元年	一、〇八〇、二六三	一、九三七、七二六	二、七四七、四五一	二、八九一、六九六	一四、七六八	八、六七一、九〇四
同二年	一、三七一、五八一	二、〇九八、二〇五	二、九四一、六二五	三、一一〇、三四三	一五、〇六八	九、五三四、六一二
同三年	一、二六八、八九二	二、〇九八、七三七	三、〇〇二、五九〇	三、〇六一、九七六	一七、七七〇	九、四四九、九六五
大正四年小倉鐵道石炭運搬開始	一、〇三六、〇一一	一、七八三、〇六六	二、六〇一、八七〇	二、五五四、〇四七	二八、一五八	八、〇〇三、一三三
同五年	一、二三五、〇六一	一、八五九、三〇二	三、〇四七、七二〇	二、八七五、一五五	一九、七〇〇	九、〇三六、九二八
同六年	一、五三四、八八四	二、〇〇八、八〇六	三、四六三、一四二	三、二〇八、五八〇	二七、三二七	一〇、二三二、七三九
同七年	一、五八六、三四六	一、八七二、〇四九	三、七三六、六九四	三、二九一、六五四	五三、〇〇三	一〇、三七七、七四六
同八年	一、六三七、四一五	一、九八九、四六五	四、一一〇、八三一	三、五二七、六〇七	五一、二八七	一一、三〇六、六〇五

年次	遠賀	鞍手	嘉穂	田川	企救	合計
大正九年	一、三五、七〇〇	一、七七、四三〇	三、九〇、三三八	三、四〇、四七三	二九、九三六	一〇、四五、七七七
同十年	一、二六、八三九	一、七〇、九七三	三、五〇、八七九	三、二六、三八七	二九、四	九、六四、〇二一
同十一年	一、四、六一四	二、一一、八〇九	三、七〇、九五〇	三、〇三、四七〇	—	一〇、二五、六三八
同十二年	一、三六、九三六	二、二〇、五三八	三、七五、〇二二	三、一〇、四二二	二、五八四	一〇、四三、四六一
同十三年	一、四三、四一六	二、四三、二八三	四、〇七、七七七	三、〇九、八二二	六九六	一一、三九、六〇四
同十四年	一、四七、三一九	二、四四、四二七	四、三〇、三三四	三、四三、八四七	—	一一、六七八、三二七
昭和元年	一、四〇、九四七	二、五〇、七二三	四、五五、八九〇	三、二八、三八二	—	一一、七〇〇、九二七
同二年	一、五九、七五二	三、〇一、八三四	四、三三、六三三	三、二五、八二六	六四五	一二、〇九〇、四五三
同三年	一、五六、七三〇	二、八五、二七八	四、一三、二九一	三、一八、五三三	一、五八九	一二、六七二、四一〇
同四年	一、五五、八五九	二、六六、六八四	四、三五、七一六	三、一五、六一八	二、五二〇	一二、六九一、四〇八
同五年	一、三六、七〇七	二、〇四、八七九	四、一五、〇五九	二、九一、五三六	一、六七六	一〇、四九一、四七
同六年	一、二四、九二七	一、五五、七八五	三、四八、三四〇	二、五九、四九〇	二七、〇六九	八、八五〇、〇〇八
同七年	一、五五、七二五	一、七五、九七九	三、五九、七二五	二、六二、八七九	六九〇	九、五三六、三二四

◎送出炭年別仕向先別表

年次	若松驛		戸畑驛		門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	若松(水運)	芦屋(水運)	小倉(水運)	合計
	若松驛	戸畑驛	若松驛	戸畑驛									
明治九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同二十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同三十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

年次	若松驛	戸畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他驛	門司鐵道局用炭	若松(水運)	芦屋(水運)	小倉(水運)	合計
明治三十四年	二,二五五,二四五	—	一,一三四,二八〇	—	一七六,四三三	一〇七,三三六	二四,〇三一	九六三,〇五三	四八,五五六	五二,七〇七	四,七六一,六三三
同三十五年	二,三六一,一七	—	一,二四六,八二五	—	一五六,二三四	一五三,二七六	四六,〇三三	九六八,六三六	四七,三〇四	六四,一六三	五,〇四三,五四八
同三十六年	二,八五四,五二二	—	一,〇九二,二六六	—	一四〇,二八六	八六,六三七	五七,一六八	九二〇,八八九	五,三六一	七,五五五	五,一六四,六八四
同三十七年	三,三四一,二二九	—	九六一,〇八五	—	一三三,四四一	一〇九,三三三	七一,四九六	七二七,九三三	五,〇五六	四三,九九七	五,三八六,五八九
同三十八年	三,三八二,四九八	—	七九六,二七八	—	一三三,〇五九	二〇五,六九五	六四,六〇〇	八二八,九二二	二,八二七	六三,六四九	五,四五七,五五八
同三十九年	三,四三二,二五三	—	九五〇,三三六	—	九九,七〇三	三九七,二七九	六八,〇六一	一,〇四〇,四四二	九,一一八	三九,七二〇	六,〇三六,九六一
同四十年	三,九〇九,三四七	—	九〇四,七三八	—	七三,七九七	三四〇,六八八	七二,三〇一	一,三三六,六二九	二,九六二	二二,〇七二	六,四六二,四六三
同四十一年	四,四二二,八五二	—	九四四,〇四七	—	六二,二七八	三四三,六〇五	六四,〇三一	一,〇四七,七九四	二,七二六	一五,三三三	六,九〇二,六三六
同四十二年	四,五七七,九六一	—	九八八,一一二	—	七二,六〇三	三七八,八九九	七二,一一三	七六八,〇七二	一,七六一	—	六,八六九,六一九
同四十二年	四,六三七,一三五	—	九三七,三七七	—	八四,六七三	五一,七一九	九三,一三五	七九七,〇二六	三,三〇七	五,四四四	七,〇六九,八二六
同四十二年	五,五四一,五九九	—	九八八,一六三	—	八五,九一九	四三三,三五五	一一〇,三三二	七四二,〇七五	二,〇八二	一四,三九八	七,九三六,七八二
大正元年	六,二八二,一七六	—	一,〇四九,七八九	—	九一,九八九	四三六,一九五	一〇六,三三一	六八七,七九二	二,八二四	一四,七六八	八,六七一,九〇四
同二年	六,八四八,〇九八	—	一,〇六四,四九七	—	一一,七〇四	六二四,五五五	一三五,四七八	七四五,四二〇	一,〇〇三	一三,〇六八	九,五三三,八二二
同三年	六,九三三,九九九	—	八九二,九九九	—	九八,六四七	七八,五六一	一三七,一七九	六〇三,三三〇	三,五三〇	一七,七七〇	九,四四九,九六五
同四年	六,〇一六,五四六	—	六〇六,四八一	—	九八,三五五	七三六,二七〇	二二九,四八二	三八五,四六五	二,三六九	二八,一五八	八,〇〇三,一三二
同五年	六,六二〇,〇三〇	—	六二二,八〇七	—	二五〇,二四	七五,四六七	九〇,〇二八	一三八,六五六	四四一,〇〇二	二,八五七	九,〇三六,九二八

同六年	六,八八八,六三三	—	八三九,六四四	—	四三四,三七二	一〇二,一八〇	一,三四八,四三二	一四九,〇八四	五六八,二五	二,一三八	一〇,二三三,七三九
同七年	六,八四九,九九	—	八六九,七〇二	—	四四五,四六六	一一八,二五四	一一九,一四一	一九九,五六四	五九八,九七〇	三,八三〇	一〇,三七七,七四六
同八年	七,四八八,五四〇	—	九〇一,四七六	—	五二七,八九一	一三六,六九一	四五一,二六六	二五,六四〇	五八八,八九五	六,二六八	一一,三〇六,六〇五
同九年	六,九三三,四一七	—	八七三,五八八	—	四〇一,一六七	一〇九,九六四	一,四三二,〇八六	二四九,六九九	四四八,八二四	四,七四九	一〇,四五三,七七七
同十年	六,六五二,八三三	—	六七七,八六〇	—	四二二,六六〇	七〇,五六八	一一三,三七九	三七七,七八八	三八八,六四七	四,二八六	九,六四七,〇二二
同十一年	七,一六七,四四〇	—	七四五,四八八	—	三八〇,三七二	八四,四九五	一,三五,五四九	二四一,七一九	四〇六,三二八	五,〇六七	一〇,二五六,三七八
同十二年	七,二九一,五四二	—	七四九,二二二	—	三七三,九九九	九八,〇五一	一,三六五,五四五	二八六,三三〇	二六五,七〇二	四,三二〇	一〇,四三四,六三二
同十三年	七,九八二,七三五	—	七八五,〇八七	—	四〇〇,三三〇	七五,四八八	一,三七,七〇一	三三三,六八七	一八六,三三九	二,四六七	一一,一三九,六〇四
同十四年	八,五七一,八七八	—	七〇三,七一九	—	五六一,八四〇	九一,七八一	二九六,五九七	三九九,一七七	一三二,一八八	一,三四〇	一一,六七八,三二七
昭和元年	五,五〇,九六三	—	七二九,二九三	—	六三九,〇〇五	一一三,九〇二	一,四四三,六八〇	三五九,七七三	一一三,八八一	一,三三五	一一,七〇〇,九二七
同二年	五,六三二,九五二	—	七五六,二五一	—	六三一,七八四	九八,八三三	一,五二二,一〇〇	三九二,六八六	九七,三三四	二,七二七	一二,〇九〇,四五二
同三年	五,五六,五四四	—	七二二,六六四	—	六三六,〇七〇	八二,三四五	一,五〇四,〇九八	三九〇,四四五	一八,六三九	二,一九四	一二,六七二,四一〇
同四年	五,六二二,〇七二	—	六四〇,〇二二	—	五七一,五七六	七八,八二四	一,四六九,八七四	三九〇,七八三	一,七五五	一,六三二	一二,六九一,四〇八
同五年	五,〇七三,八五二	—	四七四,五五四	—	五七六,六二二	六五,二〇六	一,三九七,四七二	三五一,〇〇六	—	—	一〇,四九五,一四七
同六年	四,三二七,四〇三	—	四二一,一〇九	—	五〇二,八四三	四〇,二五五	一,二七,三六九	三三二,二八七	—	—	八,八九〇,〇〇八
同七年	四,五六二,七三四	—	三三三,五二六	—	三八五,七三五	三三,三三二	一,二九四,四四九	三三三,〇〇七	—	—	九,五三六,三四

前表「其他各驛」數量中昭和七年に於て五百噸以上の送炭先驛名を次表に示し其の過去十年間の消長を窺ふことせり。

◎鐵道「其他各驛」別送出炭年別表

驛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
小森江	二七、三三八	一五、二九七	一〇、七〇一	四九、一三八	五六、〇四九	六四、〇三六	六三、八七〇	五五、八二三	六〇、八〇三	五九、七八一
大里	二五、一五〇	二五、四一六	三五、一七〇	四九、一三八	五六、〇四九	六四、〇三六	六三、八七〇	五五、八二三	六〇、八〇三	五九、七八一
枝光	九四、九八五	一一八、九九二	一一五、九七〇	一一七、九三四	一一四、一九九	一一三、七五三	一一三、二二三	一一三、四五四	一〇八、二五〇	八九、八六〇
八幡	一三、七六三	一一、八四〇	一四、六九八	一一、六五四	二〇、九三六	四九、七、四二	六五、〇九〇	五九、七七八	五六、八〇〇	五四、八八九
西八幡	五八四、六八七	四三〇、一七九	六〇六、二五四	六五九、四六五	七三三、四三〇	一九〇、九八四	二七、六八二	三三、〇七八	一七、〇六三	一六、四六三
黒崎	二二、六三六	二〇、五三八	二〇、三六五	二二、二七七	二二、三三〇	三三、五九三	二七、六八二	三三、〇七八	一七、〇六三	一六、四六三
折尾	二、四六一	二、一三三	二、〇三三	二、四六五	二、〇五九	一、五二二	一、四三三	一、三〇五	七〇八	五三四
室木	一、九六二	二、〇三七	五〇〇	六六九	二二五	六〇七	一五	二六	二六	二六
名島	七、三三八	二、五三五	一〇、六七四	一七、六五〇	一九、八一〇	一五、一三九	二四、四九六	二七、〇六六	八、〇三三	八、〇三三
箱崎	四、二五一	三、三七〇	一、六六一	一、三三七	五四二	九四三	二八〇	二六九	三八〇	三八〇
吉塚	三、二八七	三、七九三	五、〇六三	九、三三二	一七、六六三	二五、〇二二	二五、六三三	二三、四一七	三三、三六四	五二、一九六
博多築港	六、四〇七	六、九七三	七、七七二	七、四五二	二、五六二	七、三六五	八、一三三	六、二七	四、六三三	三、五五六
博多	四、七六五	五、八三九	五、七三七	四、九六二	六、〇五〇	七、三六五	八、一三三	六、二七	四、六三三	三、五五六
南博多	一、九九一	一、四四六	一、一九七	六九五	四二八	一三三	三五	六、二七	四、六三三	三、五五六
鳥飼	八四四	五四七	七四八	六六七	四八七	二六〇	三〇	三〇	三〇	三〇

驛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
二日市	九五六	一、〇九〇	一、七三二	二、〇三三	七四八	一、〇〇七	一、二三三	六五三	一、三三五	一、五七七
基山	一、五六二	一、三九五	一、五四〇	九五	三五	一七八	六八	五七	五七	四六
田代	一、六三三	一、五五六	一、三三八	三〇	二九八	四八五	五一	一三五	二九	二六一
鳥栖	七、一八二	六、〇一〇	三、〇四八	一、一五五	七九五	三八九	二、八六八	四二九	二七五	一〇〇
神埼	六三五	三二〇	三〇	三三	三三	六〇	八三	六六	九〇	一一二
佐賀	六、七二〇	五、〇三二	四、〇六六	一、八二七	一、五三一	一、〇四八	一、〇六三	九二〇	一、一〇三	九二〇
牛津	一、九四三	二、一四二	三、一七四	二、五七四	一、二二〇	一、四八四	一、一三四	五六三	二六三	七六
肥前濱	六四一	二二八	—	—	—	—	—	—	—	—
上有田	二、〇三六	二、四四一	二、七九三	三、三三六	三、三〇八	三、八三四	四、二五三	三、二三四	三、二〇七	二、六五七
有田	四、七七六	四、九六〇	四、〇四五	二、〇一〇	一、五七九	一、二六四	一、一三三	一、〇四九	一、三三八	一、八八二
藏宿	七六三	六二七	九五	八	八	—	—	—	—	—
伊萬里	七六一	七五五	六三	九一八	五一八	五五八	三五二	一六	一五	—
久留米	一九、七七四	一七、四七七	一五、八四〇	九、八七八	九、〇三七	八、五三三	七、七九四	五、六〇〇	六、九七三	七、七三〇
南久留米	三、六九〇	二、九九七	二、九八九	一、四〇二	—	—	—	—	—	—
田主丸	一、〇九三	九七二	九七二	二八九	—	—	—	—	—	—
筑後吉井	九五五	七二二	九六八	一八九	—	—	—	—	—	—
荒木	二、〇六五	二、三七四	一、二二六	六〇四	一九九	一三三	一、四五七	七九四	六六九	一、七八五
羽大塚	五、八〇五	三、九三九	三、七七八	一、八七三	四八七	一、七八〇	八六五	九四六	一、〇三一	二、六五八

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(各縣送出炭年別)

縣名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
矢部川	二、二二〇	一、七一九	一、六六九	六四八	二九八	三九〇	二六三	一〇九	三五九	四二五
筑後柳河	一、三二六	一、四〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—
大牟田	五、〇九五	三、四四三	四、四四七	八三一	二、四二八	四六、五二六	四二、九七二	四五、五一七	五五、五二七	七七、九五六
高瀬	五、八〇三	五、四〇一	三、五二二	九、九三九	二、三三七	五、二一七	一、九五五	二、五三六	八五六	九七三
木葉	三、二九八	二、八五二	二、七三九	二、九〇〇	二、九二八	二、六五五	一、九二一	一、五八三	一、五三九	一、三九七
來民	一、一八一	一、一四三	六九六	三四九	三七七	四四九	五七九	五五六	四二九	七二二
山鹿	二、一一〇	一、五〇七	一、九七二	五九一	七六	七五六	一、三八六	六三二	六八	—
上熊本	八、四六六	一〇、五〇二	一〇、三六一	六、〇四三	六、九九七	八、四五七	四、八七四	三、三三五	三、八二七	五、四八七
高江	一、三三〇	五三二	一、六三三	八四	一五九	—	—	—	—	—
隈府	一、四三四	一、二三四	一、六〇六	九三一	五四〇	—	—	—	—	—
熊本	一、三三六	二、八六九	一、三、四〇一	一一、九九九	九、六〇三	一〇、四一五	一〇、五七〇	九、七一八	七、七二三	六、〇三八
熊本	五、八八四	五、七九〇	六、八四八	三、七三一	三、二六	二、一〇一	二、四二二	二、七二四	三、六二四	二、五五五
春竹	一、三九七	一、三七八	一、〇九九	六〇三	一、〇一八	一、〇七二	八三四	九八五	五八六	四七四
御船	一、九〇四	二、四九二	一、六七三	四七五	三〇二	三〇四	一、七三七	九三三	四六	—
水前寺	五三三	五二四	四六九	三九四	二五三	—	—	—	—	—
朝地	一、七二八	一、三四二	一、四三〇	一、四七九	一、五七四	一、四五五	一、六三四	一、六三四	一、四五四	一、二四六
犬飼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

縣名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
川尻	一、〇一五	七三四	七三九	三四九	一六〇	一一九	二一六	一九三	七五	一〇五
宇土	九四四	一、〇一六	八八六	七三二	七五七	八六九	六九五	八〇四	四二二	四一九
三角	三、九九二	五、四二七	三、七三二	七、八一九	六、九二二	四、三三七	九、一七〇	七、三九三	四、一二二	五、六九一
松橋	五三九	七六〇	六二六	三三七	三二八	四〇九	七四五	五六一	四七一	四七三
小川	一、一三三	一、七五三	二、〇四四	一、四一三	九六八	二二二	一八二	二五九	一三六	一八五
坂本	五、五六四	四、五九九	六〇	七八	一五	四、五二九	四、五二九	二五三	二五三	三七〇
鹿兒島	四、三六八	四、七〇八	五、九〇二	六、六六六	五、七四七	一四、九二八	一五、二〇一	一二、三七九	一六、七二二	二五、五三一
阿多	六四一	一、一三四	一三〇	—	四一	四九	二六	—	—	—
加世田	二、二八〇	二、六三四	二、七二六	四、〇七四	二、四七六	三、三六四	三、四六五	二、二二二	一、三七二	一、二三五
都城	四、二〇七	二、八一六	二、五五八	二、七五二	二、三〇三	二、七二八	三、四八三	三、五三四	二、五三二	二、五七九
西都城	一、七六三	一、九二九	一、〇二四	七六〇	一、一五六	一、八七四	一、七六三	一、七九四	一、七〇一	九五四
大淀	二、九四七	二、七六二	二、七五五	三、一三三	三、〇〇〇	二、九五八	二、六四七	一、〇二八	一、七〇四	九四三
宮崎	三、三六九	三、九八五	六、九五四	六、九二五	六、〇二二	五、八三六	五、四五六	四、七五〇	三、八六一	二、六二七
花ヶ島	一、二五四	二、一五六	二、一九八	二、六二二	二、三九六	一、三二八	一、六九一	一、五二〇	一、三七二	一、二七一
高鍋	一、七七〇	一、六七六	一、四九九	一、四三三	一、六〇三	一、三二〇	一、〇〇六	九二七	四三七	五三三
南延岡	四、五、五四〇	二、一、四三二	六、九、〇〇〇	三、六、七四	二、四、六一	二、九、九	一、九、二四	一、四、一一	一、〇、九一	一九二
延岡	一、七八三	一、八六六	二、一四二	一、八九五	二、一〇四	一、七〇二	一、四九七	九三二	一、二五〇	八〇

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(各縣送出炭年別)

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(各驛送出炭年別)

驛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
津久見	六四〇	六七四	一、二六六	九、三七六	一七、四五七	一九、四四一	二二、三三一	二〇、九三八	二〇、五七七	一五、五九八
白杵	一、六三七	一、五九七	一、九一八	一、八九二	一、七四三	一、六五四	一、四四〇	一、二五七	一、一四三	一、六八五
坂ノ市	八四一	七三二	七〇八	九一	七〇〇	七〇九	七四一	七四三	七八三	七九三
鶴崎	一、二四八	一、三六一	二、〇三二	一、六三〇	一、六九五	二、〇三三	一、六五一	一、四五三	一、二〇〇	九五七
大分	一五、〇三三	一五、六七七	一五、五六六	一八、八〇一	一七、七五一	一六、九一八	一五、四八二	一三、八八〇	一三、三〇五	一一、三〇三
西大分	二、一九二	二、三三四	二、八七四	三、七三二	四、八三七	一〇、〇一一	九、九九三	一〇、一七〇	一三、八四三	八、六八二
別府	三、三三四	三、二九〇	三、六四七	四、六九七	四、〇三九	三、四四四	三、四二二	三、一七〇	三、五二二	二、九四三
日出	二、八六九	一、三七〇	二、〇四七	二、四三〇	一、七九〇	一、六三四	一、五〇五	一、四七八	一、〇八八	一、〇六七
杵築	五九九	七九七	一、五四五	一、二二六	一、二二六	一、四〇一	一、四四六	一、〇五一	一、二二九	九四四
杵築町	七九五	七九〇	八四三	八〇一	六七三	七八八	六三六	六〇六	八〇三	六五七
橋津	一、六三〇	一、三七〇	一、二二三	一、四五五	一、五二二	一、五九九	一、五四七	一、二六〇	九二七	三八一
豊後高田	二、七九七	二、八〇七	二、九七九	四、五二三	四、三三九	四、〇四四	四、二六五	四、五五六	三、二九八	二、六七七
豊前長洲	二、八二六	二、二〇九	二、〇〇〇	三、〇九六	二、七二一	三、五五五	四、三三三	二、八六九	二、八八六	三、四三三
柳ヶ浦	三、五三〇	三、三一九	三、〇四七	五、一一〇	五、五四八	五、四六六	五、一〇〇	五、九八二	六、一〇六	四、五一五
豊前善光寺	一、九九九	一、七九二	二、〇二六	二、九三三	三、一五三	二、九一八	三、二六三	三、六八九	三、四一〇	二、九四六

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(各驛送出炭年別)

驛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
今津	一、四三二	一、〇七四	一、四四六	二、〇五一	二、二二九	二、一四八	二、六二〇	二、六五七	二、三三七	二、二三〇
大津	三、〇三五	二、二五九	一、五六八	二、〇八〇	二、二二七	一、八三四	一、九三七	二、三七五	一、九四〇	一、八八六
中津	一、三、六六七	二、二、七九七	二、三、二四九	二、二、四三三	二、三、九二二	一、六、八八〇	一、五、七八七	一、五、九九九	一、四、五九九	一、二、四六九
椎田	八〇一	九三七	七五五	七九五	八〇〇	九五七	九三四	一、〇四四	一、〇三三	八七九
行橋	四、六六六	四、一五五	四、七六九	四、五五五	五、一四〇	五、四七四	五、〇四九	五、一七五	四、九四四	四、四〇八
犀川	五五四	三六八	六六五	七三四	七七七	七三九	六三一	六九二	六七九	七〇七
夏吉	六四	四三五	一、〇〇三	五六七	一、一五五	一、二八四	八〇一	九七四	一、〇七六	九六一
苅田	五六、一九六	五七、二〇〇	六五、一六八	八六、二二二	八九、三九九	七七、四八六	七〇、一五五	五九、〇六三	三七、一九二	三七、三三二
曾根	五五〇	五七八	五四五	五四七	四八九	四八四	四七四	五七五	三八二	五二八
城野	六、九七七	六、八五二	六、七四七	六、三九〇	七、三二五	六、七〇六	五、二七三	六、三五一	六、五九四	五、四八七
筑前植木	八七〇	七八五	九八二	七三〇	八三九	八四四	一、〇二二	一、一三九	二、六五〇	四、〇四四
新入	九一五	一、二七二	一、一三一	一、七三〇	二、三三六	三、六三三	四、五五	三、五九	九一三	—
直方	三、六八七	四、〇九〇	四、九九八	六、〇九一	五、八二四	四、六二七	二、七六六	四、一〇六	三、二七二	二、五四八
勝野	一、七六二	二、二四七	二、〇二二	一、四二四	六六五	一、〇四四	一、六三八	二、一七三	二、四五六	二、四八八
桐野	五九八	五三四	五三〇	六一九	一、二二九	五八六	二五四	一八七	一九五	九六
新多	一、〇二四	七〇五	一、〇七四	八	—	二七、七六三	二五、〇一八	一七、七七八	一六、六三三	二、六七三
鹽頭	一、〇一四	三三〇	四二五	四二五	一四五	一五	三四三	二〇	一〇五	一〇四
目尾	一、四一五	八四〇	八二五	三〇	一五	五八七	九二九	一、〇七五	二九九	五四九

驛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
幸袋	一、一九九	六八七	一、四九九	二、一五二	二、二四四	一、六八二	一、三三二	一、四六六	七六一	五、六四〇
鯉田	六、六五六	五、三五七	二、七六三	二五、二四四	二三、九六九	三六、七五七	四七、八六五	二〇、四〇六	一三、〇六五	一八、二八
芳雄	九三三	一、四三八	二、一五五	五二九	一〇四	一三四	一〇五	三五二	六三四	一、七五五
飯塚	一、〇八九	二八〇	九一三	二、三一九	二、三三三	一、七七三	八九一	一、三五四	五六五	一、七三
筑前山家	三、五四五	五、一八七	四、三五六	三三七	—	—	—	—	—	—
白井	二、二五五	六四七	二二四	三〇八	三四五	三三〇	九六七	一、四〇九	四三	—
藤棚	一、七三六	六五五	一、四四七	一、四〇五	八四五	五七五	三〇	一五	—	—
赤池	二九、七五六	三五、四一三	三九、六六五	三四、一三三	四、三三〇	—	—	—	—	—
船尾	一七、五七八	五、一五三	四、二八二	四、四六六	四、三三〇	三、四〇八	三、八九〇	四、八〇一	九八七	—
第一大任	一、五〇五	二、六九五	三、六九九	一三、八九〇	三、七二二	二、二七二	一、三三二	一、七九八	三、八九八	—
添田	八〇〇	二九九	二四〇	三八〇	五三二	四三五	七三九	八八	二二四	—
下關	二、四九一	二、一八八	二、三三九	二、六二二	二、八二六	二、一七二	三、一三三	二、〇一〇	二、〇一五	—
小月	八三二	八四一	一、一一八	一、三〇三	一、一一三	一、三三四	一、四八二	一、五二六	一、一六五	—
セメント町	五三六	六六四	七七九	七九三	七〇六	九〇七	一、〇三四	三〇五	—	—
船木町	五五三	七〇〇	七五三	八二五	一、三〇一	一、一二七	六三八	九	—	—
宇部新川	一、三二二	九八六	八二九	三、五六四	一、九九九	一、〇三九	九九	九八	二五六	—

驛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
山口	一、五一六	一、六四〇	一、六六三	一、八五九	一、八二三	二、三〇二	一、八七三	一、二九〇	一、五〇七	一、三三七
津和野	九八一	一、〇八五	一、二八七	九一五	八八	六八六	一、〇二九	七〇〇	二七三	—
三田尻	五八三	五八五	一、〇七二	一、二八四	九八二	九九五	一、一五三	七八九	五二九	—
岡山	七〇五	六三〇	四六五	五〇四	二五	四四四	四〇六	二九	三二九	—
姫路	六三〇	六六〇	六五一	四八三	三七五	二八五	三四	六三	一三五	—
梅田	九〇〇	九四五	九二	七九八	—	一五	—	—	—	—
湊町	一、二六二	一、三二二	一、二六三	一、六〇九	一、〇一五	五二九	一、二二七	一、〇五三	五四	—
石見益田	一、一三三	一、〇一三	九三四	二九八	一七二	二八九	二五五	一五	七	—
石見江津	一、四〇四	四六六	二、一五一	一、八六九	一、〇五二	一、二五六	九四四	—	—	—
仁萬	一、八三六	三、三三〇	四、八九四	五、六八四	五、八六〇	六、七〇二	一、六〇三	二八三	六〇	—
出雲今市	五、四七七	六、七三八	六、三三三	五、五〇〇	六、七三三	六、三三八	七、一一〇	四、三四三	一、四八八	—
大津町	八二〇	一、四一六	一、三九四	一、四九一	一、三七三	一九〇	—	—	—	—
大社	七八二	九三三	六〇三	八三八	八五九	八四六	五二八	三〇五	四三	—
大井	一、二五四	一、一五四	一、一九六	七七六	一一一	五八二	五五八	四〇九	三三八	—
木次	八六七	一、〇五六	一、二九一	一、六二四	一、二九〇	一、三六〇	一、〇四七	六六一	七七七	—
倉吉	一、二二四	一、八一八	二、六二〇	二、六六三	三、四七四	二、九五四	七九八	二四五	七	—
鳥取	三、八七三	五、五三三	七、九〇六	六、九一四	五、七六四	六、〇八七	五、〇一六	二、九〇五	一、四〇四	—
二條	八五三	四一五	三〇五	五六九	四三八	三三六	五九二	四三八	二三二	—

縣名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
驛名	五五五	四八〇	三八	三三八	二二〇	一六五	一五	九〇	一〇七	元
奈良	七二〇	六〇〇	四八四	三五五	二五五	二二〇	一三五	三〇	一〇七	元
長野	二、九二七	一、九五五	一、六九七	一、五二八	一、二九七	九九〇	一、三三三	八七三	七七八	二八八
名古屋	八七〇	六九八	四八〇	四四一	三五五	三三三	一〇七	一九八	二八四	二六
濱松	二、九二五	二、五二六	二、二二二	一、九七一	一、三三〇	六六八	一、七四〇	二七〇	四七七	一六
國府津	五、四一五	四、八六六	三、七〇三	三、二五九	二、七三三	二、三四七	一、七四〇	二七〇	四七七	一六
沙留	一、五四五	一、一七〇	一、一三五	九六〇	七五八	六四五	二八五	二九	一五	一
千葉	五、五五	四八〇	六四五	八二五	七五八	六四五	二八五	二九	一五	一
甲府	三、四九五	二、九三九	二、四二二	二、〇七五	一、六四四	一、〇八〇	八四	七五	一五	一
田端	二、四九〇	二、三四〇	二、三三四	二、〇三三	一、八七三	一、三九七	一、三三五	一、一九五	七六〇	二五
大宮	五七〇	六三〇	六二七	五五五	五三五	五二〇	三五五	一	一	一
小山	一、二九〇	一、三二一	一、〇〇七	八九四	八三五	四五〇	九	一五	一	一
水戸	八八五	九七五	九〇二	八七〇	八二五	六六〇	三四五	一	一	一
宇都宮										

◎送出炭年別炭種別表

年次	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	燻石	無煙炭	骸炭	石殼	合計
明治十九年	一七五、三四	九五、六三			三六、九六				三〇九、八九
同二十年	三三三、六三	一三三、五四			五四、六四	二七二			四〇〇、〇八
同二十一年	三七七、七六	一一九、八七			五八、七二	一、二七〇			五五一、六七
同二十二年	五二七、二五	九九、〇六			四三、七一	二八			六六九、九五
同二十三年	五八二、〇三	八八、四四			四八、九六	三〇三			七八七、五九
同二十四年	六五五、四九	一一六、八八			四三、四三				九二〇、四一
同二十五年	六二七、四四	三三八、六九			五二、六四				一、七九〇
同二十六年	六九二、七〇	二七三、三七			五二、八三	二五六			一、三九七、七七
同二十七年	九三四、三四	三三三、〇四			五〇、〇四				一、三三四、〇七
同二十八年	一、一〇二、五四	五三八、七七			五四、九二				一、二一六、六六
同二十九年	一、三二〇、九四	五八一、三四			五五、二八				一、三三四、五二
同三十年	一、二九二、八三	五七七、五五			八〇、二六	二、四三六			二、七六六、三二
同三十一年	一、六四六、四三	六三八、八七			五二、四八	八七七			三、四〇〇、七九
同三十二年	一、七二四、五三	七九、〇五			五三、一四	七一九			三、五三三、三五
同三十三年	二、二五、九二	八三六、九四			二五、八二	四六九			四、〇八七、二五

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(年別炭種別)

年次	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	燻石	無煙炭	骸炭	石殻	合計
明治三十四年	二、三九九、八五八	一、〇二六、〇八四	一、二八五、八九一	二〇、一六五	七三、六〇七	六二八	五、四四四	一、〇六五	四、七六一、八三三
同三十五年	二、二七九、一九六	一、〇五七、五四四	一、五九八、四三〇	一八、〇四三	九二、二三五	五二七	六、四七二	一、二二	五、〇四三、五四八
同三十六年	二、〇一〇、〇三二	一、三五二、一四四	一、六三三、七七二	四三、〇三三	一一四、七九九	一、六五一	八、四二六	八四〇	五、一六四、六八四
同三十七年	二、〇四五、七二九	一、三五五、五五一	一、七二二、八九六	七八、七四一	一一六、四四七	一〇、一五四	七、三四四	六六七	五、三八六、五二九
同三十八年	一、八八三、九三三	一、三三八、三九六	二、〇一六、九八〇	六二、二八九	二六、九四四	二八、四五〇	一九、七六〇	七九六	五、四五七、五二八
同三十九年	一、八五一、四三二	一、四三三、三五四	二、五六六、三二五	三〇、六三八	一一二、四三三	三七、二二七	一三、一九一	三九二	六、〇三六、九六一
同四十年	二、〇四四、九五〇	一、六四〇、六八八	二、六三二、七三二	四二、七二六	七七、七四一	三四、八二	一八、七七七	六七七	六、四六一、四六三
同四十一年	二、〇六四、七〇八	一、八三三、二八八	二、八四八、三三三	五三、六七二	七〇、三八五	四五、五九四	一五、八四〇	八三七	六、九〇二、六三六
同四十二年	一、八七三、八二四	一、九八三、〇五八	二、八三六、九三二	三二、九二五	六九、七〇九	五五、〇一九	一八、二九四	八八八	六、八六九、六一九
同四十二年	一、九五六、六四五	二、一九〇、七八〇	二、七二七、二九〇	三三、三九九	八六、八三三	六六、九四八	一六、七九〇	一、三三	七、〇六九、八二六
同四十四年	二、一七七、七三〇	二、五七三、五五一	二、八九〇、七七一	六五、二二〇	二五、七四四	七四、三四七	一八、二四五	一、一六四	七、九三六、七八二
大正元年	二、四〇三、四五九	三、〇三七、一四七	二、八七六、四五二	一六三、八四九	九五、〇〇九	七八、九五七	一五、六八三	一、三三八	八、六七二、九〇四
同二年	二、八四〇、一一二	二、九六三、〇八九	三、二八三、八〇九	二三〇、四七五	一一三、四三九	八二、九四九	一五、三〇五	一、六七〇	九、五三四、八三二
同三年	二、六六三、八〇九	二、八七六、七三二	三、五七三、五五二	二〇一、七四五	八九、二二五	八一、九四九	一八、八二四	二、三〇三	九、四四九、九六五
同四年	二、二六八、五三三	二、五九一、三三三	二、八〇六、四二七	一三六、〇一一	九四、一二五	八〇、五三四	一二、八三五	三、三四四	八、〇〇三、一一三
同五年	二、五六九、五五五	二、九五七、八九〇	三、〇三一、九五二	二五九、七二六	一一〇、二二五	九一、二四一	一八、〇五九	三、三〇一	九、〇三六、九二八
同六年	二、七二二、五二六	三、一三九、〇五八	三、七九五、八四五	三七八、三二〇	九七、五三三	八〇、七六六	一六、三三九	二、四七三	一〇、三三二、七二九

同七年	二、六三七、五二九	三、一三五、八〇五	四、〇三二、二一〇	三六五、三九五	一一二、七四四	八二、三九九	九、八五九	一、八四七	一〇、三七七、七四六
同八年	二、八四一、〇四八	三、五八一、三〇〇	四、四七七、一〇八	二三四、六三九	九八、三三六	八一、七六五	一、〇六二	一、三六七	一一、三〇六、六〇五
同九年	二、八三三、六五二	三、三六四、五二八	三、九八五、一九一	一三九、七三二	五五、七五六	七三、〇六七	二五二	一、六〇八	一〇、四五三、七七七
同十年	二、七八八、二二四	三、三九八、八二二	三、一九二、一三九	一三〇、五二二	七二、七八七	六二、二四六	—	二、三〇二	九、六四七、〇二二
同十一年	二、九七六、五一二	三、五四五、四八九	三、四八二、〇五六	九〇、三三一	九一、八五一	六七、九〇四	—	二、三三六	一〇、二五六、三七八
同十二年	三、〇八九、七六九	三、七九七、四四一	三、三二二、一一二	三四、三三〇	一一八、七四七	七〇、〇九九	—	二、一四三	一〇、四三四、六三一
同十三年	三、一六五、九五三	四、二二三、三三五	三、五五七、二六一	三三、七四三	九一、五九五	七五、八二四	—	一、九三三	一一、一三九、六〇四
同十四年	三、二九九、〇七六	四、七四三、八八七	三、四一六、七〇三	五五、七二五	七五、五四二	八六、八一	—	一、二〇三	一一、六七八、三二七
昭和元年	三、〇三三、七九九	五、〇〇三、三六三	二、九七六、四三三	一三三、三二〇	一三三、六六一	一一九、三〇八	—	一、〇三三	一一、七〇〇、九一七
同二年	三、〇四三、七九六	五、六二八、三〇二	三、〇五六、七四六	九四、三四四	一三三、九六九	一三二、六四八	—	六四七	一二、〇九〇、四五二
同三年	二、九七二、七〇二	五、五五九、六二八	二、七二六、一三三	一七三、五六二	一二七、〇五〇	二二六、一六九	—	一、六二	一一、六七二、四一〇
同四年	二、八六二、四五七	五、八三三、一〇三	二、三九〇、四五六	三四五、一九六	一四五、四六〇	一二五、七三六	—	—	一一、六九一、四〇八
同五年	二、五三七、九二七	五、四二六、三四〇	一、九二二、八八三	三四一、六七七	一五三、九九三	一一二、九三七	—	—	一〇、四九五、一四七
同六年	一、九四九、七九六	四、七五一、一九七	一、六五一、二八八	二五〇、二九三	一四九、三二八	九八、一〇六	—	—	八、八五〇、〇〇八
同七年	二、二二九、五二四	五、〇五四、一九一	一、七二三、三四三	二七五、四九八	一七九、六三四	九四、一二四	—	—	九、五三六、三二四

第五章 運炭 第三節 總送出炭高類別(年別炭種別)

第四節 炭鑛別送出高類別

◎炭鑛別年別送出炭表

鑛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
大之浦	九〇六、四四〇	八六、〇八二	一、〇六四、二〇一	一、二二一、七三一	一、二四一、〇〇〇	一、二七二、七九二	一、一九八、五三六	一、一四四、〇三二	一、一四二、二六二	一、〇四三、〇一六
三井田川	七八〇、〇五〇	七一九、四四九	八七一、六八八	九三七、三五二	九〇〇、三三二	九五二、三〇五	九〇〇、一五四	九七八、二七八	八五〇、〇三三	九〇二、二二五
鯉田	五一、四九一	五三三、九四六	五三七、七六六	六三〇、五五三	六四四、六七九	六六〇、三六五	五二〇、一三四	五〇三、四六九	四四三、三三七	四一七、〇五〇
豐國	四四六、七七九	四三九、〇六七	五二二、三三一	五一七、一九五	四〇〇、九一七	四八九、三八一	四八五、五八九	四六六、二五二	四四九、九〇九	四〇三、六六五
三井山野	四三二、五一七	四三七、五二二	四九七、四四二	五六一、八〇四	五四四、五七〇	五七二、一八七	五五九、二二五	五四〇、〇一六	四九九、五七六	四五三、〇六二
飯塚	三八四、三八五	三九〇、四九〇	五〇七、七八四	五四八、九〇一	五九一、六六七	六三三、一六七	五八九、八五〇	五四五、六五七	五三七、五九四	四五三、五〇九
赤池	三四一、五九九	三〇九、八八九	三六〇、四二四	三六八、一八八	三六二、三三八	三四四、九六〇	三二四、〇二七	二九五、四六四	二〇七、四〇五	一五〇、六三七
中鶴第一坑	三三九、八一	二八五、五九八	三三八、二八八	三七七、六〇七	三三三、五九〇	三〇七、九九九	二八四、〇七三	二九一、八三四	二八四、三六	二〇五、八一
新入	三三〇、九〇一	三二七、四八五	三九六、二二三	四四一、一三九	四三〇、四二七	四一三、〇一五	五四一、四一八	五一九、四五二	五〇五、八三三	四二〇、一七一
住友忠隈	三二四、三八七	三二四、五〇六	三九三、七六五	四四八、八七二	四三六、八八六	三七五、〇四四	三七七、一三〇	三七七、二二七	三七七、一七六	三五九、四三五
大峰	二九二、二八六	三三三、四七八	三六八、四三四	四〇〇、九一四	四三九、二七六	四五五、九三九	五〇二、〇九六	五三九、六九八	五六四、〇〇〇	四九九、三三九
大辻	二六〇、一七〇	二二三、一七九	二八八、七四七	三三〇、一四二	三〇八、七八六	三三八、三〇三	二八八、四二四	三〇六、〇八四	二六〇、七二五	二五九、三五四
古河下山田	二四二、八六三	一六二、四四〇	一七六、〇二〇	一六三、七六六	一五六、七九七	一五六、〇五一	一四七、五二九	一三三、八〇七	一三八、〇六〇	一〇八、七七六

方城	二四〇、〇八五	二五二、七二八	二六一、四二八	三三一、七七五	二六二、七二四	二九八、五五五	三〇九、九六〇	二七五、三八〇	二七三、八〇六	二三四、三〇五
上山田	二二七、八六九	二二六、四〇六	三〇六、八六二	三五六、三九五	二八七、二二五	二五四、四三八	二五八、九九八	二五〇、一八〇	一九九、三三一	一七八、四九九
芳雄	一九四、六八四	二〇七、五三〇	二七八、四二二	二八六、三五五	二六三、一五	二四三、五七六	二四、六七九	二四一、五九七	二二三、〇七八	一九一、五二二
高松本坑	一九二、〇三三	一九九、〇四五	一八六、三三〇	二〇〇、二八一	一五七、五三七	八五、二〇九	二二、一六七	—	—	—
嘉穂	一六五、七二二	一六七、〇八四	一四九、四一〇	一〇〇、六四四	—	—	—	—	—	—
木屋瀬	一六五、二九四	一五五、〇一七	二四二、〇三五	二六三、九三三	三三〇、九七〇	二八二、九六六	二七三、九九七	三三八、〇五八	三三三、一〇六	三三五、七〇〇
吉隈	一五九、六八八	一五五、七七八	一七八、三四三	一七六、九七八	一五五、七二二	一四八、四三四	一三二、九九一	一〇一、五七八	九五、五二六	八一、五五八
古河目尾	一五一、九六五	九九、二八二	一七三、八二四	二二五、八五七	二四九、三三〇	三〇四、七〇一	二九一、二三五	二七〇、三九六	二五一、四五九	二〇八、九二五
峰地	二二五、〇九九	一二五、二八九	一八七、八八六	二二一、三三三	二四九、三二七	二四八、一六〇	二二五、六五七	一七七、六七四	一七〇、二七八	一六五、八三四
綱分	二二二、〇八二	一一一、九九〇	二二〇、三四八	二二五、六三四	二二六、五五九	二二八、三四七	二二二、三六九	二〇三、六八三	七四、〇二〇	四三、三七
高松新坑	一一〇、六一二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大君高尾	一〇七、九〇七	七二、〇六一	七二、〇二二	九九、一〇四	六八、五二二	三八、六九二	—	—	—	—
赤坂	九八、五六二	一〇七、五五七	一一五、三六三	一五六、八二四	一五五、五二五	一五七、三七三	一四九、九二七	一三八、三七八	一三七、一七五	一二一、五八四
漆生	九七、四九八	九一、八六六	一一〇、六三四	一五四、一四	一五一、〇三九	一七四、〇三二	一六八、一三三	一七一、六五九	一四九、三六四	一二二、〇四八
豆田	八八、八八一	六九、三三八	七九、八七四	七〇、六二九	五六、九五五	五五、〇七八	六三、一一五	六三、一三九	八二、六二〇	七五、八七七
岩崎	八七、七六七	八五、九四一	八六、〇〇九	九二、九九〇	一〇七、一三三	九六、五七一	八六、五六三	七五、六一六	五一、五五四	六五、三〇六
新 hands	八五、九九六	三六、一五八	—	—	—	—	—	—	—	—
起行小松	八五、六八三	六五、八八七	七五、九三	一〇六、八七〇	一一二、二五六	九一、四八九	一三三、一〇六	一六五、九七六	一六二、八六三	一二七、九八七

鑛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
中鶴第二坑 (元大根土)	八二、九四八	八四、五二七	二〇、二二五	一三六、二五九	一〇一、〇六二	一三三、三三三	一〇四、〇六八	一一一、五三四	一〇七、八六〇	五五、七〇四
深坂	八〇、五八一	七三、五二三	六〇、二四三	五四、四六八	一一、六七二	—	—	—	—	—
新宮尾	七三、六九〇	七四、四六二	五五、二四三	—	—	—	—	—	—	—
山田 (元中山田)	七一、一五〇	八一、四二六	一一、五〇七	—	—	—	—	—	—	—
明治	六一、七七二	一〇二、七九三	一八二、一〇二	—	—	—	—	—	—	—
海老津	五八、七〇三	五八、〇八一	五四、五二一	八二、八七〇	一三七、三五〇	一三四、三八七	一一八、九八〇	一一四、〇五〇	一〇一、六八八	七三、五七〇
香春 (元不登)	五六、六二六	四四、五二八	八一、九九九	二、四六三	四、二二九	—	—	—	—	—
高尾	五三、四八七	四六、五九六	四三、七三八	四四、四九〇	四四、〇一八	六六、七五二	六二、四八三	四六、五二四	六三、七五八	一〇四、八七七
中山	五二、六二八	五一、六三九	九、三八九	—	—	—	—	—	—	—
平山	四六、八三四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上山	四五、〇五四	五四、三二二	三三、九九三	—	—	—	—	—	—	—
宮尾	四二、七六三	三五、八一五	三五、三六五	七、〇〇七	八二、二二三	五三、五八四	三五、四七六	三七、六〇八	四六、九九七	七七、九七〇
豐州	三七、三三三	三二、六三一	四四、九八五	三五、四四五	三三、二四四	二四、二〇六	二七、五七八	三〇、六七四	二〇、八六三	三〇、五八〇
支王	三六、九〇五	三〇、三七五	一五、九九一	一一、二八一	一六、八三三	二四、六五八	二四、七四五	七、二〇五	七、五二五	五、六九六
日吉	三二、九一一	三四、〇四三	三、六〇二	二九、八七八	二九、四〇一	三三、三八八	四四、七八〇	三九、九五〇	四三、三八九	二六、八三三
大和	二七、九九九	二七、七〇八	二九、一八〇	二九、五〇二	三五、〇七三	三七、一四四	二四、六〇五	一四、二二二	一二、一三五	五、九六一

鑛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
新田川	三三、八八二	一九、四三五	一三、七六九	—	—	—	—	—	—	—
島尾	三二、八〇七	四五、二六三	六七、五四六	八〇、三九三	七四、七三八	八〇、二一六	八三、三七七	七七、〇八〇	六九、四七七	六二、二七一
旭尾	三三、一四三	一五、九六四	一七、六七二	二二、七九三	二二、八三三	二二、七三三	二四、九四七	八、七八二	一四、四〇七	五三、一六五
新目尾	二〇、九七五	一四、四八二	一八、三三八	一二、六九七	一九、二三〇	一九、〇七〇	二九、九一八	二四、〇〇五	三五、二八五	三七、四三八
大谷 (在遠)	二〇、八九一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
綠	一九、三三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大成	一八、九六四	一一、六七二	二、三五六	二、六八七	七、九七四	一七、三三五	一五、〇五五	一三、八九〇	二〇、九八五	一一、三三九
香之浦 (元里木)	一八、八五九	二九、五四五	三三、三二六	二〇、五八六	一九、三七二	二一、八五四	二四、七二二	二三、八九四	二七、二七六	三三、六七三
樋口 (元玄王)	一七、五八九	一一、八二二	一〇、〇九七	九、三五五	七、三〇四	—	—	—	—	—
高江 (元木野)	一七、五六九	一八、七六二	一一、〇〇三	一六、七四五	一一、七八二	二、七三四	—	—	—	—
佐興	一四、五四八	八、二〇八	五八五	—	—	—	—	—	—	—
大隈	一三、八九六	五四、五九六	七九、三三二	九八、二二六	一〇四、六二九	一〇八、一八二	九、五五二	—	—	—
小竹	一三、六三三	一四、一一八	一五、〇六七	二三、六四四	二三、三二二	—	—	—	—	—
沓拔二	一一、七〇八	一一、九一八	一二、七五五	一六、五四三	三三、八四三	—	—	—	—	—
中津原	一一、八二九	一一、一八七	—	—	—	—	—	—	—	—
新高江	八、七三七	一一、四六九	—	—	—	—	—	—	—	—
安倍	八、一〇七	一五、八九四	一一、八八八	一〇、六五三	一一、六六三	—	—	—	—	—
江藤 (元大藤)	八、一〇三	八、九五五	四、八七〇	—	—	—	—	—	—	—

鑛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
中鶴第三				二、三八六	三〇、三八八	三四、七四〇	四〇、九一九	五〇、三六二	七三、八六六	五三、〇一九
中御德				八、九六一	一五、一七六	一一、七三二	八、九三三	一五、八二二	一三、〇二二	
本添田				八、五五三	一八、四四五	一五、八九九	九、六五五	一〇、四七七	一七、六三三	一九、二七三
宮山				六、二三〇	七、四九六	七、七三八				
大黒				五、九三〇	九、七四一	一一、六二三				
花(元新田)				四、一八七	九、九九二	二四、三三七	二四、三六八	一八、八二九	一〇、三七八	
日之出一				三、二二三	一八、〇四七	一九、三三〇	二五、五三七	一一、九八八		
川崎				一、六五五	三〇、〇九三	七三、三三七	五四、九六一	五八、三三九	七五、九九九	六六、〇三三
門松				一、一八五	五、三四四	二、二六六	一、一六六	三、二二七	五、六三九	九、一九六
天神				一、〇九七	一、四九〇	二、二九二	二、二三三	三、一五八		一、一九一
新貴船				一、〇二九	三、二二六					
朝倉				一、八四四	五、四九九	一、一〇一	四、三四〇	三、〇七三	四、二五七	七、〇七五
見立				九二	一、二七四	三、二二六	八、五五六	九、九九一	四、五〇四	三、一七〇
吉原				三〇	七四六	二、〇一六	二、六二六	二、九五三	一、六五二	三、一六二
杉田				一五	一、五九九	二、三九七	二、九〇五	一、八七八	七七七	八五七
中山田					五二、五〇七	九五、四六一	五七、〇四一	五五、一〇一	四五、五四〇	三七、三三〇

鑛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
鴻之巢					三三、九五〇	八六、二六九	一一、二四〇	九四、四三八	九二、八七一	七七、四三九
神之浦					七、六七三	一八、三六三	二五、一八九	八八、七二八	八九、七四六	八〇、一七五
貴船					六、七三二	二八、二六〇	三五、三九六	三九、九八七	三五、七九二	三八、〇三三
新御德					四、七九三	一一、四四三				
大尾					一、〇三一	四八三	一九九	一三〇	一、〇五八	七九一
上目					九三三	三、二二二	一、三三〇	四、四八八	一三、七三五	一九、八五四
出雲					四九七	八四三	四〇八			
式部					四一五	七、五八四	七、八八二	七、〇七七	六、七五一	三、三四二
佐與					四〇〇					
益限					四五	四、九五九	五、三六七			一、九二八
生神					三〇	四一八	五三三	一六五		一、六三四
以下略										
遠賀	三、〇二五	一、二二七	一、四九三	一、六四二	五、二〇二	一、七一九	七九二	七六二	一、七四四	二、五八九
鞍手	八、二五三	四、七三五	四、〇五六	五、七六七	三三二	一、五三九	二、五三四	四、六八一	一四、八七六	九、九六七
嘉穗	一〇、五三八	六、三三五	三、七五四	二六、二七九	一一、七二四	二九、四五〇	一〇、一四七	八、五三四	一一、七六〇	一五、〇〇九
田川	三六、八二三	一六、八二八	三七、二九八	三八、一七九	一一、三〇三	一五、二八五	一五、六四三	二、三三八	一〇、九五七	一三、一〇二
合計	九五、六三四	八、八五〇〇八	一〇、四九五、一四七	一一、六九一、四〇八	一一、六七二、四一〇	一一、〇九〇、四五三	一一、七〇〇、九二七	一一、六七八、三七二	一一、三九六、〇四一	一〇、四三四、六三二

第五章 運炭

第四節 炭鑛別送炭高類別(炭鑛別仕向先別送出炭)

一〇四

鑛名	若松驛	戸畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	計
新宮尾	四〇、五七五	一〇、二四四	九、〇八七	七、六七三	—	五、二二一	—	七三、六九〇
山田	二三、五八〇	二九、四三六	—	—	—	四、〇八五	—	七一、一五〇
明治	二六、九三九	九、八八五	二〇	八八五	—	二四、九三三	—	六二、七七二
海老津	一五、六四〇	一七、五九三	三六	一、三三三	—	一五、三九九	—	五八、七〇三
香春	三六、一四五	六、二八〇	一五	一、五二八	—	八、二九五	—	五六、六三六
高尾	一九、六四六	一〇、六七九	—	—	—	一、二四八	—	五三、四八七
中山	二九、一五六	一六、一九一	九〇	—	—	二、二四八	—	五三、六三八
平山	一八、七三三	一八、四七六	—	—	—	二、二六四	—	四六、八三四
上山	一〇、〇一八	二五、八九四	—	—	—	八、七四八	—	四六、八三四
宮尾	一九一	一、六二四	—	—	—	二、三九五	—	四三、七六三
豐州	五、八〇五	一三、四五〇	—	—	—	一、四三四	—	四三、七六三
支王	二二、四四九	二、三五九	一、三六六	一、七六	—	五、二二五	—	三七、三三三
日吉	九、〇六五	五、三三九	四	四、五	—	九、五〇五	—	三六、九〇五
大和	一三、七九七	一、四一五	—	—	—	一、〇九九	—	三三、九一一
新田	八、九〇八	四、五七三	—	—	—	一、八〇〇	—	二七、九五九
島廻	一、三〇〇	一、六二二	二五	三、八	—	七、七八〇	—	二二、八八二
旭	一四、六三七	五、〇九四	二〇	六、〇	—	—	—	二二、一四五
新目尾	九、四〇七	四、七四四	一五	一、五	—	—	—	二〇、九七五
大谷(在遠賀)	二二、六二二	五、一〇一	三七	一、六四三	—	—	—	二〇、八九一
綠	二二、七五五	六、五八五	—	—	—	—	—	一九、三三〇
大成	六、八八九	七、一一四	—	—	—	—	—	一八、九六四
香之浦	一三、二二五	四、九六一	—	—	—	—	—	一八、八八九
樋口	三、一〇五	六、四一六	七、八八	—	—	—	—	一七、五八九
高江	一四、六九四	一、九〇六	三〇	五、九	—	—	—	一七、五六九
佐興	四、六〇三	三、三四五	—	—	—	—	—	一四、五四八
大限	二、八八一	一、六〇四	—	—	—	—	—	一三、八九六
小竹	五、九八〇	六、九四七	二五	九〇	—	—	—	一三、六三三
香拔二	四、八〇六	一、三三三	七五	九〇	—	—	—	一三、七〇八
中津原	六、二九一	九〇〇	一七九	—	—	—	—	一一、八二九
新高江	六、八二七	一、九一〇	—	—	—	—	—	八、七三七
安倍	二、七〇七	一、六七二	—	—	—	—	—	八、一〇七
江藤	七、五五四	三〇	—	—	—	—	—	八、一〇三
本城	四、八八六	一、八七九	六	六〇	—	—	—	七、八二九
勝山	—	一、六三三	—	—	—	—	—	六、九〇一

第五章 運炭

第四節 炭鑛別送炭高類別(炭鑛別仕向先別送出炭)

一〇五

鑛名	若松驛	戸畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	計
旭	一四、六三七	五、〇九四	二〇	六、〇	—	—	—	二二、一四五
新目尾	九、四〇七	四、七四四	一五	一、五	—	—	—	二〇、九七五
大谷(在遠賀)	二二、六二二	五、一〇一	三七	一、六四三	—	—	—	二〇、八九一
綠	二二、七五五	六、五八五	—	—	—	—	—	一九、三三〇
大成	六、八八九	七、一一四	—	—	—	—	—	一八、九六四
香之浦	一三、二二五	四、九六一	—	—	—	—	—	一八、八八九
樋口	三、一〇五	六、四一六	七、八八	—	—	—	—	一七、五八九
高江	一四、六九四	一、九〇六	三〇	五、九	—	—	—	一七、五六九
佐興	四、六〇三	三、三四五	—	—	—	—	—	一四、五四八
大限	二、八八一	一、六〇四	—	—	—	—	—	一三、八九六
小竹	五、九八〇	六、九四七	二五	九〇	—	—	—	一三、六三三
香拔二	四、八〇六	一、三三三	七五	九〇	—	—	—	一三、七〇八
中津原	六、二九一	九〇〇	一七九	—	—	—	—	一一、八二九
新高江	六、八二七	一、九一〇	—	—	—	—	—	八、七三七
安倍	二、七〇七	一、六七二	—	—	—	—	—	八、一〇七
江藤	七、五五四	三〇	—	—	—	—	—	八、一〇三
本城	四、八八六	一、八七九	六	六〇	—	—	—	七、八二九
勝山	—	一、六三三	—	—	—	—	—	六、九〇一

鑛名	若松驛	戸畑驛	門司驛	小倉驛	宇島驛	其他各驛	門司鐵道局用炭	計
猪之鼻	五、五三二	二、五四〇	一	一〇	三五	九九八	一五	六、八四四
野口	三、二七七	一、六二二	一五	一、〇八八	七四二	八三	—	六、七三三
筑紫	一、七一	一、〇六七	—	一五	—	—	—	六、五五〇
庄司	四、三六	三〇	—	—	—	—	—	四、三四六
大山	三、二五	—	—	—	—	—	—	三、二五〇
鎮西	一、四三二	—	—	—	—	—	—	三、一三三
大谷	七五八	—	—	—	—	—	—	三、〇九二
大界	一、四三二	—	—	—	—	—	—	二、六七三
新赤池	一、三九五	—	—	—	—	—	—	二、三三五
白山	八四九	—	—	—	—	—	—	一、二四五
宮ノ上	三五七	—	—	—	—	—	—	九、五六
本入	三五	—	—	—	—	—	—	六、四〇〇
百立	七	—	—	—	—	—	—	二、八
遠賀雜	二六、〇二四	五、〇五五	—	—	—	—	—	三三、〇七九
鞍手雜	五五、七五四	一七、七七	—	—	—	—	—	七三、五二四
嘉穗雜	四七、八三七	二、四七一	八、八二九	三、一六八	—	—	—	五三、二〇七
計	—	—	—	—	—	—	—	一〇一、五三八

田川雜	一三、八〇〇	四、五一	四、六〇	三九六	一、三一九	二、六二七	—	三六、八二三
合計	四、五六二、七三四	二、六二四、五四一	三三、五六六	三八五、七五五	三、三三二	一、二九四、四四九	三三、〇〇七	九、五三六、三三四

◎炭鑛別炭種別表 (昭和七年中)

鑛名	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	煽石	無煙炭	計
遠賀地方	六二五、三八七	六九三、三〇三	二〇九、七八	三、四六四	一、七七三	—	一、五五三、七二五
中鶴第一坑	一八四、六一六	一一一、八四〇	二九、九五	二、四〇二	—	—	三二九、八一
大辻	八四、七〇〇	一五七、四〇五	—	一八、〇六五	—	—	二六〇、一七〇
高松本坑	九二、七五六	九七、二一六	—	二、一六〇	—	—	一九三、〇三二
高松新坑	五四、四九一	五五、七二三	—	四〇八	—	—	一〇、六二二
大君高尾	五六、七九二	五二、〇七〇	—	—	—	—	一〇七、九七
岩崎	二〇、五八四	三六、三四六	二六、二四四	二、六九三	—	—	八七、七六七
新井	一五、〇三九	二九、一三三	三九、六一〇	二、三四	—	—	八五、九九六
中鶴第二坑	四七、〇六九	二七、三三九	八、〇九二	四九八	—	—	八二、九四八
深坂	八、五七六	三九、二九二	三三、〇七〇	六四三	—	—	八〇、五八一
海老津	七、五三四	二九、八二一	一八、四六九	一、一〇六	—	—	五八、七〇三
高尾	二五、七三八	二七、七三八	—	二	—	—	五三、四八七
大谷	六、〇二一	一一、九九三	一、〇九九	七九	—	—	二〇、八九一
計	—	—	—	—	—	—	—

第五章 運炭 第四節 炭鑛別送出高類別(炭鑛別炭種別)

鑛名	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	燻石	無煙炭	計
綠江	5,519	8,019	19,310				19,310
高江	5,361	5,198	4,011	1,926			17,569
雜限	621	1,292	29,534	579			33,015
鞍手地方	288,424	1,107,975	303,978	24,407	24,744	1,026	1,759,979
大之浦	301,798	666,084	31,548			674	906,144
新入	13,523	199,633	107,757				300,913
木屋瀬	44,222	61,562	40,146	19,374			165,294
古河目尾	20,264	110,449	1,172		10,080		151,965
旭	2,664	11,100	5,223	2,066			33,053
新目尾	670	15,956	4,334	15			20,975
大成	751	11,104	7,039	70			18,964
香之浦	364	11,609	4,694	2,192			18,859
小竹	55	1,011	7,000	675		2,933	13,663
香拔二					1,956		1,956
新高江	3,471	3,351	1,914		23,708		33,134
江藤	629	4,890	2,569	15			8,103

第五章 運炭 第四節 炭鑛別送炭高類別(炭鑛別炭種別)

野山口	白入	本立	百立	雜	嘉穗地方	鮎田	三井山野	飯塚	忠限	古河下山田	上山田	芳雄	嘉穗	吉限	綱分	赤坂	漆生
6,733	1,245	68	68	68	869,495	131,538	52,904	219,499	8,714	85,470	76,093	6,536		3,991	3,443	3,443	53,506
					133,699	4,809	437				8,806	43,966	15,237	19,835	15,596	6,135	
					53,265	1,438				6,031	2,041	303		8,430			109
					24,025												
6,733	1,245	68	68	68	3,597,235	52,904	43,966	384,385	314,387	242,863	37,869	194,684	165,722	159,688	132,082	98,562	97,498

第五章 運炭 第四節 炭鑛別送炭高類別(製鐵所々屬炭鑛年別送炭)

鑛名	塊炭	粉炭	切込炭	粗炭	燐石	無燐炭	計
島 越	3,490					3,807	
中津原		5,011					11,839
新赤池			2,335				2,335
雜			36,813				36,813
企救地方			6,901				6,901
勝 山			6,901				6,901
合 計	2,239,524	5,054,191	1,713,343	75,498	179,634	94,124	9,536,314

製鐵所々屬炭鑛年別送炭表

鑛名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
高 雄	381,952	378,399	58,254	496,081	479,844	473,599	426,599	477,399	453,361	440,324
中 央	387,044	392,533	369,427	411,101	418,621	376,687	350,596	332,390	332,376	325,293
合 計	888,188	885,954	1,295,830	1,208,388	1,096,465	1,001,979	933,925	967,884	919,449	887,861

第六章 貯炭、船積設備、手數料及船舶運賃

筑豊炭の二大集散地たる若松、門司兩港及山元に於ける貯炭、船積に關する概況並に船舶運賃を略記すれば左の如し。

第一節 貯 炭

若松港月末貯炭年別表

月 別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
一 月	138,521	259,500	283,989	196,114	182,999	101,048	450,533	183,265	190,996	69,891
二 月	148,449	239,566	246,126	175,196	225,566	72,073	378,742	182,261	218,175	69,137
三 月	136,321	257,723	303,568	208,674	261,552	77,793	372,610	202,903	180,825	73,133
四 月	155,921	180,972	336,322	257,710	286,917	77,673	379,173	235,893	201,749	26,610
五 月	324,447	157,794	364,038	328,738	351,712	80,611	378,636	249,482	275,034	163,734
六 月	295,577	174,683	414,769	355,902	345,504	111,467	332,894	335,097	289,495	161,550
七 月	337,802	209,886	463,846	393,403	417,233	136,840	372,26	394,835	335,504	160,336
八 月	348,058	337,706	494,011	378,447	436,999	100,336	285,463	454,181	342,766	155,132
九 月	343,647	331,972	447,129	354,668	403,061	99,005	253,766	437,660	336,738	169,758
十 月	277,933	225,594	393,376	309,614	361,533	103,214	230,374	378,467	283,128	201,889

第六章貯炭、船積設備、手數料及船舶運賃 第一節貯炭(若松港月末貯炭年別) 一一三

月別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
十一月	一五〇、四三八	一九三、〇六四	三〇三、七六一	三〇三、一六三	三五、五五〇	一三三、八五五	一五、九九五	三七六、〇〇三	三九四、九三二	一九九、六九五
十二月	四六、八九七	一六三、七二二	二九二、八三四	二九二、九九一	一三九、四四三	一五九、〇八六	一二、七七一	四四七、二二九	三三二、九三三	一六九、五五三

◎門司港月末貯炭年別表

月別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
一月	五、七四八	二二、五〇九	三六、五二四	三三、二八五	三三、六六一	三、二七一	三〇、八八三	二九、七八九	二五、九八八	三六、七五
二月	五、八四八	九、二五七	三三、六八〇	一八、二八八	四、六六五	一七、五五六	一五、九五三	三、九二四	三、六二二	二七、〇八四
三月	五、三四四	八、八三九	三三、〇九九	二二、四三三	三八、三六二	一九、七七七	一〇、五二五	三〇、〇〇六	一八、二一九	二二、八七五
四月	五、六六八	七、一七六	三一、〇六三	二二、七五五	二九、五九六	一六、五九七	一三、七九二	二五、八二九	二六、三三二	二六、六九〇
五月	五、九一六	七、二〇一	三七、〇〇九	二二、五五五	三七、八七九	一七、二八八	一七、八五一	三三、四八六	二六、三三二	三〇、四三四
六月	五、五三三	六、二五八	三八、〇三二	二九、二四一	三七、六〇二	二五、九〇四	一六、〇九五	三〇、三三五	三〇、八一	三三、一八一
七月	四、九三三	六、五七五	三九、〇九一	二八、七五〇	三九、四三五	二二、七五九	一五、〇五七	三七、三〇七	三九、五五九	一九、四四〇
八月	四、八八三	八、一九一	三八、二六二	二六、〇六五	四〇、七七九	一六、一八八	二二、九三〇	四一、七四五	四一、一八七	三五、六八三
九月	四、八七九	八、七二三	三三、九六三	二八、七一一	四三、二四一	一七、八三三	一五、八三三	三五、六三八	四八、四七二	二八、〇六九
十月	五、六六四	六、四四五	二六、五九五	三〇、二七六	四一、九四七	一八、〇四六	一八、七〇三	三三、八〇九	四八、〇八七	二四、三九八

月別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
十一月	七、七五五	五、四二七	三五、〇一一	二九、一八四	三五、〇一一	二八、三四四	一七、一九二	二八、五〇一	三九、四六八	二四、四〇〇
十二月	六、六三五	六、九三三	二二、三三八	三八、三三〇	二五、八八三	三九、九三〇	一四、五一六	二五、六八六	四〇、一四八	二二、〇八三

◎山元月末貯炭年別表

月別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
一月	三三〇、七四六	二五七、六〇〇	二七〇、四五〇	四二四、四〇〇	二二一、二〇〇	三二一、四〇〇	三八六、三〇〇	三〇一、九〇〇	四三三、八四三	三五四、三五六
二月	一九〇、七七二	一九二、五一一	二五〇、〇五〇	三九一、四〇〇	二二七、七五〇	三三〇、三〇〇	三三九、四〇〇	三四四、二五〇	三八五、一〇四	三三五、二五四
三月	一八二、三四八	二二六、五五三	二五三、五〇〇	三五四、五五〇	二五〇、九五〇	一六〇、三〇〇	二九一、四五〇	三三六、八〇〇	三六四、五六〇	二八七、二六五
四月	一八二、二四三	二〇六、七五七	二二七、〇三〇	三二八、一五〇	二五八、七〇〇	一三四、九〇〇	三〇〇、四〇〇	二九三、七五〇	三四、八〇〇	二二六、二八九
五月	二七、三二五	二三七、〇二四	二七七、〇〇〇	三二七、三五〇	三五六、三五〇	一四五、一五〇	二九五、三五〇	二四七、一〇〇	二六九、二四〇	一九一、四九一
六月	二五三、八六三	二六七、九三二	二八八、五〇〇	三四一、七〇〇	三三三、三〇〇	一五五、二〇〇	二〇九、七五〇	二二八、九五〇	二三五、四四〇	一七八、八八八
七月	二九六、二八六	二八五、八八九	三二五、四〇〇	三六二、一〇〇	三三七、八〇〇	一六五、一五〇	二〇六、〇〇〇	二五九、〇五〇	二八三、三〇〇	一八七、九三八
八月	三〇〇、六八七	二八八、七四〇	三四六、一〇〇	三四〇、二五〇	三四四、二〇〇	一六二、一五〇	二二〇、六〇〇	二八九、七五〇	二二八、一五〇	一九二、〇四一
九月	三二六、〇七六	二七九、三五二	三三三、七〇〇	三三五、二〇〇	三六五、七八四	一五七、三〇〇	一九五、四〇〇	三三〇、六五〇	二四一、七五〇	一六〇、七五〇
十月	二八六、七六一	二八一、一一八	二六〇、五〇〇	三〇三、〇五〇	三九七、一五〇	一五八、一五〇	一九六、七〇〇	三四九、六五〇	二四〇、七五〇	一七三、八九九
十一月	二〇八、八六〇	二五二、〇八二	二七六、四〇〇	二八八、六五〇	四二二、一五〇	一六九、〇〇〇	二〇八、三〇〇	三四七、〇五三	二四一、六五〇	二二九、五七七
十二月	一五四、五〇〇	二二九、〇〇四	二四八、七〇〇	二八〇、六〇〇	四二二、七五〇	一九〇、二五〇	二六〇、三〇〇	三六四、〇〇三	三二八、四〇〇	三三四、二八九

○若松、門司兩港頭及山元月末貯炭年別表

月別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
一月	三六九、〇二五	五〇九、六八九	五九二、九六三	六四三、六九九	四二七、四六〇	四三四、七一九	八五七、七二五	五二四、九五四	六三九、八六六	四六六、〇三三
二月	三四四、七六八	四三一、三三四	五三九、八六六	五八四、八八四	四九四、九三二	三〇九、九〇九	七三四、〇九五	五五八、四三五	六三六、八九一	四三一、四七五
三月	三三三、九五三	四四一、二五五	五八九、一二七	五八四、六七六	五五〇、八七四	二五九、八七〇	六七四、五七五	五六九、七〇八	五六三、五一四	三八三、二六三
四月	三四三、八三三	三九四、九〇五	六九〇、〇五五	六〇七、五七六	五七五、二二三	二二九、一七〇	六九三、三六五	五五五、四七三	五〇二、〇七一	三七九、五八九
五月	四三七、四三八	四〇二、〇一九	六七八、〇四五	六七八、五三三	六三六、三〇一	二四三、〇四九	六九一、八三七	五二〇、〇六八	五〇〇、五八六	三八五、六四九
六月	五五四、九七三	四四八、四七二	七四一、二九一	七二六、八四三	七〇六、四〇六	二九二、五七一	五五八、七三九	五七四、三七二	五九三、七四六	三六三、六一九
七月	七三九、〇〇〇	五〇二、三五〇	八八八、三三七	七八四、二五三	七九四、四四八	三三三、七四九	五三八、二七三	六九一、一九二	五九三、三六三	三六七、七四四
八月	六七三、六六八	五二〇、六三七	八七八、三六三	七四四、七〇二	八二二、八九八	二七八、五七四	五〇八、九九三	七八五、六七七	六〇二、一〇三	三七二、八四六
九月	六六四、六二二	五二〇、〇三六	七九四、七九二	七〇八、五七九	八二二、〇八六	二七四、一三八	四六五、〇〇八	八〇三、九四八	六〇六、九六〇	三五八、五七七
十月	五七〇、五七七	五〇一、二五七	六八〇、四七一	六四二、九四〇	八〇〇、三九九	二七八、四二〇	四三三、七七七	七六〇、九二六	五四一、四六五	四〇〇、一八六
十一月	三六七、〇四三	四五〇、五七三	六五五、一八二	六二九、九九七	七六二、七三二	三三〇、一七九	三七七、四八七	七五一、五五六	五七六、〇三九	四六三、六八〇
十二月	二〇八、〇三三	四〇九、六四八	五六二、八五二	六二一、八一	六八七、〇八六	三八九、二五六	三九六、六〇七	八三七、一〇八	五九〇、四八一	五二六、九〇五

第二節 貯炭場の面積及使用料

○若松之部 (昭和七年六月末現在)

貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)
牧山	三三三〇坪	二〇錢
葛島	一〇、八六二	自用
新川	一五、一三七	至八錢
築港濱	二、三三六	自用
二島	一五、〇〇〇	自用
中島	三、一六六	自用
新棧橋	二二、一八〇	至二〇錢
藤木	七〇、〇〇〇	至一〇錢
舊棧橋	二三八	七、五錢
計	一三九、二四九	

○門司之部

貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)
葛葉	九、三六二坪	二五錢
外濱	二四五	至八〇錢
江ノ浦(彦島)	一、一三一	自用
弟子待(彦島)	二、〇八八	自用
計	一二、八二六	

○東小倉之部

貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)
棧橋	九、九九〇	六、〇錢
地平線	一五、二一九	七、五錢
計	三〇、五六三	三、六錢

第三節 船積設備及手數料

◎若松港

若松側に「ホイスト」「クレーン」各一基及び新棧橋に漏斗十七個を有し、戸畑側に牧山「ホイスト」三基、新川炭積機三菱、貝島各一基、トロール船焚料積込機貝島一基、沖積機三井、三菱、共働組各一基を有する。大体若松側は帆船、戸畑側は汽船直積を爲すを原則として居る、解取の上汽船沖積を爲すものは極く少量である。輸送割合は汽船四割、帆船六割(内被曳船二割)である。其の機械設備の能力等を示せば左の通りである。

若松側	新棧橋	延長二、三三六呎 漏斗 一七個	能力 一日 一八、〇〇〇噸	帆船専用
戸畑側	新線	ホイスト 各一基 クレーン 各一基	各 四、〇〇〇	汽船専用
	牧山ホイスト	三基	各 四、〇〇〇	汽船専用
	新川炭積機三菱、貝島各一基	直積四、五〇〇 貯炭三、〇〇〇		帆船、汽船用
	トロール船	一基	二、〇〇〇	トロール船
	焚料積込機貝島	一基	二、〇〇〇	焚料専用
海上	沖積機	三井、三菱 各一基	各 一、二〇〇	汽船沖積用

◎若松港に於ける一噸當り諸手數料左の如し。但し特約あるものは例外なり。
若松、戸畑兩驛着後 〔着驛後六時間を経過せしもの限り、〕 一噸に付 金拾五錢
貨車留置料 〔每十二時間又は其の未滿毎に科する金額〕

◎解船運賃表 (大正十年四月一日より實施)

區別	單位	貨金	日待	滞船料	金
自若松	石炭	五六〇	〔着船二日用捨三日目より五日目迄金五錢五厘六日目より金七錢八日目より八錢 但し門司行は積掛三日用捨積切迄港内日待を支拂ふ〕		
自若松	汽船焚料	一噸に付 五七〇			
自若松	石炭	一噸に付 五四〇			
自若松	同	二六〇	〔日待積掛三日用捨四日目より六日目迄金三錢五厘七日目より金五錢〕		
自若松	同	二八〇	〔五厘九日目より金六錢十五日目より金七錢〕		
自若松	同	三四〇			

第六章貯炭、船積設備、手数料及船舶運賃第三節船積設備及手数料(仲仕賃金最高標準) 一一〇

自若松	石炭	一噸ニ付	二九〇	〔日待積掛三日用捨四日目より六日目迄金三錢五厘七日目より金五錢五厘九日目より金六錢十五日目より金七錢〕
自若松	同	同	三七〇	同
自若松	同	同	〇六五	日待二日用捨三日目より金九厘八日目より金壹錢壹厘
自若松	同	同	〇三二	日待二日用捨積掛三日目より金五厘八日目より金八厘
自若松	同	同	同	同

(備考) 一、荷主の都合による端数には「下ダメ」を支拂ふ事
二、特約あるものは本表に依る限に非ず

◎仲仕賃金最高標準表 (昭和五年十二月三日より實施)

作業別	單位	現行賃金	作業別	單位	現行賃金
汽船荷物捲積込賃(穴繰賃共)	一噸	四二九	新棧橋下緑替賃	一噸	二〇一
汽船荷物増込賃(同)	同	四八四	振出賃	同	〇八一
汽船燃料積込賃(同)	同	五五九	檢量費	同	〇九〇
解より解又は帆船瀨取賃	同	二六五	貯炭場より汽船直下(穴繰賃共)	同	三二三
解陸上	同	二一六	緑替賃	同	一八二
解陸下	同	一八〇	棧橋より汽船積穴繰賃	同	〇四三
新棧橋下陸上、下、貨	同	〇三〇	コークス吹積込	百斤入	〇三九
	同	二三八	吹作	百斤入	〇三〇

(備考) 一、汽船荷物夜業燃料夜業燃料片サイド持越は各當該賃金の四割増とす
二、陸仲仕夜業は各當該賃金の三割増とす
三、貯炭場は廿五間を以て一肩とす
四、塊粉篩分賃は解陸上貨解陸下貨の合計に金三錢を加ふるものとす
五、補助機關附の帆船積込賃(穴繰賃共)は汽船積込賃より二割五分引きの事
六、鐵道省より指定されたる棧橋荷卸場所着炭噸數が一ヶ月四萬噸に充たざる場合は特に割増を要する事
七、特約あるものは本表に依る限に非ず

◎門司港

門司港の荷役設備としては、現在門司驛に堤防式高架棧橋延長千八百八十呎(外に假設六百呎がある此の高架棧橋は將來二千七百呎に延長することになつてゐる)の設けがあるが、之は貯炭場卸を目的とするもので、船舶積取りは貯炭場から更に解を介して沖荷役をするのである。而して貯炭場内の繰替及解積用として豫て門鐵局に於て建設中であつた炭積機「ブリツヤ・トランスポーター」二基は昭和四年十二月竣成せるが其の成績良好で一基一時間百三十噸乃至百五十噸の能力を發揮して居る。尙此の外日本郵船會社に於ても自社専用の炭積機を設けて居る。(貨車停滯料若松に同じ)

◎門司港石炭解船賃金最高標準表 (大正十三年三月十一日より實施)

作業別	單位	賃金	作業別	單位	賃金
港内解運賃	壹噸	二九七	港内解運賃	壹噸	〇五
但滯船料は二日用捨(荷役不能の日を除く)三日目より一日に付					

第六章貯炭、船積設備、手数料及船舶運賃第三節船積設備及手数料(門司港) 一一一

◎門司港石炭仲仕賃金最高標準表 (昭和六年四月十一日より實施)

作業別	單位	賃金		作業別	單位	賃金
		最高	最低			
陸上	壹噸	三七八	二九七	精替	壹噸	二五五
陸下	同	三割増	三割増	硬撰	同	四七二
同夜業	同	二三五	三二八	作撰	百斤	一四四
高架橋除	同	三二八	三六五	本船焚料積	百斤入一噸に付	〇四八
汽車卸	同	三六五	六七〇	積	壹噸	六七〇
汽船取	同	六七〇	六〇三	但し水面より「デツキ」迄二十四呎以上の船船にして積込みに依り同呎迄降下する迄は船舶の高低及荷役の難易に依り	壹噸	六〇三
但し水面より「デツキ」迄二十四呎以上の船船にして積込みに依り同呎迄降下する迄は船舶の高低及荷役の難易に依り	壹噸	六七〇	六〇三	壹噸	壹噸	六〇三
壹割乃至四割の増賃を支拂ふ事あるべし	壹噸	六七〇	六〇三	壹噸	壹噸	六〇三
荷物貫々使用積	壹噸	六七〇	六〇三	壹噸	壹噸	六〇三
但し水面より「デツキ」迄二十四呎以上の船船に一部少量の積荷をなす場合は便宜増賃を支拂ふ事あるべし	壹噸	六七〇	六〇三	壹噸	壹噸	六〇三
荷物	壹噸	六七〇	六〇三	壹噸	壹噸	六〇三
夜業	壹噸	六七〇	六〇三	壹噸	壹噸	六〇三

第四節 船舶運賃

船舶運賃は需給關係其他四圍の事情に因り高低常ならざるも、左に各年に於ける最高、最低のものを掲げ大勢を推測するの便に供せん。

◎帆船運賃 (若松港—各地間)

仕向地	昭和七年		昭和六年		昭和五年		昭和四年		昭和三年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
和歌山	二、〇七	一、六〇	二、三五	一、六一	二、九五	二、〇五	三、四五	二、七〇	三、六五	二、七〇
岸和田	二、〇九	一、六三	二、三五	一、六一	二、九五	二、〇五	三、四五	二、七〇	三、六五	二、七〇
堺	一、七五	一、三八	一、八五	一、三六	二、六五	一、六五	三、三五	二、三五	三、三五	二、三五
大阪府	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
尼崎	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
西宮	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
神戸	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
明石	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
二見	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
高砂	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
兵庫縣	一、七〇	一、三三	一、八〇	一、三四	二、五五	一、六〇	三、一〇	二、一五	三、三五	二、二〇
備前	一、五五	一、〇八	一、六〇	一、〇五	二、五五	一、三〇	二、九〇	一、九五	二、九〇	一、八五

第六章貯炭、船積設備、手敷料及船舶運賃 第四節船舶運賃(帆船運賃)

仕向地	昭和七年		昭和六年		昭和五年		昭和四年		昭和三年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
網干	一、五五	一、〇八	一、六〇	一、〇五	二、三三	一、三〇	二、九〇	一、九五	二、八五	一、八〇
赤穂	一、五〇	一、〇七	一、七〇	一、〇五	二、四五	一、三〇	三、〇〇	二、〇五	二、八五	一、八〇
洲本	一、七〇	一、〇〇	一、七五	一、〇五	二、四〇	一、四〇	三、一五	二、〇五	二、八五	一、八〇
由良	一、七〇	一、〇〇	二、〇〇	一、一八	二、五〇	一、四〇	三、一五	二、〇五	二、八五	一、八〇
片上	一、五三	一、〇〇	一、六〇	一、〇二	二、三三	一、三〇	三、〇〇	二、〇〇	二、八五	一、八〇
西大寺	一、四九	一、〇二	一、六五	一、〇〇	二、四〇	一、三五	三、〇〇	二、〇〇	二、八五	一、八〇
岡山	一、五五	一、〇八	一、七〇	一、〇五	二、四五	一、三〇	三、〇〇	二、〇〇	二、八五	一、八〇
宇野	一、四九	一、〇八	一、六五	一、〇〇	二、四〇	一、三五	三、〇〇	二、〇〇	二、八五	一、八〇
日野	一、四九	一、〇八	一、六五	一、〇〇	二、四五	一、三〇	三、〇〇	二、〇〇	二、八五	一、八〇
味津	一、四九	一、〇八	一、六五	一、〇〇	二、四五	一、三〇	三、〇〇	二、〇〇	二、八五	一、八〇
下津	一、四六	一、〇六	一、五五	一、〇〇	二、三三	一、二五	二、九〇	一、九五	二、八五	一、八〇
玉島	一、四六	一、〇六	一、五五	一、〇〇	二、三三	一、二五	二、九〇	一、九五	二、八五	一、八〇
笠岡	一、四二	一、〇五	一、五五	一、〇〇	二、二五	一、二〇	二、八五	一、八五	二、八五	一、八〇
福山	一、四二	一、〇五	一、五五	一、〇〇	二、二五	一、二〇	二、八五	一、八五	二、八五	一、八〇
尾道	一、三五	一、〇八	一、五五	一、〇〇	二、二五	一、二〇	二、八五	一、八五	二、八五	一、八〇
糸崎	一、三五	一、〇八	一、五五	一、〇〇	二、二五	一、二〇	二、八五	一、八五	二、八五	一、八〇
竹原	一、三〇	一、〇〇	一、四〇	一、〇〇	一、九五	一、〇〇	二、四〇	一、五〇	二、五〇	一、四〇

仕向地	昭和七年		昭和六年		昭和五年		昭和四年		昭和三年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
阿賀	一、三〇	一、〇〇	一、三五	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
吳品	一、三〇	一、〇〇	一、三五	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
宇國	一、三五	一、〇六	一、三〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
岩山	一、二九	一、〇三	一、一五	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
徳尻	一、三〇	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
三田	一、四九	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
萩田	一、四九	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
濱田	一、四九	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
宇和島	一、四九	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
八幡濱	一、四九	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
長津濱	一、三〇	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
三津濱	一、三〇	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
高津濱	一、三〇	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
今治	一、三〇	一、〇三	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
壬生川	一、五三	一、〇五	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
西條	一、五三	一、〇五	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
新居濱	一、四二	一、〇四	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇
川之江	一、四七	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、七〇	一、〇〇	二、三五	一、四〇	二、五〇	一、四〇

第六章貯炭、船積設備、手敷料及船舶運賃 第四節船舶運賃(帆船運賃)

仕向地	昭和七年		昭和六年		昭和五年		昭和四年		昭和三年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
香川縣 坂出	一、四〇	一、三六	一、六〇	一、〇〇	三、三五	一、三〇	二、八五	一、九五	二、九〇	一、八五
德島縣 高松	一、四〇	一、三六	一、五五	一、〇三	二、三〇	一、一五	二、七四	一、八〇	二、七五	一、七〇
德島縣 撫養	一、四〇	一、三六	一、五五	一、〇三	二、三〇	一、一五	二、七四	一、八〇	二、七五	一、七〇
德島縣 小松島	一、七〇	一、三三	一、五五	一、〇三	二、三〇	一、一五	二、七四	一、八〇	二、七五	一、七〇
德島縣 島	一、七〇	一、三三	一、五五	一、〇三	二、三〇	一、一五	二、七四	一、八〇	二、七五	一、七〇
大分縣 日出	一、五五	一、三六	一、八〇	一、二二	二、五五	一、五〇	三、一五	二、一〇	三、〇〇	一、九五
大分縣 佐賀關	一、五五	一、三六	一、八〇	一、二二	二、五五	一、五〇	三、一五	二、一〇	三、〇〇	一、九五
大分縣 津久見	一、三〇	一、二九	一、五〇	一、〇七	一、八〇	一、〇〇	二、二〇	一、五五	二、四〇	一、六五
朝鮮 釜山	一、九〇	一、四三	二、〇〇	一、四〇	二、五五	一、六五	三、〇五	二、一五	三、一五	二、三〇

◎汽船運賃

仕向地	昭和七年		昭和六年		昭和五年		昭和四年		昭和三年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
神奈川縣 橫濱	二、三〇	一、三〇	一、三〇	一、〇五	一、二五	一、七五	一、九〇	一、八五	二、〇〇	一、〇〇
靜岡縣 清水	二、四〇	一、九〇	一、五〇	一、〇〇	一、四〇	一、〇〇	二、二〇	一、二五	二、三〇	一、三〇

仕向地	昭和七年		昭和六年		昭和五年		昭和四年		昭和三年	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
愛知縣 蒲郡	二、一〇	一、八五	一、四〇	一、二五	一、三〇	一、九五	一、九〇	二、三〇	二、〇〇	一、三〇
大阪府 大阪	一、四〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
兵庫縣 神戶	二、二〇	一、八五	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
鳥取縣 境	二、二〇	一、八五	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
京都府 舞鶴	二、二〇	一、八五	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
福井縣 敦賀	二、二〇	一、八五	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
石川縣 七尾	二、二〇	一、八五	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
富山縣 伏木	二、二〇	一、八五	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、七五	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	一、一〇
新潟縣 新潟	二、八〇	一、二五	一、五〇	一、一五	一、三〇	一、九五	二、二〇	一、六〇	二、五〇	一、九〇
朝鮮 釜山	一、三〇	一、七〇	一、九〇	一、七〇	一、四〇	一、八〇	一、五〇	一、六〇	一、九〇	一、九〇
朝鮮 仁川	一、四〇	一、八〇	一、〇〇	一、八〇	一、四〇	一、八〇	一、五〇	一、六〇	一、九〇	一、九〇
朝鮮 木浦	一、六〇	一、九五	一、二〇	一、九五	一、四〇	一、八〇	一、五〇	一、六〇	一、九〇	一、九〇
朝鮮 群山	一、七〇	一、九五	一、三〇	一、九五	一、五〇	一、八〇	一、五〇	一、六〇	一、九〇	一、九〇
朝鮮 鎮南浦	一、七〇	一、〇〇	一、三〇	一、〇〇	一、四〇	一、一〇	一、五〇	一、二〇	一、六〇	一、六五

第七章 内外仕向高

筑豊炭の需要地を便宜上二途に區別す。尤も需要に對する仕向高の外若松門司兩港に於て内外汽船燃料として直接供給せしものは其汽船の所屬により之を内外に分ち前記仕向先に合計し以て内外別の需要總高を見るの便に供する。こゝにせり。

第一節 内地輸送高

(一)若松、門司、小倉、宇島四港より海路内國各地に輸送せしもの (二)各坑より鐵道により直に各驛 (若松、門司、小倉、宇島驛を除く) に送出せしもの (三)水運によりて蘆屋及小倉に送出せしもの (四)鐵道の燃料として供給せしもの (五)若松、門司兩港に於て内國汽船燃料として供給せしもの (六)若松、戸畑、門司、小倉、宇島の地元消費高(添付年別表参照) 尙前記輸送炭に就き地方別、主要仕向地別に列記すれば左の如し

◎内國海路輸送先別表

(各地昭和七年壹千噸以上の分) 附内國船燃料供給高

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
大阪府	一、七四四、四五四	一、六三六、六九一	九五、二四〇	二、一九九、〇七二	〇七四、六四二	一、七二七、〇六二	〇四九、三三六	一、九二六、三四四	二、〇三七、六五四	二、二四、六〇〇
大阪	一、六〇三、六三六	一、四九三、六九一	一、七八一、三八〇	二、〇二五、九三七	一、八八一、二五九	一、九六七、一五六	一、八五三、〇三九	一、七八、四九九	一、八三〇、七五一	一、九二一、三九九
岸和田	六七、〇三二	六三、〇六一	六三、一八三	七六、九六五	九四、三六七	一〇四、七三六	一〇六、二四四	一〇七、一四八	一〇六、八三三	一一四、三二五
堺	四四、九〇九	四九、三三〇	四四、二五八	四八、一八〇	四四、七七七	四一、三七六	四五、二二三	四五、〇四〇	五四、六〇四	四八、九五八

◎内地輸送類別及内國汽船燃料炭年別表
 (鐵道各驛送りには若松、戸畑、門司、小倉、宇島驛を含みます)

年別	海路					小計		鐵道			水運			以上合計		内國汽船	
	若松港	門司港	小倉港	宇島港	高	鐵道	水運	鐵道	水運	倉庫	門司鐵道	以上合計	若松港	内國汽船			
明治三十一年	?	四一六、六一六				四八、〇〇四	二四八、三六八					七三三、九八八					
同 三十二年	四三八、八二七	五七七、一八四				三七、四九三	七、七五七					一、一五七、〇五八					
同 三十三年	九五四、三二一	六四八、二二三				六六、一六三	一、六〇〇					一、八三九、五六七					
同 三十四年	一、一四〇、六三〇	四八二、五九四				一〇七、三三六	四八、五五六					二、〇二四、八二四					
同 三十五年	一、一九四、八五八	五四四、四二二				一五三、二七六	四七、三〇四					二、一八四、四七五					
同 三十六年	一、三四九、七二九	五六二、六七〇				八六、六三七	五、三六一					二、一〇一、二〇九					
同 三十七年	一、五三三、二二八	四六八、五四七				一〇九、三五三	五、〇五六					二、三三二、一〇〇					
同 三十八年	一、七三六、五二二	五〇三、五二六				二〇五、六九五	二、八二七					二、六九一、二九八					
同 三十九年	一、七六八、五二二	七六八、四六七				三九七、二七九	九、一八					三、一〇六、四三一					
同 四十年	一、九七四、三四一	八五四、一九六				三四〇、六一八	二、九六二					三、三四四、三七三					
同 四十一年	二、二六六、五六七	八七〇、〇五〇				三四三、六〇五	二、七六一					三、六三三、一八一					
同 四十二年	二、五六七、二六三	七二八、一八一				三七八、九九九	一、七六一					三、八〇八、五三三					
同 四十三年	二、九六五、一八〇	五九二、〇八九				五一、七二九	三、三〇七					四、一六九、三七四					
同 四十四年	三、六八六、〇六七	六〇八、一九九				四三三、二三五	二、〇八二					四、九四八、八七〇					
大正元年	四、二八五、七八	六七八、三三七				四三六、一九五	二、八一四					五、六二六、〇六八					
同 二年	四、六七二、九六四	八八七、四三六				六一四、五五五	一、〇二二					六、〇四三、六四七					
同 三年	四、二〇六、一六四	四二〇、四〇五				七八二、五六三	三、五三〇					一、一七、一七九					
同 四年	四、四一八、八七六	三五八、五九四				七三六、二七〇	二、三六九					一、二九、四八二					
同 五年	五、一七二、六八七	四七九、六四九				九〇〇、二八四	二、八五七					一、三八、六五六					
同 六年	五、九七七、五五〇	四八一、五八九				一、二四八、四三三	二、一三八					一、四九、〇八四					
同 七年	六、二五〇、二一九	四三七、九五〇				一、二八二、一四一	三、八三〇					一、九九、五六六					
同 八年	六、四二二、八二二	三九四、八二七				一、四五一、二六六	六、二六八					二、五、六四〇					
同 九年	五、九〇七、一三〇	二四七、六三七				一、四二七、〇八六	四、七四九					二、四九、六九八					
同 十年	五、七九三、〇八五	一一一、二五七				一、三二二、三七九	四、二八六					二、七、七四八					
同 十一年	六、三三六、四二六	一〇八、八七八				一、二二五、五四九	五、〇六七					二、四一、七一九					
同 十二年	六、三八〇、五四二	一一三、一五八				一、三六五、五四五	四、三二〇					二、八六、三三〇					
同 十三年	六、六四七、九七六	九二、〇六八				一、三七一、七〇一	二、四六七					三、三三、六八七					
同 十四年	六、三三七、一七六	七五、二四〇				一、二九六、五九七	一、三四〇					三、二九、一七七					
昭和元年	六、七〇一、〇四七	九九、四四四				一、四四三、六八〇	一、三三五					三、五九、〇七三					
同 二年	六、八六五、三三三	七五、二〇五				一、五三三、一〇〇	二、七二七					三、九三、六八六					
同 三年	六、八五四、〇七二	七六、六二八				一、五〇四、〇九八	二、一九四					三、九〇、四四五					
同 四年	六、八六五、九八六	九一、八五一				一、四六九、八七四	一、六三二					三、九〇、七八三					
同 五年	六、一〇八、〇三九	八五、〇七七				一、三五七、四七二						三、五二、〇〇六					
同 六年	五、四七六、七九四	四、二二七				一、二一七、三六九						三、三三、二八七					
同 七年	四、五八三、九四五	四、一〇〇				一、〇五三、六九二						三、五九、〇二五					

地輸送類別及内國汽船燃料炭年別表

(鐵道各驛送りには若松、戸畑、門司、小倉、宇島驛を含みます)

倉引	宇島	高	小計	鐵道各驛送り	水運蘆屋送り	水運小倉送り	門司鐵道局用炭	以上合計	内國船供給高			若松、戸畑、門司、小倉、宇島の地元消費高	總計	
									若松港	門司港	小計			
?	?	?	四一六、六一六	四八、〇〇四	二四八、三六八	?	?	七三三、九八八	?	?	?	?	?	七三三、九八八
七、四九二	一、〇八七、四三〇	?	一、〇九四、九二二	三三、四九三	七、七五七	二、四三、三七八	?	一、一五七、〇五八	?	?	?	?	?	一、三〇、八四七
七、一六〇、六〇六	一、六七三、九五〇	?	一、六四四、五五〇	六六、一六三	一、六二〇	六〇、四四〇	三三、三九四	一、八三九、五六七	?	?	?	?	?	一、九五二、六四七
一六八、九八〇	一、七九三、二〇四	?	一、九六二、一八四	一〇七、三三六	四八、五五六	五二、七〇七	二、四〇、三二二	二、〇三九、八二四	?	?	?	?	?	二、一四八、四九三
一三四、四四九	一、八七三、七一九	?	二、〇〇八、二二八	一五三、二七六	四七、三〇四	六四、一六三	四七、〇一三	二、一八四、四七五	?	?	?	?	?	二、三五二、五二八
一三三、〇七九	二、〇四四、四七八	?	二、一七七、五六七	八六、六三七	五、三六一	七、五六五	二、二〇、二〇九	?	?	?	?	?	?	二、四一三、二三四
一〇九、五八三	二、一〇一、二五八	?	二、二一〇、八四一	一〇九、三三三	五、〇五六	四三、九七七	七、一四五六	一、四九九、一〇〇	?	?	?	?	?	二、七四一、三六六
二三四、四七九	二、三五五、五二七	?	二、五九〇、〇〇六	二〇五、六九五	二、八二七	六三、六四九	二、六九、二九八	六〇八、三〇六	?	?	?	?	?	三、三〇五、五三三
九五、二六五	二、六三三、二五三	?	二、七二八、五一三	三九七、二七九	九、一八	三九、七二〇	六八、〇六一	三、一四六、四三一	?	?	?	?	?	三、六五一、五九六
七八、八九一	二、九〇七、四一一	?	三、〇八六、三〇二	三四〇、六一八	二、九六三	二二、〇七二	七、三三〇	三、三四四、三三三	?	?	?	?	?	三、七五六、〇二五
七〇、八九九	三、二〇七、五一六	?	三、二七七、六一〇	三四三、六〇五	二、七二六	一五、三三三	六四、〇二二	三、六三三、一八一	?	?	?	?	?	三、九九三、九〇六
六五、二二六	三、三五五、六六〇	?	三、四一〇、八八六	三七八、九八九	一、七六一	?	七、二二三	三、八〇八、五三三	?	?	?	?	?	四、一六二、六一九
九八、四九〇	三、六五五、七五九	?	三、七五四、二四九	五一、七二九	三、三〇七	五、四四四	九三、一三五	四、二六九、三七四	?	?	?	?	?	五、一六〇、九九六
九五、五七七	四、三八九、八四三	?	四、〇七九、三九六	四三三、三三五	二、〇八二	一四、三九八	一〇、三二二	四、九四八、八七〇	?	?	?	?	?	五、八五九、七五五
一〇二、〇五五	五、〇六五、九一〇	?	五、一六七、九六五	四三六、一九五	二、八二四	一四、七六八	一〇、六三一	五、六二六、〇六八	?	?	?	?	?	六、五九一、〇八五
一三〇、一四四	五、二七九、五四四	?	五、四一八、六八八	六四、五五五	一、〇〇二	一三、〇六八	一三、五五八	六、〇四三、六四七	?	?	?	?	?	七、一九〇、〇九一
九四、〇三八	四、七二〇、六〇七	?	四、八一四、六三五	七八二、五六三	三、五三〇	一七、七七〇	二二、一七九	五、六四一、六四九	?	?	?	?	?	八、一五九、九〇七
八六、〇九〇	四、八六三、五六〇	?	四、九四九、六五〇	七三六、三七〇	二、三六九	二八、一五八	二二、九四二	五、七五九、八三九	?	?	?	?	?	九、〇六六、四七八
八〇、七四三	五、七八四、八二八	?	五、九六九、五七二	九〇〇、二八四	二、八五七	一三八、六六一	一三八、六五六	六、八三三、二二六	?	?	?	?	?	九、九六五、九三三
一一〇、五二五	六、〇六〇、七二四	?	六、一七〇、二四九	一、二四八、四三二	二、一三八	一四九、〇八四	一八、〇六〇、三六八	一、六六、四二四	?	?	?	?	?	一〇、七八二、〇三〇
一一三、〇九二	六、一九四、〇八七	?	六、三八八、一七九	一、二八二、一四一	三、八三〇	一九九、五六四	八、三九九、六二二	一、七九、二四九	?	?	?	?	?	一一、〇九二、一七七
一一二、〇九六	七、一一〇、五三八	?	七、二二〇、六一九	一、四五一、二六六	六、二六八	二二五、六四〇	八、七八三、七二二	二、〇四、四八八	?	?	?	?	?	一二、一七二、五二四
一一八、三九八	七、二二二、二二二	?	七、三四四、四四〇	一、四二七、〇八六	四、七四九	二四九、六五九	八、〇四八、九四四	一、八四、八四二	?	?	?	?	?	一三、一〇二、三九五
一一七、九〇九	七、三二二、三三三	?	七、四四四、六四三	一、二二二、三七九	四、二八六	二二七、七四八	七、五八八、八八六	二、七六、三七〇	?	?	?	?	?	一四、一五二、七三九
九二、二四四	六、〇九四、四七三	?	六、一八八、五四六	一、二二五、五四九	五、〇六七	二四一、七一九	八、〇九四、一五九	二、四一、〇四四	?	?	?	?	?	一五、一七三、九五六
九九、五〇八	六、六七二、四七九	?	六、七六六、九八八	一、三六五、五四五	四、三二〇	二八六、三三〇	八、三三八、六六四	二、三六、八二二	?	?	?	?	?	一六、二四二、八〇一
一一二、四九〇	七、三二一、〇九九	?	七、四四三、二九八	一、三七一、七〇一	二、四六七	三三三、六八七	八、六三三、四九八	三、二八、三七〇	?	?	?	?	?	一七、三三三、二八三
一一二、五六三	八、五五五、五三四	?	八、六五〇、〇八七	一、二九六、五九七	一、三四〇	三一九、一七七	八、二三三、六四七	三、五三、〇五七	?	?	?	?	?	一八、四〇五、七四〇
一九四、九二二	七、〇七四、九四〇	?	七、一七三、八八〇	一、四四三、六八〇	一、三三五	三九九、〇七三	八、八七九、〇二八	三、五二、六二六	?	?	?	?	?	一九、五二七、九五六
一六〇、三〇四	七、一五九、八〇七	?	七、二七八、六一四	一、五二一、一〇〇	二、七二七	三九三、六八六	九、〇六九、三二〇	三、三九、〇五四	?	?	?	?	?	二〇、六五八、〇二二
一六八、一七八	六、八八七、七三九	?	六、九八六、四七八	一、五〇四、〇九八	二、一九四	三九〇、四四五	八、七八四、四七六	三、二二、五九〇	?	?	?	?	?	二一、七四一、三六六
一四一、〇二一	七、一六二、八八一	?	七、二六二、八三〇	一、四六九、八七四	一、六三二	三九〇、七八三	九、〇二五、一六九	三、〇一、九〇〇	?	?	?	?	?	二二、八三二、〇二七
一四一、八七七	六、三八八、〇七四	?	六、四七六、一四八	一、三五七、四七二	?	三五二、〇〇六	八、〇九六、五五三	四、〇一、三九六	?	?	?	?	?	二四、〇〇二、四九二
一一一、〇七五	五、六二六、三三二	?	五、七二五、七〇四	一、一七三、三六九	?	三三三、二八七	七、〇七七、〇三八	三、七六、五七三	?	?	?	?	?	二五、一七二、七三五
六〇、六八五	四、六七五、九〇四	?	四、七七四、八〇九	一、〇五三、六九二	?	二六〇、六二九	五、九九〇、二二五	三、五六、一九八	?	?	?	?	?	二六、二四三、〇五〇

佐野	尾崎	貝塚	谷川	樽井	大津	岡田	吉見	兵庫	神戶	飾磨	尼崎	高砂	網干	洲本	西宮	赤穂	坂越
七、四八四	六、六八六	三、五五四	二、五三一	一、五三九	一、一七九	一、一七四	一、〇三四	八八四、七六六	三〇六、五〇九	一九六、〇九〇	一〇〇、一二七	五八、九七三	四〇、六五四	三五、七四六	二九、四七九	二四、六六九	一三、五七二
五、八七四	五、二四二	六、三〇二	一、五一一	二、〇一四	七七八	一、四四五	一、九三四	八二六、〇三三	二四五、八四四	一九八、六〇八	九三、八三六	六五、一八七	四三、七〇六	三八、〇五三	二九、三三五	一六、三〇七	一二、三九三
六、三二〇	四、七三六	六、七四五	一、二四六	一、七二二	—	三、五五四	一、三六九	八五二、〇三三	三〇〇、九〇六	二二三、八二四	七二、三六六	五八、八八九	三二、五二七	四三、三三三	二六、九五二	一五、九六九	一四、一三三
一〇、〇五一	四、八六一	九、三六七	二、二一九	五、四〇六	—	八、八一九	四、一〇一	一、〇三八、〇九九	三六四、三九四	二五六、九五六	八六、六五一	七一、五七一	四〇、八七一	四九、八八九	三九、三九九	一四、五五二	一四、五九〇
一〇、五六二	四、八六一	九、七七四	一、九三九	八、四〇五	—	八、三六六	七、〇六〇	一、〇八七、八五九	四一九、二二三	二六二、四三九	七九、五三〇	八二、一六七	三三、八二七	五一、九八三	三八、七八六	一一、一八〇	一四、〇八五
二、六七七	四、六六六	一四、六一〇	二、〇〇六	九、二一九	—	七、四四〇	八、六七九	一、二九、九二〇	四五三、七五七	三四九、〇九六	七五、四九六	八八、一二七	三八、四四〇	五一、八四九	四〇、七〇六	七、八八三	一一、六五四
九、八六一	四、六一一	一〇、七三三	一、一四四	八、二二四	—	二、五三〇	七、八七一	一、二五〇、六二四	五三三、一三六	二二七、九六五	六九、九五〇	七五、三三五	三三、一七九	四二、二九四	三九、九七六	一九、二七三	七、二八一
六、五六〇	四、八九九	一一、六八九	—	七、六八五	—	五、八九三	八、八〇一	一、〇八、五五六	五〇七、七六二	二〇二、八五〇	九七、四三〇	七六、九九〇	三五、一九三	四三、五三〇	三八、四五五	四、九三三	三、一七四
四、〇四五	一、四三八	九、一五八	—	七、五三六	—	三、四三三	八、〇六二	一、二四七、一六七	五九三、九八〇	二九、二七七	一〇四、〇三五	七五、九八一	二二、四七六	四五、一四一	六五、七二七	五、〇四四	二、四八〇
五、六五四	九三九	一一、一六八	—	六、九二五	—	四、二二七	八、八五三	一、二二、四〇二	五五八、〇六四	二〇五、三〇〇	一〇七、六六四	八二、七五九	二〇、五二三	三七、九三九	五九、四四八	四、〇六三	二、四四八

第七章 内外仕向高 第一節内地輸送高(内國海路輸送先別)

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
曾根	一三、一五	八、六三三	二、九五二	四、五五三	六、〇八七	四、五四三	五、五七八	四、〇五一	五、六三六	四、一七七
二見	二二、五六六	二一、六四七	一〇、七〇〇	二、八九三九	一三、二八七	一三、一〇六	一三、六九四	二、七三三	二二、三二四	一三、三三〇
明石	一一、三四一	八、七四五	八、六六六	一一、〇四二	一一、九三三	二二、七八六	二六、七三二	二二、五六〇	二七、四二一	二四、二六三
木場	九、一五五	五、〇九五	四、〇六三	二、二六五	三、八四七	二、三六二	二、九六〇	一、七六八	三、二七七	二、一一七
福波	六、二八六	六、〇二二	六、一五〇	七、〇七四	七、七六四	四、九八一	五、六五三	四、〇七一	四、九三〇	三、七二〇
那波	五、二七二	五、〇三三	四、四五三	七、四三三	六、二九八	八、四三三	八、二六一	一〇、八〇二	二〇、〇五三	一〇、九八〇
湊生	五、〇八一	五、四七四	三、四六八	一、八四二	二、二三五	三、六七一	三、三八六	三、三三六	二、一六五	三、〇三五
相府	三、四六六	三、四〇三	三、六六三	四、〇五二	五、一七四	二、七〇九	二、八〇四	三、三六五	三、六四四	二、五三四
別府	二、四〇三	二、六二二	一、五九二	一、八四四	三、七七八	四、八四二	四、七九三	八、三六〇	一〇、七九三	七、九八〇
假屋	二、三五一	三、一三三	二、四七七	三、八一九	九、八七	二、一〇三	一、六四八	六、三三	八、八四	一、四三七
由良	二、一八五	三、一八六	八、六九四	二、六、八〇九	一四、四二五	一〇、二六九	六、五八三	二、五七八	二、五七八	一、四三七
魚崎	二、一八五	二、四四八	二、五四〇	二、三三六	二、〇九六	二、七七五	一、六七四	二、七六三	二、七六三	三、〇三三
鳥飼	一、〇〇〇	一、一一一	三、一〇	五、七二	一、四五〇	一、〇五五	八、五八	—	—	—
愛知	七、六、九七四	六、八、四二二	七、七、一一〇	七、九、五〇三	七、六、〇、九六二	七、五、二、八九〇	七、四、七、四二二	六、七、四、六七一	六、三、八、四六九	五、七、三、六四二
名古屋	五、三、六、二六	四、六、二、二二	五、五、九、八三九	五、九、四、〇六五	五、七、八、〇六八	五、六、六、六七〇	五、四、四、三三七	四、八、二、九四一	四、三、九、九二七	三、八、二、六二一
半田	九、二、〇、七三	八、七、三、五三	一〇、九、二、二六	一一、五、三、三四	九、六、一、八八	九、九、三、五六	一〇、八、五、六一	一〇、八、三、三三	一一、三、三、三七	一一、二、一、六〇

蒲郡	阿山縣	宇野	岡上	片浦	宮島	笠岡	田口	西大寺	味野	日比	玉津	下津井	神島	山口縣	下關	小野田
八八、六八五	二九七、九三三	一〇〇、三六九	八四、二四一	三三、七六二	一六、〇九五	一四、〇三三	一三、二二三	一〇、五三三	七、一〇四	三、一五三	一、二七八	一、一九六	一、一三七	二六、一、三二	六三、〇、三五	四〇、四、二二
七八、四一八	二五九、四八五	八六、六七五	八四、五二二	二八、六六一	九、三三三	一一、〇九四	一一、二〇五	七、九〇三	五、一三四	二、〇〇四	一、二八四	一、〇七七	一、一五四	二七五、四九三	七六、六七二	五〇、〇、九八
一〇四、三三二	二八三、四六三	九三、七九二	九六、四七七	三〇、二〇三	六、〇六五	一一、四一八	一〇、五五七	六、〇六三	四、六六五	七、一〇一	一、七七一	一、三九七	一、一三八	二六九、九九四	七三、〇、三二	六、一、二六八
八四、四五四	三四九、八三七	一一、一七五	一一、八九二	三三、六八三	一一、〇九三	一一、二七七	一七、四一一	六、六二四	四、七四〇	五、一四四	二、七五一	一、三八六	九〇、四	三〇〇、七七七	九四、八、四五	六六、〇、四〇
七四、九三四	二九三、〇三三	八五、四三〇	一〇六、八八四	二九、四三〇	五、六三五	一一、六六六	一五、五二七	六、〇六三	五、五〇〇	四、四九八	三、一三八	一、八〇三	七、七三	三三九、八一六	一三〇、九、四五	七五、九、八一
七二、七〇四	二七八、三〇二	八三、六九二	一〇三、〇八五	三三、九七三	三、四四六	一四、二二二	一六、三三五	四、九六三	三、〇二三	四、六二九	二、四三四	一、三九五	一、一七一	三四六、〇四四	一四〇、二、三九	六七、五、六七
八〇、四二二	二七〇、六九二	七三、一九二	一〇四、三六三	二二、五四〇	五、六二五	一四、六六三	一四、三三三	三、〇一三	六、九五二	五、七〇五	二、八七四	一、三三一	四、二〇	三四六、一八八	一二三、八、五二	七三、一、五二
五九、七四六	二三八、〇〇六	五四、八五四	八七、〇四三	一五、八二〇	一〇、一一三	一四、〇六三	一一、三三三	七、三二二	七、一六七	一、〇三七	一、九三八	一、七五二	二、七二	二九〇、六八三	二七、五、六六	五、六、一一五
六二、三〇七	二二一、九三三	六四、九五四	七二、七四九	一三、九九七	一〇、九九九	一三、四五一	一四、一〇六	二、八七〇	九、六〇四	四、九〇	二、二〇〇	一、五〇六	八四、六	二六二、一、五一	一〇一、八、一五	四七、〇、八九
五一、九四三	二四一、八五二	八二、三九二	七八、六七四	九、二八二	三、五九三	一四、二六二	一一、九五七	二、五五四	九、九三三	八、六七九	四、八〇八	一、四四八	四、四二一	二五四、九四五	一一五、三、八三	三三、六、〇〇

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
岩國	三九、五三四	三三、三五七	一七、四九九	二九、〇一八	三三、五五五	一六、五三四	一一、四五九	九、二九一	九、八四〇	八、七〇一
彦島	二八、八六四	三三、七三九	三〇、九六九	二〇、九三二	一七、五三〇	一八、八五七	三〇、二八七	三〇、五三三	二八、四三八	二五、七五六
宇部	三三、三二二	二二、〇九二	一六、七三五	一八、〇四八	六、七四〇	七、〇〇九	四、七六一	五、〇七〇	一、八三二	一、三五六
前田	一七、九五四	二五、九八一	二二、八九九	三二、二九五	四〇、六八五	二五、六九八	三三、九四三	二六、四三〇	二二、二六一	一八、二七八
徳山	二二、四三三	二二、一三五	一五、一九〇	一三、八四二	一一、〇三二	一三、六二五	一三、四六一	一一、七四六	一〇、七五五	一〇、八三八
下松	六、〇七七	五、二二七	三、七八〇	四、〇八九	四、〇九三	三、八一	四、二八六	三、九九七	四、六八四	四、一三一
萩	二、八九九	一、五三三	二、二二二	二、七五〇	二、七〇七	一、三〇三	一、五三四	二、〇三三	二、五三四	三、三六五
三田尻	二、七八一	四、三五六	三、一五六	四、二二八	六、三九二	四、四一五	一、〇九七	七、四〇九	二、八六三	九、〇三七
厚狭	二、七七二	三、三六九	四、三九二	五、〇九九	四、四六四	四、五九七	三、五八五	二、三五	—	—
柳井	二、五四八	二、〇五三	二、〇六六	三、一五五	二、三三一	二、五三一	二、七六八	二、三五	—	—
長府	二、四〇六	一、〇六九	一、一〇三	一、〇三三	五、七九	七、四	七、三三	四、四八	三、五六	六、八
永田	二、三三八	二、〇四八	一、五二二	一、六三三	一、五四七	一、四二四	八、三六	九、三〇	四、六二	七、九
富田	一、六九九	一、九六七	一、七九九	一、八五七	二、三九八	三、三〇〇	二、八六八	一、四五二	一、四〇五	一、二九九
平生	一、六六九	一、九四三	一、八九七	一、五八六	一、〇六一	一、五七四	二、七九一	二、一一七	三、五三〇	二、三三〇
小松	一、六五七	二、一七三	二、二五五	一、一七二	二、七四	五、三四	一、五三六	九、〇七	一、六六四	二、〇八二
福川	一、一八二	六、三三	三、三四	三、九九	三、七八	六、七九	七、六七	四、六九	七、七〇	五、〇六

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
由宇	一、一六三	五、四四	一、三一	一、二九	二、四	—	四、五	一、六六	九、八	三、〇
秋穂	一、一四九	七、三二	七、四一	四、三六	四、四〇	四、四〇	一、一一二	三、五	一、〇	六、五
廣島	二、六〇三	三、八、五五八	二、七四、二〇七	三、〇、八七三	二、九八、五五四	二、九二、四三六	三、三一、〇八七	三、五〇、三七八	四、六五、六四九	四、六八、三五九
宇品	四、四、五三二	四、〇、六二八	四、八、三六八	五、六、〇七八	七、九、〇二五	九、九、七〇九	一〇、四、六六一	一〇、七、三七七	一〇、六、三七七	一、三三、五〇九
糸崎	三、〇、八五六	三、五、三六一	四、一、五二七	四、四、四四五	三、五、四〇三	一、五、三八九	一、八、七五六	一、八、五四七	一、九、三三三	二、四、五五五
廣島	二、九、八〇三	一、九、五七〇	一、六、七六九	一、八、一一九	一、七、二四〇	九、四、七九	五、三四六	六、八、二四	一一、九八五	一一、二、六二二
福山	二、三、八六一	二、四、三七七	一、九、三三二	二、八、二二四	二、七、一一一	三、一、一七〇	二、八、五七六	二、二、四七六	二、七、七三三	二、三、八二五
坂道	二、二、〇九七	六、八、八四	二、四、一三三	四、〇、二八八	一、八、一四六	四、六、二九	三、一、五三	一、〇、五三	—	—
尾道	二、〇、九三五	一、三、八二二	一、五、八八二	三、〇、八六六	二、一、〇五四	三、五、〇四八	三、四、二九六	三、四、七三三	三、〇、五三六	二、四、二二九
吉浦	一、九、五五〇	一、九、五八四	二、四、三七二	二、二、六三三	二、二、三八七	二、四、五〇一	二、五、五九八	四、一、八七七	六、七、五二五	六、〇、九八五
吳	一、五、一九七	一、三、二二七	二、五、五四〇	一、三、三九三	三、七、〇四	一、二、〇五八	三、八、二八七	五、四、二七一	八、九、四七七	一、〇〇、一八〇
阿賀	一、三、四七七	一、三、三三七	一、〇、〇五八	八、二、四九五	七、二、四三	七、九、六二	七、九七〇	六、二、三六	六、四、四八	一、八、六二六
仁美	三、八、八三	四、三、七六	三、五、四〇	五、六、三三五	五、三、三三	六、六、二	一、八、六四	六、五、五二	一、四、八九	一、一、三四
能美	三、七、三四	三、八、〇三	三、六、九七	四、四、七二	三、五、二二	一、四、九六	八、九四	六、五、五二	一、七、四	六、一、一七
海田市	三、五、三二	四、六、六九	四、一、九二	五、九、一四	四、五、七〇	四、一、八三	四、九、七七	四、五、八〇	四、〇、三六	二、三、三五
三原	二、八、五〇	二、一、九五	三、一、三三	六、九、九五	五、八、〇三	五、二、六八	五、九、〇七	四、三、八五	九、七、〇四	一、八、〇三九
因島	二、六、五八	三、〇、二七	一、九、三八	六、二、四	五、九、一	五、五、八	四、二、七	—	—	—
廿日市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
大崎島	二、四九七	九五三	一、五三三	四四四	二、五六六	三、五九九	二、二五	二、六〇〇	—	—
三	二、三〇六	二、一四三	二、七三八	二、七九二	二、五八二	二、三六六	一、九三二	一、四三九	二、八〇九	二、三三一
三津	二、〇三四	二、〇三三	二、〇五九	二、四四三	二、三六一	一、九五三	一、八八二	一、〇四六	一、九二九	三、〇二八
松永	一、九五六	一、七五二	一、一九三	一、四四〇	一、七〇二	一、四三七	二、〇七五	一、六九七	一、六五五	一、一三四
竹原	一、七八二	一、九六九	二、〇九八	一、一八七	一、九六九	二、一五〇	二、九二二	二、七二〇	四、一六七	二、五〇〇
倉橋島	一、〇六四	一、七三一	一、二四四	一、六八六	一、二七三	一、三九一	一、一四二	一、七九三	九四二	一、四〇八
三津口	一、〇六三	六二七	一、二二七	一、七九九	二、一九五	一、八五〇	一、六四二	六〇一	二、〇五五	一、九二三
神奈川縣	二、四二二	三、三七一	四、七八〇	五、〇六〇	四、三〇三	五、六九八	五、〇二二	四、七三三	四、七三三	四、六五五
川崎	一、九三三	一、八七一	七、六〇五	四、〇九二	—	—	—	—	—	—
横濱	四、八三三	一、五〇〇	四、〇八七	四、〇九二	四、三〇三	五、六九八	五、〇二二	四、七三三	四、七三三	四、六五五
愛媛縣	三、三三三	三、四四九	二、四八七	四、〇三三	四、三〇三	五、六九八	五、〇二二	四、七三三	四、七三三	四、六五五
新居濱	三、八三三	三、四四九	二、四八七	四、〇三三	四、三〇三	五、六九八	五、〇二二	四、七三三	四、七三三	四、六五五
今治	三、八三三	三、四四九	二、四八七	四、〇三三	四、三〇三	五、六九八	五、〇二二	四、七三三	四、七三三	四、六五五
宇和島	二、六二四	三、八二二	三、八三三	三、三二二	四、九六五	五、四三三	三、二九四	三、二九四	三、二九四	三、二九四
高津濱	一、六九〇	三、〇八〇	二、五九三	三、七〇五	四、一三三	四、一三三	三、六二二	三、六二二	三、六二二	三、六二二
三津濱	一、〇九八	一、一三二	一、〇六九	一、一五七	一、二六八	一、二七九	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
川之石	一〇、五九六	一〇、四九九	八、五三三	九、四四九	八、五三三	八、四四六	九、四四九	八、五八二	一〇、七〇三	九、三三三
長濱	九、七九九	九、五三七	一〇、八九七	一〇、八九〇	一四、三三五	一三、五九三	一二、六七八	二二、〇九八	一〇、八四三	一、三三〇
菊間	九、七二七	一〇、一五七	一二、九六六	一二、二八九	一二、八〇二	一三、八三三	一一、六六三	四、九四三	—	—
西條	九、一五五	八、八九一	六、四四六	九、二七八	八、八五二	八、四九九	九、〇四九	七、九七四	九、五二七	九、一三九
四坂島	七、九九八	八、九三二	一三、九三二	一〇、四四五	一四、六二〇	二六、八五六	二四、九五二	三四、二七九	二九、九九八	三〇、八二〇
三島	六、〇二二	五、二六七	七、五五八	九、五六〇	九、三八九	七、一七四	四、一六七	四、九七二	三、九六一	四、五七八
八幡濱	六、〇一九	六、八四五	九、一六二	一二、二二三	一二、九四〇	一四、八三四	一三、五八五	一一、八四二	一二、五三二	一二、六二六
高山	五、二四八	三、一三一	三、七	六、九〇	一〇、〇一七	一、二九五	二、三六八	二、一七	二、八九	二、八五二
川之江	三、八七二	三、四五〇	二、八八八	三、四二七	四、二二三	三、五二二	三、五四〇	四、一九二	二、七〇〇	三、七五一
多喜濱	三、一九六	二、七一一	一、九一九	一、六一五	三、三三六	二、三八七	二、九三三	二、四八〇	三、一六〇	七九九
三瓶	三、一四一	二、一八八	一、二一〇	九三五	八四八	八六八	一、〇九四	四九〇	四二〇	五七六
吉田	三、〇六八	二、〇五二	三、〇二六	四、二九八	四、六五〇	三、六八九	二、八三九	一、五九八	二、五三一	八四六
壬生川	二、二〇一	一、九七八	二、四四六	二、六四九	二、八三五	三、二一〇	三、三四一	二、四七八	二、六三四	二、九九二
郡中	一、八八〇	一、三三六	一、三三七	一、六三二	二、八〇一	二、四九〇	二、八四四	三、三六八	三、六五五	二、九七六
北條	一、二七二	一、八八七	一、四四九	八八六	一、〇四七	一、四七〇	九九七	一、六五	五八	二五
波止濱	一、二四二	五五五	二五八	一五〇	一、三〇六	八〇九	一、七三四	二、一七七	四、二九〇	一、〇三三
弓削田	一、三三四	八〇四	—	五九	—	一六五	—	—	—	—
東京府	二、三三、六八四	二、二七、三四	三、五、五五九	三、五、八五五	三、一、六六一	六、五、〇五七	三、七、三八〇	五、四、〇六七	一〇、八、〇〇五	一、七、七三六

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
東京	三三、六八四	二五、〇四七	三五、五五九	三五、八五五	三三、一六一	六五、〇五七	三七、二八〇	五四、〇六七	一〇八、〇〇五	一七、七二六
和歌山縣	一六五、七〇二	一七五、一九一	一六五、二〇一	二〇七、二二五	二〇〇、三三四	二二二、〇四〇	一九四、九五七	一八八、四六三	一六七、九三三	一七八、七二五
和歌山	一一、六九〇	一二七、一九〇	一一二、六一三	一四四、六九六	一三八、〇五五	一四九、八〇三	一三三、一四九	一二〇、六六八	一一〇、三四八	一二九、九九三
由良	三三、八二九	三四、八四五	二九、五二七	一五、一三四	一六、五二八	一〇、五二七	一三、六六八	一九、七一一	一四、四一三	一一、七九一
冷水	三、〇二六	一、六八〇	六、〇五六	八、六五四	五、四四七	六、四〇四	三、三三四	三、〇八七	二、五八五	—
勝浦	二、五四三	二、六三七	二、九七四	五、九五六	四、六二八	四、四〇四	四、六七七	一、二七九	六、三七四	—
田邊	一、八一七	一、九六四	二、六〇六	四、三二六	三、二六五	五、三八四	四、六七三	二、四〇八	一、四〇四	一、〇〇九
湯淺	一、六一九	一、三四八	三、〇五一	三、六七四	三、〇二二	二、五六〇	一、七四一	八八三	二、二二三	一、六七五
香川縣	一四八、四〇四	九六、五九五	一二九、四九二	一三〇、五七五	一三四、八五〇	一〇三、三八六	一三八、五三八	一二三、八五二	一二七、九三三	七九、四三二
高松	六七、四三九	四七、九三七	六六、四四八	六四、四三六	七二、〇六五	五三、七五四	六七、二二九	五九、四八六	六二、五〇九	四一、五二七
林田	一三、七八九	八、四九八	一〇、〇八七	六、三二三	七、二四二	五、四二六	一三、八三八	一三、八三三	一三、四七四	一、七五〇
坂出	二、七二四	二、四四一	六、九七八	二、九七九	一三、六〇六	一〇、〇五一	八、八〇八	七、八五三	一〇、〇六二	六、六四二
多度津	二、三五四	五、二七一	一四、六二〇	七、三九七	二、二六一	一、三二九	一九、九四〇	一七、六二〇	一六、三八三	一〇、一三六
小豆島	一一、〇九九	一三、〇四七	九、三〇六	八、七五九	一〇、五三九	九、八九八	七、九二八	六、五九二	五、四五八	一〇、一三六
直島	七、四六〇	二、五五六	三、二一〇	四、〇七三	三、二四六	九八	四、九九〇	一、〇七〇	二、六二〇	二、三二二
丸龜	七、一三四	三、四四九	二、五六一	三、二四九	三、一六四	三、四四三	三、六三三	三、八七五	四、三三六	二、一六四

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
觀音寺	三、八九九	三、三三五	三、四六七	四、四八三	三、四三四	三、八四九	三、〇二八	三、六三九	四、一五八	四、〇二〇
仁尾	三、四六九	三、三九八	三、四九九	四、二六八	三、二八七	二、九三三	二、一七六	二、二二二	一、三三六	五二一
宇多津	三、一八八	一、六九三	一、二五二	一、四五八	一、九七八	一、二五六	一、八五七	一、九九三	一、六六九	二九三
豐濱	二、四〇三	一、三二五	一、二八四	二、七三二	二、七九一	一、九四一	一、〇五一	一、一九五	五九一	五三六
粟島	一、五九九	一、〇七八	一、三七九	一、五六五	一、七九七	一、六八一	六五二	三〇七	一一四	二六〇
朝鮮	一四二、〇〇〇	一六七、三四九	一八〇、七四六	一六〇、四七五	一四二、一五三	一二七、四三六	一二六、〇三四	一〇〇、五七五	一一七、三三八	一二七、二九八
仁川	五八、〇七四	六六、三三四	六二、二二三	三六、三五一	四七、五八六	四一、八二三	四〇、七二七	三五、七六六	三六、四七八	三七、〇四六
釜山	四七、四三四	六三、六四四	七七、七四五	八二、八八六	六八、六五一	五六、一五六	五三、二二三	三四、四七五	四三、四八九	五〇、〇五九
鎮南浦	九、〇二六	七、〇二六	四、四九二	三、八八〇	二、三二二	三、〇四五	二、二五二	四、五三五	一、三六二	二、五三三
西湖津	六、五〇五	一、六八七	七、五四一	四、五九六	八、〇〇〇	—	—	—	—	—
木浦	六、五〇三	七、四七七	七、一七六	四、四〇〇	四、三〇七	五、七八二	六、七四九	九、六四三	一一、四五七	七、三四二
群山	五、七八五	六、六七七	九、六二四	五、五八三	三、六八四	四、一二六	五、〇六七	二、七八一	一、九三三	六二四
麗水	二、七一九	三、七〇七	九〇八	一一九	—	—	—	—	—	—
馬山	二、五六七	五、七九一	六、五九三	一〇、〇二八	四、四二七	二、七七三	三、七三九	三、五三八	三、四一四	二、八五八
三千穗	一、六三七	一、九六三	一、九七六	—	—	—	—	—	—	—
大分縣	一〇一、七三八	一〇五、五二五	一一八、四一一	一〇六、六三九	九五、五三二	一一〇、一三三	九九、七三八	七四、四七一	六四、五五五	五三、七九〇
津久見	四九、〇八九	三九、三〇五	四六、九七二	三二、七九〇	二六、二三五	三三、一八三	一八、〇九三	一八、一三〇	一三、八五七	五、四八〇
佐賀關	一七、八八五	一四、三四四	二三、三五七	一六、二六九	一八、四四五	二三、五五四	二四、一九三	一八、五三九	一九、二九六	一六、一三三

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
大分	一一,一七八	一一,九九五	一一,二七六	一六,七三三	一九,一七三	一四,九二四	一〇,六〇二	九,二九六	四,四五四	八,八〇六
海崎	一〇,一八二	一五,五〇六	四,八二二	—	六,七五五	六,六五九	五,九七六	—	—	—
高田	二,六五五	二,一〇八	三,五〇八	二,三五六	二,一〇四	一,〇五八	一,二五五	一,九五三	—	—
徳浦	二,〇四五	一三,一七四	一九,六四三	二九,一〇一	二四,八九一	一六,八六四	一六,五二五	一五,四九三	一二,五三二	一〇,四七二
白件	一,五三六	—	—	二九	—	—	—	—	—	—
静岡	九三,八四八	八九,四七九	一〇九,五八九	一三六,三七九	一〇〇,一四三	一一〇,一三七	九九,四三〇	一一三,一六七	九五,一五八	七二,四六五
江尻	五六,六〇四	五四,四五六	七三,五二七	八一,九九六	五六,二四一	六五,七二八	五〇,八三三	七〇,三八六	七一,五九二	三三,三三八
清水	三六,二四四	三五,〇二二	三六,〇六二	五四,三三三	四三,八七五	四三,八六九	四八,一六四	四二,一九三	三三,五六六	四二,三三七
徳島	九一,六九三	八九,六三七	八五,〇〇〇	八九,三三二	一〇一,七五九	八六,五六一	一〇二,〇一五	八三,五二一	九八,五八九	八九,四三〇
撫養	三九,六五四	三五,一四四	三〇,六二八	一八,一八九	二七,八八八	二一,〇五六	三五,六〇四	一九,〇九四	三四,六六六	一八,五二二
小松島	一六,二七四	二二,三六三	二七,五九五	二五,九九三	二七,二七二	二五,九九三	二八,五四四	二五,九〇一	二五,九九一	二二,〇二二
三重	八九,五四八	七九,六四一	九九,一六五	一〇〇,五七一	九一,八〇一	一二三,〇一四	一四三,〇六三	一二六,五八七	一一九,五〇四	一一四,三八〇
四日市	四八,八四七	四六,四七〇	六一,三三三	六〇,七三五	五六,三〇二	七三,二五六	九八,九二二	八九,九二七	八二,一九三	八五,三五一
鳥羽	四〇,七〇一	三三,八三三	三六,一九三	三八,六九六	三五,三八一	三五,三〇五	四二,九八八	三五,五六三	三八,一九一	二八,八七九
高知	七五,四二五	六六,五五七	一〇〇,二八二	一二六,八九二	一一一,九五五	一一〇,一六六	一〇五,七四二	九〇,一七六	九九,三七三	八五,二二九

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
高知	五五,一三七	五六,八九九	八三,九〇八	一〇七,五三三	一〇五,五〇八	九四,二五五	八二,二三五	六八,一七五	八〇,六三三	七二,〇二二
須崎	一,七五三	一,八五八	五,四二二	三,二五五	三,一六四	四,五四七	三,〇〇六	三,一九八	二,四九一	—
下田	一,〇九二	一三〇	一〇〇	三三	一〇一	一九〇	二三三	一〇一	四三	一三三
福井	五五,五九三	五二,八九五	五九,四八七	六七,〇三六	五六,〇三〇	五三,八一〇	五二,二六八	七〇,三五四	七二,七七七	五四,七五九
敦賀	四四,〇八〇	四五,四〇七	五〇,八七四	五七,二五四	四四,五八九	四四,〇二七	三七,一九六	五一,九五六	五八,四四七	四三,八六五
三國	一〇,二六四	五,四八六	六,四八三	七,一〇七	九,二四七	五,七二二	九,七九一	一一,一一四	五,三四	三,四二九
京都	五三,六七〇	四六,四三〇	五一,五一九	五六,三四六	五一,二九〇	四七,八一五	四一,〇七七	四六,一八一	五三,一四〇	四三,二七八
舞鶴	五二,二二六	四四,八六一	四九,三六九	四三,四九九	四九,七三二	四一,〇九八	三七,九三七	三八,二七四	四二,五六六	三三,〇一九
宮津	一,四五四	一,三五五	一,八八七	四,一七九	二,三〇三	六,三八〇	二,五五六	七,四四八	八,八〇九	七,九九一
新潟	四二,七九八	四三,二四〇	六〇,〇八九	七三,三六七	七七,四〇八	六二,七二四	七三,五三六	九二,六二五	九二,八二五	五〇,九九四
直江津	一九,四八八	一〇,五六〇	一三,四八二	二二,八四九	二〇,七三一	二九,四四七	二九,七二四	一八,一四九	二九,六九五	二二,六四〇
相川	五,八五七	三,〇〇九	五,六四八	一,一七八	三,七九二	三,八一一	二,七七八	四,八三七	三,〇〇〇	四,九一〇
富山	四〇,八一九	三二,一六二	三八,七八七	五〇,〇七五	五三,二六六	七二,三三三	八三,二五八	六二,三六一	三六,三三一	三〇,二六五
伏木	四〇,八一九	三三,一六二	三七,三三三	五〇,〇七五	五三,二六六	七二,〇六七	八三,二五八	六〇,六九二	三四,七二〇	二八,七七三
鳥取	三三,一五八	三二,四〇五	三三,九二二	二九,二六六	四二,三三三	五〇,四三三	五一,四七五	四七,二六五	五一,八七七	五〇,一八六
境	二二,〇四四	二二,〇一九	二九,三二〇	二六,八二四	四〇,六三二	五四,四三三	五一,三〇六	四五,六五五	四九,五五〇	四七,三〇五
加露	一,五三三	五五一	—	五五	—	—	四二	一四三	一八七	四〇四

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
島根縣	一六、〇三六	一〇、〇三八	六、〇五九	五、一九八	五、一三七	五、四三三	三、四八〇	二、四一〇	二、九六六	五、六〇三
安來	三、六八九	一、二二七	—	七〇〇	一、一六一	八六六	九〇六	二、八四	三三	六二九
馬場	三、四三三	一、五九	二二〇	四二五	四三四	四五八	五〇〇	一、七四	一、〇五六	二、九五四
松江	三、三二二	三、〇七三	一、五九八	九二四	—	—	—	—	—	—
濱田	二、六七八	二、六三三	一、四一四	二、〇七四	—	—	—	—	—	—
仁萬	一、〇四三	—	—	二、〇七四	—	—	—	—	—	—
沖繩縣	四、二五五	一、八六〇	—	—	—	—	—	—	—	—
大東島	四、二五五	一、六五〇	—	—	—	—	—	—	—	—
北海道	三、七六一	三、七八五	—	—	—	—	—	—	—	—
函館	三、七六一	三、七八五	—	—	—	—	—	—	—	—
宮崎縣	三、四一八	六〇八	—	—	—	—	—	—	—	—
延岡	二、〇六一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
秋田縣	三、一七三	一、六三三	—	—	—	—	—	—	—	—
船川	三、一七三	一、六三三	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城縣	二、二四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹽釜	二、二四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—

港名	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
長崎縣	二、〇八九	二、三三一	三、三八九	三、一六六	一、二三五	一、八六〇	一、〇〇一	五、二四三	三、一一三	二、二九五
長門	一、六〇一	一、七五三	二、三八九	二、〇〇〇	八四二	—	一八五	三、四五〇	二六八	九〇六
石川縣	一、八〇六	二、一五七	九、四七九	三、六三六	四、五九六	七、二六三	四、一八六	一八、三五七	四〇、三五〇	三、七〇一
七尾	一、八〇六	二、一五七	九、四七九	三、六三六	四、五九六	七、二六三	四、一八六	一八、三五七	四〇、三五〇	三、七〇一
鹿兒島縣	八三四	七六六	八三五	—	—	九〇九	八八八	八八三	八四六	一、九五五
台灣	八一	七四四	二七八	—	—	—	—	—	—	—
福岡縣	六四四	六三三	一、〇三七	—	—	—	—	—	—	—
熊本縣	一三三	六三九	一、二八	八六五	四一九	一、三三九	三、二〇八	一、二二六	一、二二六	五、三三二
佐賀縣	六〇	三〇	—	—	—	—	—	—	—	—
山形縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
榎太	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩手縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
滋賀縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小計	六、〇一六、五〇二	五、六二六、三八二	六、三八八、〇七四	七、一六二、八八一	六、八八七、七三九	七、〇七四、九四〇	六、六六六、五三三	六、九二四、六四三	六、六七二、四七九	—
内國船隻	一、〇五九、〇一一	九九六、六九三	一、二六一、三七五	一、四〇二、四九二	一、四七九、二八五	一、五二六、二一一	一、五二六、二一一	一、五二六、二一一	一、五二六、二一一	—
合計	七、〇七五、五一一	六、六二三、〇七五	七、六四九、四四九	八、五六五、三三三	八、三六六、〇二五	八、五九一、一五一	八、一九三、七五二	八、四九一、一五一	八、一九三、七五二	—

第七章 内外仕向高 第一節 内地輸送高(内國海路輸送先別)

第二節 海外輸出高 附外國船燃料供給高

若松、門司兩港より筑豊炭の海外に輸出せられし數量及外國船燃料として供給せし數量を明治三十一年以降年別に示せば左表の如し

◎ 海外輸出高及外國船燃料供給高年別表

年 別	海外輸出高		外國船燃料供給高		合 計
	若 松	門 司	若 松	門 司	
明治三十一年	—	七三四、〇六四	—	二七二、六八〇	一、〇〇五、七四四
同 三十二年	—	九七八、一六四	—	二六七、二四〇	一、二四五、三七八
同 三十三年	—	一、一四六、三七三	—	四三〇、四九九	一、五七六、八七二
同 三十四年	—	一、八五〇、一三八	—	五二七、八三三	二、三七七、九七二
同 三十五年	—	一、六八三、四八二	—	四八五、二九六	二、一六八、七七八
同 三十六年	—	一、九〇四、二七一	—	五六六、六九五	二、四七〇、九六六
同 三十七年	九〇、七八八	一、五四二、七八八	五、六三二	六六六、八三二	二、三〇二、〇六〇
同 三十八年	二〇六、〇八二	一、一五二、六三三	一四、〇六八	七三五、四八五	二、〇〇八、二五七
同 三十九年	三九四、三三九	九〇四、七七六	二九、五二九	六三九、八四一	一、九八八、四八五
同 四十年	五三三、〇七七	一、二四、九九七	四一、三九五	六二九、九五八	二、〇〇九、四二七

第二節 海外輸出高

年 別	海外輸出高		外國船燃料供給高		合 計
	若 松	門 司	若 松	門 司	
同 四十一年	六六七、三九五	一、〇七六、四三三	五四、四四八	五六五、七四九	二、三六四、〇二六
同 四十二年	七三七、三六七	八三一、九九二	六、二一九	四一一、九一五	二、〇三三、三八三
同 四十三年	六九三、八一六	八九八、四九八	六一、六五九	四七八、六七二	二、一三三、六四五
同 四十四年	七〇九、八一四	七三六、五三八	五八、二七八	四四六、〇三三	一、九三〇、六五三
大正元年	八六二、九九七	七七七、九九五	一八、三三五	五〇七、二八一	二、一七六、四六八
同 二年	九四三、一三六	九七三、五六四	七、六四〇	五七一、九〇九	二、四九六、二四九
同 三年	九一六、〇五一	七三〇、一一〇	一〇、一七二	四三三、九〇七	二、〇〇〇、二〇五
同 四年	八三三、七八七	三八八、〇〇五	一、四九八	二二〇、六七二	一、四四三、九六二
同 五年	八〇一、五八八	二六九、八五三	七、五八二	三〇一、三三四	一、三八〇、三三七
同 六年	七九九、〇三三	二四八、四〇六	二、七九〇	一七一、六八四	一、七四四、四七四
同 七年	四九八、四七七	二四六、五九四	二、九六八	一一一、四八七	一、二四四、四五五
同 八年	五三九、八八五	八三、五九〇	二、〇三六	一四六、七三三	一、四八、七六〇
同 九年	五二四、一五一	一五四、三三二	二、一五四	二八四、八七九	二八七、〇三三
同 十年	五九五、三二三	二六三、九九一	七、七〇〇	二五八、七〇三	二五九、四七三
同 十一年	三四三、八三〇	一三三、〇一九	五、三〇八	三四一、一七七	三四六、四八五
同 十二年	三五二、〇二〇	二八、九八一	一、九二四	二七〇、三四二	二七二、一五六
同 十三年	四八〇、四三四	一一、九六九	六、六八〇	三三六、七四八	三三三、四二八
同 十四年	一、〇八二、三九〇	九、六三三	六、八七七	三三〇、七五一	二、三三九、六五三

第七章 内外仕向高 第二節 海外輸出高(海外輸出高年別)

一四四

年別	海外輸出高			外國船炭料炭供給高		
	若松	門司	小計	若松	門司	小計
昭和元年	八八七、三三九	八、五七三	八九五、九一三	一、六三五	二九六、三〇七	二九七、九四三
同二年	六四九、九四三	一六、一六〇	六六六、一〇三	三、七〇〇	二五五、七六三	三九一、五四三
同三年	五六一、三〇〇	一五、五〇八	五六六、七三八	一、五四〇	二六〇、四三三	二六一、九六三
同四年	四二六、一九四	四、五四二	四三〇、七三六	二、三五〇	二六八、三七二	二七〇、六二二
同五年	四五一、〇九七	一〇、一八〇	四六一、二七七	五、九六一	一九〇、九八四	一九六、九四五
同六年	二七、九七三	六六一	二八、六三四	三八〇	一四〇、六三三	一四一、〇一五
同七年	一四〇、八八三	一、三七八	一四二、二六一	五、一八八	一〇五、八二三	一一一、〇〇一
合計						一、一九三、八四四

◎海外輸出先年別表

前掲の輸出高を昭和七年を基準として輸出先別に表示すれば左の如し

輸出先	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
支那	一七四、八六三	一〇八、九四八	四三三、二六	四〇三、九一五	五六七、五四三	六五二、〇九五	八七、九〇八	一〇、六九二	四七四、八〇七	三四五、六〇〇
上海	一〇三、一五四	七六、七六六	二五二、一〇六	二五七、〇六一	四〇五、三三三	四四四、〇七五	六九、九八五	五九七、五九六	二九二、〇三三	三二八、九〇二
香港(英國)	四七、九八二	一三、二七五	六七、七三三	八〇、六〇九	七四、〇三三	八七、二八六	五四、三三三	九九、四五九	八一、六五四	九五、七三三
漢口	一七、一四二	一六、七二一	三六、〇一八	四三、五二八	五〇、〇四四	三八、二六六	四〇、〇四二	一九八、三七八	三六、一八五	—

輸出先	海外輸出高			外國船炭料炭供給高		
	若松	門司	小計	若松	門司	小計
青島	—	—	—	—	—	—
蕪湖	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—
馬尼刺	二九、一五六	九、六八六	三八、〇六一	二、六八二	九、一八五	一一、八六七
サイパン	一〇、一三〇	—	一〇、一三〇	二、一九九	—	二、一九九
イロイロ	六、四一八	—	六、四一八	七〇〇	—	七〇〇
セブ	五、〇〇六	—	五、〇〇六	—	—	—
ホナハ	四、一六三	—	四、一六三	—	—	—
ヤールト島	一、八〇七	—	一、八〇七	—	—	—
ズングン	八六八	—	八六八	—	—	—
南米	五〇〇	—	五〇〇	—	—	—
新嘉坡	二〇〇	—	二〇〇	—	—	—
パラオ	五〇	—	五〇	—	—	—
ヤツプ島	二二	—	二二	—	—	—
トラツク	一	—	一	—	—	—
小計	二〇四、〇一九	一、七三四	二〇五、八五三	—	—	—
外國船炭料	—	—	—	—	—	—
合計	二〇四、〇一九	一、七三四	二〇五、八五三	—	—	—

第三節 内外仕向總高

内外仕向總高前掲第一節及第二節に掲げたる内外兩途の仕向高を合計して年別に示せば左の如し

◎筑豊炭内外仕向總高年別表

年次	内國輸送高 (船用とも)		海外輸出高 (船用とも)		合計
	内國輸送高	海外輸出高	内國輸送高	海外輸出高	
明治三十一年	七三、九八八	一、〇〇五、七四四	一、七一九、七三三	同	四十三
同 三十二年	一、二三〇、八四七	一、三四五、三七八	二、四六六、二二五	同	四十四
同 三十三年	一、九五二、六四五	一、五七六、八七三	三、五二九、五二七	大正元	元
同 三十四年	二、一四八、四九三	二、三七七、九七一	四、五二六、四六四	同	二
同 三十五年	二、三五一、五二八	二、二六八、七七六	四、五二〇、三〇六	同	三
同 三十六年	二、四一三、三三四	二、四七〇、九六六	四、八八四、二九〇	同	四
同 三十七年	二、七四一、三八六	二、三〇二、〇六〇	五、〇四三、四四六	同	五
同 三十八年	三、三五五、五三二	二、一〇八、二五七	五、四六三、七八九	同	六
同 三十九年	三、六五一、九五六	一、九六八、四八五	五、六二〇、〇八一	同	七
同 四十年	三、七五六、〇二五	二、三〇九、四二七	六、〇六五、四五二	同	八
同 四十一年	三、九九三、九〇六	二、三六四、〇二六	六、三五七、九三二	同	九
同 四十二年	四、一六二、六一九	二、〇三三、三八三	六、一九五、〇〇二	同	十

年次	内國輸送高 (船用とも)		海外輸出高 (船用とも)		合計
	内國輸送高	海外輸出高	内國輸送高	海外輸出高	
大正十一年	九、九〇六、四七八	八三三、三三四	一〇、七三九、八一二	同	三
同 十二年	一〇、二八二、八〇一	六五三、一五七	一〇、九三四、九五八	同	四
同 十三年	一〇、八八八、五〇五	八二六、八二二	一一、六一五、三二七	同	五
同 十四年	一〇、四七六、七四〇	一、三二九、六五三	一一、八〇六、三九三	同	六
昭和元年	一一、二六、〇一五	一、一九三、八四四	一二、三九、八五九	同	七
同 二年	一一、三五、九九七	九三五、六四五	一二、二五、六四二	同	七

第八章 全國石炭輸出入高

◎輸出入高年別表 (筑豊炭以外は大藏省統計に據る)

年別	輸出入高 (括弧内は筑豊炭)	
	輸出高	輸入高
明治三十九年	二,四〇二,三五四	二,六八二
同 四十年	二,九三三,四九〇	一八,四六一
同 四十一年	二,八六六,〇三二	三〇,八八五
同 四十二年	二,八六七,〇三七	一五,九四八
同 四十三年	二,八六六,〇四七	一七四,六一
同 四十四年	三,〇六五,六七八	一八二,八二四
大正元年	三,四六七,八七〇	三〇八,三三九
同 二年	三,八七〇,六〇〇	五七六,七七二
同 三年	三,五八六,八〇六	九五七,七〇九
同 四年	二,九三四,〇九二	六四四,六七七
同 五年	三,〇一五,九四七	五五六,一一〇
同 六年	二,八二三,四六二	七三三,〇八〇
同 七年	二,一九七,〇三七	七六七,七九三
同 八年	二,〇一六,七〇三	七五五,二四五

◎港別及仕向先別輸出高表 (大藏省統計に據る)

港別	輸出入高 (括弧内は筑豊炭)			
	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年
若松	一九四,七三三	二一九,六四一	四五〇,七〇二	四三七,三九四
門司	二,四五五	四,四五〇	四,一七五	二,四三〇
下關	—	—	—	—
博多	一〇,三〇〇	三,八〇〇	七,一〇〇	五,八〇〇
三池	五五七,〇二一	六七〇,四七六	七三〇,七五五	七四九,四六四
唐津	三三,七〇五	六三,七〇〇	一三七,一八五	一三三,五〇〇
長崎	四一八,〇四一	四七六,九七四	五五九,三二七	五二四,四八九
住ノ江	二八,五三五	四二,九六七	三五,三二七	四一,四三〇
那覇	—	—	二,九〇〇	一,〇八二
徳山	—	—	—	—
横濱	—	—	—	—
函館	八,九二七	四,二八一	—	—
小樽	一九,〇七一	九,三六九	三三,〇三二	—
室蘭	八八,〇七四	七八,八〇九	一〇三,一七〇	一〇九,七六八
其他	二九	四二	七,一八六	三,三七〇
合計	一,三六五,九七一	一,五八八,八二〇	二,〇九七,三六九	二,〇三三,二七二

仕向先別	輸出入高 (括弧内は筑豊炭)			
	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年
支那	四五三,一六〇	八〇〇,四一八	一,三〇二,八五六	一,一八五,五二七
關東州	一五,八五〇	一一,三五〇	三,九六四	一,三六八
香港	四四四,七二九	三〇七,八八六	三六一,九七六	三四〇,〇六六
佛領印度	一六,三三〇	二四,八八一	二五,〇〇〇	二九,一〇〇
關領印度	一六,六六三	一一,四五〇	一一,五二二	一〇,八三〇
海峽殖民地	一一,四〇〇	一五五,九七七	一九九,五六二	二二九,二〇〇
比律賓	一五九,六六三	一四二,七三三	一四二,六五六	一八六,五二一
英領印度	九,八五〇	二,五〇九	四,九五〇	—
布哇	—	三,六〇〇	一〇,四〇〇	七,四七三
暹羅	—	—	七〇〇	八〇〇
埃及	—	—	—	—
露領亞細亞	二,四五五	一五,八六五	二〇,六七二	五,四四五
北米合衆國	一〇,一〇〇	八,〇五〇	四,七〇三	二,〇〇五
北米諸國	—	—	—	三,五〇〇
英國	—	—	—	—
其他	二六,〇六三	一一,〇九九	七,三一九	一,三二二
合計	一,三六五,九七一	一,五八八,八二〇	二,〇九七,三六九	二,〇三三,二七二

◎港別及積出先別輸入高表(大藏省統計に據る)

港別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年
若松	二八三、二六七	三三、八二〇	四六八、九三七	五三八、六六二	四四三、六三三
門司	四、〇八二	二八、八七四	二二、五九六	二一、七九九	二八、五五七
三池	—	—	七、四八〇	一八、一九三	二六、五〇〇
三角	—	—	八、五六五	四、九三九	四六、三二七
唐津	三五、〇〇五	一四、九四九	—	三六、九五六	—
鹿兒島	—	—	七、八一	—	—
徳山	六六、四七三	六三、〇三三	八五、六三六	六三、四八五	五五、七八二
神戸	二六二、八九五	二九、七九三	二九二、六四五	二九五、一八九	二二七、五九二
大阪	五二七、一五五	六二六、五二〇	五二一、八〇〇	六四六、六一〇	五〇一、九三七
四日市	三一、八九四	三四、〇八七	二八、七八八	三三、二九三	三二、六二〇
名古屋	三六〇、八六六	三七一、〇一〇	二九八、六五七	三九五、五二四	三七五、九四五
武豊	四〇、七三三	五五、一四四	三三、八六二	五四、六二九	四六、〇一六
清水	六四、〇四二	五九、八五〇	五〇、五三三	六一、六五二	八二、三五六
横濱	七二七、八七六	七四四、〇〇八	五七一、一七五	七〇〇、四八九	六二一、一四六
宮津	—	九二〇	四、九二二	三、五三五	五、三三五

積出先別	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年
支那	四二六、七三五	三五一、四三四	四四九、一三〇	六一七、八四八	五三八、一五七
關東州	一七九、四九九	一七三、七八二	一六六、九四七	一九八、四三九	一七三、二〇三
佛領印度	三四八、六五〇	四四〇、一〇八	四二一、六七七	四八〇、〇九八	三五五、一八六
蘭領印度	—	—	—	—	—
英領印度	—	—	—	—	—
露領亞細亞	二、五三六	二、〇六三	六、三九六	三、〇三三	六、三三〇
其他	一、七六九	五六二	三、九六五	一、六五四	一、四三七
合計	二、六七三、三三三	二、六五〇、一四四	二、六五〇、二八〇	三、一〇三、三三二	二、七三四、八三二

境	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年
境	一八、〇六八	二〇、四三〇	一五、四五〇	三三、〇三九	二二、一四五
敦賀	二二、二三五	二五、四七九	二五、三四〇	三七、〇二八	二九、〇六六
七尾	—	一、四六四	三、二二〇	—	—
伏木	五三、五九六	三八、五六六	五五、四五七	七七、六一四	五九、四六〇
新潟	四五、七三三	三〇、八六二	三八、九三八	七二、七七七	五四、四七九
真岡	—	—	—	六、〇五一	七、九七〇
函館	一六、三三二	二五、九四四	一、四一三	一五、二〇七	—
小樽	一一、三九〇	一八、三八〇	一三、四五〇	三八、二九三	—
室蘭	—	六、七二五	五四、二四五	三九、五九一	—
其他	七四、六五二	一九、〇八〇	一一、一五九	五三、二五五	九四、五五五
合計	二、六七三、三三三	二、六五〇、一四四	二、六五〇、二八〇	三、一〇三、三三二	二、七三四、八三二

第九章 筑豊石炭鑛業組合

第一節 組合事業の成績

筑豊石炭鑛業組合は明治十八年四月福岡縣布達第三十四號同業組合準則に據り組織せられしものにして、其の初め筑前の遠賀、鞍手、嘉麻、穂波四郡及び豊前田川郡にて各別の組合を設けしも同年十一月中更に各郡組合聯合の必要を感じ鞍手郡直方町に其の聯合會を開き縣官及び有志者の斡旋により互に主張を抛棄して五郡一致の團體とし、其の翌年一月より遠賀郡若松港に筑豊五郡坑業組合取締所並に石炭一括販賣所を設立することとし、福岡縣屬官石野寛平を推して組合總長とし、龍崎中和、稻垣徹之進、安達仁造、安川敬一郎、麻生太吉を経て松本健次郎現任たり、其間幾多の年月と共に組合事務を改善し二十八年十一月中今の組合事務所を新築して益々諸般の設備を改め本邦實業團體中最も有力なるもの、一として世に知らるゝに至れり。

當所組合の常務は、唯一の運炭機關たりと遠賀川及堀川筋の淺深三川船に對する取締を主とし兼て組合員の懇親を結び相携て斯業の發達を圖るにありしを以て先づ鑛業振興の機運に乗じ筑豊興業鐵道の敷設を促し若松築港會社の發企を助け各種の困難を排して其の成立を容易ならしめ以て海陸運輸の大改善を遂げたるは實に組合の公共的事業として第一に掲ぐべき功績なり。明治二十三年鑛業條例、廿八年の鑛業法其他鑛業關係法規の公布に先ち、屢組合員の意見を徴して、之を當局者の參考に供し法律制定上其の便宜を圖るに努めしこと又幾何なるを知らず其他九州鐵道の開通、門司若松兩港の特別輸出開始等に依り斯業俄に勃興して年々著しき進歩を見るに從ひ組合の業務亦複雑となり他の壓迫を排除して内部の改善を圖りしもの一々屈指に暇なく縣郡町村に對する組合一般の關係は常に其處理の任に當り互に彼我の利益を計りて其の行政上の便宜に

努め鑛山變災殉難者遺族を慰問し公共事業に對しては遠賀川改修工事費として金貳拾八萬圓を寄附せしを始め、東筑嘉穂兩中學校の建築費として各參萬圓宛、福岡工業學校採鑛科設置費として金參萬壹千圓、福岡工業博覽會に金壹萬圓、警察電話架設費に壹萬貳千圓、直方高等女學校建築費、及福岡縣協賛會費として各金六千圓宛其他教育、衛生、土木等の費用として各方面に寄附せし金額は尙幾十筆の多きに及ぶも今一々列記せず、運炭線路驛構内脱落炭を拾收し洞海灣沈没炭を曳揚げ遺利を回復す、尙明治三十七年七月以後「筑豊石炭鑛業組合月報」と題する石炭専門の雜誌を發行して廣く斯業上の研究に資し、四十五年七月よりは毎月數回救命器使用の練習を行ひて不時の變災に備へ、大正四年には農商務省と共同して石炭坑燻發豫防調査所を設置して鋭意鑛山保安に關する研究に努め（昭和二年七月當組合建設に係る一切の設備を商工省に寄附す）大正六年には地を鞍手郡直方町西尾の高台に卜し三十二萬圓の巨費を投じて筑豊鑛山學校を設立して斯界有用の人材養成に努むる等直接に間接に本邦文物の進歩を補翼しつゝあり。

斯くの如くにして組合設立後四十六年間、一意石炭鑛業の進歩發達に努め其の面目を一新して地方の文物を改善し成立の當時孤穴狸巢の觀ありし筑豊煤田をして本邦有數の大富源たらしめ若松、門司の兩港をして東洋屈指の大市場たらしむるに至りしは我組合の經營措置其の宜しきを得たるもの實に多きを信するなり今左に重なる組合事業の二三につき摘記すべし。若し夫れ此の間に於ける斯業發達の程度に至りては明治十九年の送炭僅に三十餘萬噸に過ぎざりしに今や壹千萬噸内外となりしに徴しても明かなり、其の内容に至りては本書第三章以下に一々統計表を掲げれば今復た茲に贅せざるべし。

一、筑豊鑛山學校（福岡縣直方市頓野、電話三三四番）

(イ) 沿革 略 叙

◎大正六年六月筑豊石炭鑛業組合常議員會に於て各鑛山坑内作業及労働者を監督する坑内係員缺乏せる爲其の養成の必要
第九章 筑豊石炭鑛業組合 第一節 組合事業の成績（筑豊鑛山學校） 一五三

を認め之に適應する特殊教育を授く可き簡易なる鑛業學校を設立せんとするの議起り之に關する調査を經たるに時勢の進運に伴ふには少くも中學校卒業以上の基礎の學力を有する者を必要とするを認め再び其の調査を進行せり。十二月十一日臨時組合總會に於て中學校卒業程度以上の學力を有するものを集め之に鑛業に關する學理を教授し坑内諸作業を充分に實習せしめ卒業後直に坑内事業を擔任し得る優良なる技術者を養成するの目的を以て私立筑豊鑛山學校設立を決議す。◎七年三月本校敷地として縣下鞍手郡直方町字西尾に一萬三千四百五十坪を買収す。五月七日本校創立の件認可せらる。六月運動場敷地として同村字十堂に三千六百十六坪を買収。七月工學博士山田邦彦本校々長に就任。八月校舍建築に着手す。◎八年四月建築竣工同月第一回本科生入學。六月文部省令第二四號により「私立」を削除し筑豊鑛山學校と改稱。十二月開校式舉行。◎十年二月炭坑下級係員養成の爲め別科開講。◎十四年五月生徒中學力優良心身健全にして學資の貸附を受けんとする者には組合より一ヶ月一人に付十五圓以内貸與することあり卒業後三年以内に其金額を返納せしむ。六月十九日學校長山田邦彦卒去七月六日組合總長松本健次郎臨時學校長兼攝。◎十五年三月四日福田政記學校長に就任。十一月校内に實習坑道を築造す。◎昭和三年三月本科、別科の外新に普通科を設置することとなり第一回生として組合内各炭坑の推薦者中より入學試験の上五十五名に入學を許可す。◎四年四月普通科の爲め青年訓練所設置の認可あり。十一月校友會を組織す。二月普通科新設の爲め學級増加し別科生收容の餘地なく第十八回修業生を以て別科制度は廢止のこととなり。◎昭和五年四月學校敷地(十堂地内)に運動場新設。四月樟陵會(校友會名)事業として學用品購買部を新設す。◎昭和六年二月校旗を制定し授與式を行ふ。學則一部改正の結果四月より從來の本科制度を廢し高等科第二部係科と改稱十四名に入學を許可す。

(ロ) 位置、規模及設置大要

位置 直方市東南面の丘陵に據り東に福智山の秀峰を望み環境閑靜、地勢雄勝頗る勉學に適す中央に講堂あり本館と寄宿舎とを其左右に兩翼を張り。

規模 校地總面積壹萬七千六百六十六坪にして北方背後に松林を控へ地均をなしたる敷地約六千坪と千五百坪の運動場の外各保安設備、排籠球場及庭球場を有す。建物に本館階下貳百八拾坪、階上貳百五拾講堂六拾四坪五合、寄宿舎階下壹百參拾四坪、階上同坪、食堂及浴室洗面場等壹百拾參坪、其他附屬建物七拾坪餘、合計坪壹千餘坪を有す、廊下七拾餘間を以て之を連絡す、水道設備としては近津川より電氣ポンプにて揚水し完成なる濾過を施したる上職員住宅等にも給水す、職員住宅は校地の東方約三町の高臺景勝の地に在り、本校と距離近く便宜多し。學校設備の大要は採鑛學、機械工學、電氣工學に關する機械器具裝置の實物及模型各種を備へ又實驗室實習用の機械數臺あり化學分析は目下石炭及瓦斯の分析を主とし、學生各自其術を習得するの設備をなせり、測量に於ては地上坑内の實測に必要な數多の機械器具を備へ後庭に模擬坑道あり。鑛物學、地質學用としては鑛物岩石化石の標本は勿論鑛物學、地質學、古生物學に關する模型數種あり、又學生用練習の吹管、分析器具、鑛物岩石の標本あり圖書は和洋共に備付け、文學、理科、鑛業、採鑛、測量、分析、機械、電氣、地質、鑛物等の各部門に分ち、雜誌は邦文約二十種、外國雜誌約十種を備ふ圖書、雜誌共に圖書室に於て常に閱覽するを得

(ハ) 創立費及經常費

本校 創立費 金參拾貳萬五百四拾六圓
昭和七年度本校經常費 約四萬壹千七百圓

(ニ) 學則大要

一、修業年限 第一部一ヶ年 每年四月普通科卒業生中より選拔入學せしめ翌年三月卒業。
第二部二ヶ年 入學者中學卒業者。毎年四月入學前一ヶ年は炭坑にて實務に服す。後一ヶ年は第一部生と同時に入學科講習。翌年三月卒業

一、科目 高等科第二部豫科課程は修身、數學、機械、電氣、地質鑛物、探鑛學、測量
 高等科課程は 修身、作文、英語、數學、理科、製圖、應用力學、材料學、機械、電氣、地質鑛物、探鑛學
 探鑛實驗、測量法、法制經濟及簿記、體操、實習

一、定員 高等科 一部二部合計 三〇名
 豫科生 若干名

一、入學資格 満十七歳以上の男子にして品行方正、中學校工業學校の卒業者又は之に准する者を採用す

一、入學試験 中學校卒業の程度により、國語、漢文、英語、英文和譯、數學(代數、平面幾何、三角)、物理及化學に就き
 試験し體質薄弱、近視強度、其他卒業後勤務に故障となるべき疾病、耻疾を有する者は採らず

一、在學 第二部生は入學當初一ケ年は學校より指定の炭坑に配屬し専ら實務に従事せしめ傍ら其間毎週二日間登校學
 業を受く

備考 翌年四月より普通科より選拔せられたる者と合併し一ケ年間學業を專修す
 右は昭和八年度より廢止の手續中

○普通科

一、修業年限 普通科 四ケ年 毎年四月入學
 一、科目 修身、國語、漢文、英語、數學、物理、化學、製圖、應用力學、材料學、機械工業、電氣工業、地質鑛物、
 探鑛學探鑛實驗、測量法、法制經濟及簿記、體操
 各科に於ける實習實驗及製圖の授業時間數は臨時に之を増減することあるべし
 一、定員 普通科生百六十名

一、入學資格

一、年齢満十四歳以上満十六歳以下の男子にして品行方正、身体強健なる者一、高等小學校卒業若くは中等
 學校二學年修了者又は之と同等以上の學力を有する者、入學試験に合格し且つ組合炭坑の一に於て稼働する
 者高等科(略)

一、入學試験

高等小學校第二學年修業程度により其學科目中に就て行ふ
 普通學科制度は約半年間の通學と殘半年間の實地作業とを四年間交互に行ひ且つ實習中一週一回登校せしめ
 學科の補習をなす制度にて所謂「サンドウィッチ・システム」なり。

(ホ) 宿舍及學費

本科生の宿舍として寄宿寮を設け生徒監は訓育主任として學生の訓育、監督、指導の任に當る、自習室は寢室兼用にして一
 室の定員を六名とす自習室の外に休養室、面會室等あり、從來の炊事場、食堂を改築し大部分を武道場に充つ。又蒸汽炊爨
 の設備を完成す。生徒全部を一定期間交互入寮せしめ自治協同及日常生活の道德化等の訓練をなさしむることとす。寮内に
 猶典堂なる靜座室を新設し生徒相互精神の練磨場とす。入寮者には寢具、蚊帳、机、食器一切學校より貸與す。炊爨は生徒
 各自の輪番とし總て自炊をなさしめ其の自治に任ず故に食費は極めて低廉なり。

(ハ) 職員及卒業生

一、職員 校長一名幹事兼教授一名書記二名生徒監一名専任教授工學士二名明專工學士一名助教一名助手三名囑託二名講
 師工學士一名明專工學士一名を以て事務訓育及授業に當れり
 一、本科卒業生 大正九年九月第一回卒業四拾貳名 大正十年九月第二回卒業四拾名 大正十一年九月第三回卒業貳拾名 大正十二
 年九月第四回卒業拾九名 大正十三年九月第五回卒業五名 大正十四年九月第六回卒業八名 大正十五年九月第七回卒業十名
 昭和二年九月第八回卒業十八名 昭和三年九月第九回卒業十四名 昭和四年九月第十回卒業貳拾六名 昭和五年九月第十一回

卒業十六名昭和六年九月第十二回卒業十六名 合計二三四名にして概ね本組合所屬炭坑に就職せるも福岡、佐賀、長崎、北海道、朝鮮の諸炭坑及鑛山以外に就職せるものあり

- 一、別科修了生大正十年七月第一回修了五拾六名 第二回參拾八名 第三回參拾六名 第四回貳拾壹名 第五回貳拾五名 第六回貳拾四名 第七回拾七名 第八回拾七名 第九回拾九名 第十回拾七名 第十一回拾參名 第十二回拾七名 第十三回拾五名 第十四回拾七名 第十五回貳拾七名 第十六回拾八名 第十七回拾四名 第十八回貳拾壹名 合計四一二名にして何れも在職炭坑にて地位の向上を得居れり (普通科新設の爲め收容の餘地なく廢止)
- 一、昭和七年三月第一回普通科卒業四十一名 (各出身炭坑にて勤務)

◎變災豫防に關する施設

(直方市御嶺山、筑豊石炭鑛業組合直方會議所内) 筑豊石炭鑛業組合救護練習所 電話一三五番

當組合は組合炭山不時の事變に備ふる爲め、明治四十三年以來救命器を購入し之れを直方會議所に備付け明治四十五年七月より各炭山の練習に供し(救命器練習會)大正十二年四月一日より筑豊石炭鑛業組合救護練習所と改稱し各坑共多數の熟練者を出すに至れり。尙從來の木造練習室を廢して不燃燒質「トンネル」を造り坑内坑道の實狀に等しきものなし練習しつゝ、あり現在の同所在庫品を示せば左の如し

品 目	數量
千九百十九年式ドレーゲル救命器	八組
千九百二十一年式ドレーゲル救命器	二組
千九百二十四年式ドレーゲル救命器	三五組
千九百三十一年式ドレーゲル救命器	一組

其 附 屬 品

一 式

右は組合炭山一般の爲めにする練習なるが大正四年十二月農商務省令第二十五號發布石炭坑爆發取締規則第二十八條により(昭和四年十二月商工省令第二十二號改正) 指定炭山に於ては單獨又は共同にて救護隊を設置することとなりたるが單獨編成の三井田川鑛業所を除き高松本坑、忠隈、第二目尾、方城、芳雄上三緒、赤池、大隈、大峰二坑、下山田、中鶴一、二坑、大之浦二、三、六坑の十四坑は共同して救護隊を組織するに至り其囑託により組合事務員指導の下に之等各坑隊員の爲め特に救護練習を開始し大正十一年九月以降昭和七年十月迄に技術修了者を出したる、と實に九百七拾六名を算せり。尙参考の爲め救命器其他の貸貸、無償貸與及分讓に關する規程を左に示さん

◎炭坑變災用應急備品貸貸、無償貸與及分讓規程(昭和五年十二月改正)

一 當組合ハ組合所屬炭坑ノ變災事變ニ際シ其請求ニ應シテ組合備付ノ左記應急備品ヲ貸貸、無償貸與又ハ分讓ヲ爲スモノトス 貸貸ヲ爲スヘキ備品

救 命 器

無償貸與ヲ爲スヘキ備品

回生器、吸入器、酸素詰換ポンプ、天幕(巾三間長サ五間モノ)、酸素量測定器、面試驗器 分讓ヲ爲スヘキ備品

ブラツチスクロース(巾八尺モノ)、布ホース(二吋半ノモノ)、加里(罐入)、酸素

二 應急備品ノ貸貸、無償貸與又ハ分讓ヲ受ケムトスル炭坑ハ其所要品名數量ヲ明記シタル書面ヲ以テ當組合事務所ニ申込ムヘシ但物件ノ授受ハ總テ當組合直方會議所ニ於テ之ヲ爲スモノトス 事變ニ際シ前項ノ手續ヲ爲ス暇ナキトキハ直接會議所宛電話ヲ以テ申込ミ且ツ所要箇所迄ノ運搬ヲ同所ニ依頼スルコトヲ

- 得但炭坑ニ於テハ運滞ナク前項ノ手續ヲ爲スト共ニ運搬ニ要シタル一切ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス
- 三 救命器貸貸料金ハ其使用ノ有無ヲ問ハス壹日壹組ニ付金貳圓ヲ徵收スルモノトス
- 四 炭坑ニ於テハ借用物件ノ使用終了ト同時ニアルコール、石鹼水、ホルマリン等ヲ以テ丁寧ニ消毒掃除ヲ爲シタル後運滞ナク返戻スルモノトス
- 五 借用物件ノ破損滅失ニ對シテハ其程度ニ依リ修繕料若ハ原價又ハ賠償價格ヲ徵スルモノトス但賠償價格ハ救護練習所委員、會及常議員會ニ於テ決定ス此決定ニ對シテハ異議ヲ申立タルコトヲ得ス
- 六 救命器ノ貸貸料金 分讓ヲ受ケタル備品ノ代價及破損滅失ニ因ル代價金其他一切ノ費用ハ組合ノ請求ニ依リ五日以内ニ支拂フヘキモノトス

第二節 組合炭山に於ける社會的施設

近時世運の進歩に伴ひ社會政策的施設の必要を痛切に感ずるに至り各種の方面に於て競ふて其實施を企圖しつゝあり鑛山事業にありても労働階級を愛護し且つ其利便を計るの主旨を以て夙に現代所謂社會的施設の總てを實行し來り尙ほ進んで其發達改良に多大の努力を拂ひつゝあるの現状なり、然るに近時動もすれば炭山を目して「監獄部屋」と稱へ「労働者を虐使す」など傳へ其待遇慘酷なりとするものあれど之れ實に炭山労働の實際に暗く事理に疎き虚構の説なることは本節を通讀して自から明白ならむ我組合炭山に於ては早く已に勞資の關係に鑑る所あり鑛業労働者に對しては以下叙説する各種の温情的設備を完全にして以て其協調の實を擧げ國家産業の發展に努力しつゝあり、其施設の名稱又は内容に至りては千種萬別なるも鑛業労働者に對する温情の發露なるこゝに於ては毫も異なる所なし今其重なるものを左に掲げ概要を記述せん

◎住宅の供給

一般炭山に於ける鑛業労働者に對しては古くより納屋と稱へ其住居を提供せり我が組合炭山に於ても均しく數戸乃至十數戸連續せる長屋を建設して其家族の住居に充當し來れるが今日に至りては社會全般生活狀態の向上につれ鑛業労働者の住宅も概ね完備したる建設物となり將來比較的長期に亘り採掘し得る炭山にありては二室又は三室を備ふる住居を與へ電燈給水等の設備を爲せるもの頗る多し然れども一時的な小規模の炭山にありては稼働者の多くは附近居住の農民にして其の必要を認めざるもあり

◎慰安並に娛樂設備

鑛業労働者に對しては古來其慰安且つは娛樂の爲め諸種の施設を行ひ以て勞務を苟ひ來れるが、最近に至り特に此種の施設最も進歩し各炭山殆んど此舉なきはなし左に重なるものを列記せん

- ◎鑛夫俱樂部 鑛業労働者の爲に特に建設せるものにして以下記する各種の催し等總て此處に行はる
- ◎演劇 組合炭山中大規模のものにありては完備せる劇場を有し時々附近町村に巡業せる俳優又は特に是等の一團を傭聘して興行演藝せしめ鑛業所一般の爲め開放するものなり
- ◎活動寫眞 鑛業労働者を初め一般に觀覽せしむる目的を以て炭山に該器械を有するもの多く苟くも教訓的、修養的活動寫眞等は炭山の好んで鑛業労働者に觀覽せしめ其思想向上に努めつゝある所なり
- ◎浪花節 筑豊地方のみならず近時労働階級の多數を占むる所にありては解し易くして節面白き語り物最も歡迎され我組合炭山にありても浪花節の如きは頗る其意に投じ附近町村に此種の興行あれば一里二里を遠しこせずして聽くを常とす仍て炭山に於て此等藝人を特に傭聘して労働者の爲め語らしむるこゝも一般なり
- ◎音樂會 最近オルガン、ヴァイオリン、マンドリン、ハーモニカ等の洋樂趣味青年鑛夫又は其の子女の間に行はれ高

等音楽を吹奏するもの多く同志相集りて時々其技を競ふこと流行しつゝあり炭山に於ては斯かる趨勢に鑑み樂器を俱樂部に備へ其趣味の満足と與ふ筑前琵琶又は淨瑠璃等の邦樂に趣味を有するもの亦甚だ多し

○ラザオ 近時流行のラザオを鑛夫俱樂部等に取り付け隨時聴聞せしむ

○圍碁及將棋 昔時は鑛業労働者の大部は常に飲酒に耽り賭博を弄ぶ者多聞きしが、現時は是等の徒は性質一變して其體習を脱し鑛天俱樂部に入りて圍碁將棋に時を移す傾向を生じたり其必要なる器具は炭山にて之を備付け任意使用に便しつゝあり

○撞球 西洋遊戯も亦近時炭山に行はるゝに至り青年鑛夫中撞球を試むるものあり市井に出入して競技するには彼等の爲め不得策なるべし炭山に於て其設備をなす以て其娛樂に供する所あり

○野球及庭球 諸會社工場等において其職員の爲め夙より此等の設備を行ひつゝありしが近時我が炭山に於ても高尚なる遊戯且つは體育の獎勵なりと認め大に此等の施設をなすもの多く鑛夫職員にて競技し互に相親睦するの傾向を生じたり

○武術及相撲 擊劍、柔道、弓術を好むもの又は相撲を樂しむ者あり之等に對しては時々其技能を競はしめ炭山より賞品を掲げて斯道の獎勵をなしつゝあり

○遊園地 炭山經營地にありては都會と異り公園の設けなく鑛業労働者の遊樂する所なき遺憾とし炭山中には鑛業地附近の山林を買収開拓して之に道を通じ所々に平坦なる運動場を設け自然美に加ふるに柳、櫻、梅、紅葉等を移植して好個の遊園地とし巡禮八十八箇所の靈場を設置する等鑛業労働者の爲め特に慰安の途を講ずる所あり

○運動會 近時勞資協調親睦の最も必要なるを認め炭山事務員、鑛業労働者と相俱に提携して事業の進歩發達を希ふに至り時々其聯合運動會を開催して何等の増進を設けず心行く計りの慰樂を擅にしつゝあり

◎教育及修養

時代の進運につれ鑛業労働者を向上せしむるは事業經營上最も緊急なる事項なるを以て炭山に於ては其教育並に修養に關しては常に多大の注意を拂ひ其進歩發達を輔導す、施設の概要左の如し

○學校 規模大なる炭山に於ては其學齡兒童亦多數あるを以て所在小學校に全部收容すること困難なることあり此際炭山に於ては多大の資金を投じて其町村と交渉して學校の増築、教師の増員をなすこと普通なるも或る炭山にありては尋常科のみならず高等科をも設置自營する所あり又高等科卒業の者に對して補習科を置く所あり小學兒童の凡てを町村設立の學校に送る場合は其教育費は無論種々の名義を以て町村に交附するを常とす

○鑛天集會所 鑛業労働者一般の集會其他冠婚葬祭の爲め使用せしむる目的を以て設置せるものにして常に公開し新聞雜誌其他有益なる圖書を備へ以下記するが如き修學的會合に充つるものなり

○夜學 近來青年鑛業労働者の向學心の大に著しきものあり其常に讀む所の雜誌類につき之を觀察するに比較的高級なるもの、如し炭山に於ては之等好學者の爲め學校出身事務員を教師となすか又は他より教員を招聘して夜學校を開き其學力に應じて學級を編成し別々に之を教導し希望の満足を期する向あり

○説教所 主として宗教を基礎として勸善懲惡を説くものあり又は時代思潮に關して穩當なる説明批評を試み鑛業労働者の浮薄を誡むるあり其内容時に變更あるも要するに鑛業労働者の精神的向上を期するを主眼とし其効果大に見るべきものあり

○青年會、少年團及處女會

青年會は概ね十五、六歳よりの獨身者又は妻帯者、少年團は十五、六歳以下の者、處女會は十二、三歳以上の處女又は有夫の婦女を以て組織すること一般なり其加入年齢は炭山により種々異なる所あるも要するに此等會團の目的は主として相互の

親睦體力の増進人格の向上知識の研鑽にあり時々各種の運動及修養に關する會合をなし良好の成績を擧げつゝあり

◎青年訓練所、在郷軍人分會 青年訓練所は丁年未滿の青少年を以て組織軍事訓練を施し又炭山に多くの在郷軍人あるを以て集めて其分會を組織せしめて移り行く思想の惡化、生活の浮華を外に、堅忍不拔の精神を涵養しつゝ、社會奉仕の先鋒となりて活動しつゝあり

◎裁縫所 鑛業労働者の妻女や其子女の將來の爲めを計り炭山に於ては裁縫師を招聘して之等婦女の爲め裁縫を教授するの途を開けり

◎救濟施設

鑛山にありては一般に鑛夫勞役扶助規則により金屬山たる炭山たるに論なく、鑛山労働者に對しては其死傷疾病等に就き適當なる救濟方法を行ひつゝあるが我が組合炭山にありては此等法律的恩惠の外別に共愛會、親和會、共濟會（名稱多々あり）等を設け鑛山労働者の爲め其福利を増進すると共に前記死傷疾病等の際は重ねて懇篤なる待遇をなしつゝあり其他退山餉別金、災害見舞金、結婚祝儀、出産祝儀、入退營祝儀、療疾見舞金等を贈與する向き多し此等の諸費は一部の炭山にありては鑛業労働者より少額の會費を離出せしめ炭山にて之を補給し居るも現時は概ね鑛山労働者より會費を徴收せず炭山に於て諸般の經費を支辨するの傾向を生ぜり

◎保育、託兒所及幼稚園

鑛山労働者に採炭に従事するものは業務の性質上古來夫婦共稼の慣習あり學齡の子女は通學して父母の係累ならざるも乳兒及五、六歳以下のものにありては兩親稼働中保育に困難なるを以て多くの炭山に於ては保育所、託兒所又は幼稚園を設け置す、保育所にありては乳母又は保姆を置きて乳兒を養ひ託兒所又は幼稚園にありては相當思慮ある婦人を置きて兒童を善導し規律ある生活をなさしめて稼働兩親の便宜を計れり

◎人事相談所及無料代書所

鑛山労働者中尙ほ迷信を懐くもの多く又は法規の利用其他につき理解を有せず爲めに處世の方針を誤るものなきを保證す尙諸種複雑なる事情を擁して之を解決するの良策に苦しむもの頗る多きを遺憾とし炭山に於ては人事一般に就き其指導者たることを期し最善の進路を執らしむる方針に出づる所多し又官衙公署に對する諸願届又は人事往復信書等の代筆をなし鑛山労働者の便を計れり

◎日用品販賣所

鑛山は工場と異なり多くは僻地の地に施設せらるゝを以て昔時より鑛業労働者の便利を旨とし鑛山地内に鑛山直營の日常生活必需品の販賣所を設置し賣品は市場價格に比し常に廉賣をなすものなるが近時に至りては其販賣所の傭人給其他の諸經費を炭山にて支出し賣品は悉く仕入値段を以て供給するもの多く又は購買組合或は消費組合を組織し共同して日用品の廉賣を計るもの多數あり

◎共同浴場

勞務に従事するもの特に炭山に於ける坑内労働にありては其業務の性質上炭塵其他の爲め身體を不潔ならしむること多し故に炭山に於ては之等勞役者の爲め夙より共同浴場を設置して炭山直營とし無料入浴せしむ現今にありては各山風規上遺漏なく衛生上欠陥なきやう設備をなせり

◎衛生並に醫療疾

病負傷等に對する手當は之れ亦鑛夫勞役扶助規則により炭山に於て給付するも原則として鑛業労働者の公傷病即ち業務遂行に關する疾病負傷に對する給付なり、健康保險法の實施せらるゝに及び組合の重なる炭山は孰れも保險組合を設立或は保險官署取扱の下に業務外の傷病又は其家族の一般疾病其他に就ても所屬醫局、又は鑛山病院其他に於て診療を施し傳染の虞ある

ものは炭山經營の隔離病院に收宿する所もあり是等の費用については鑛山労働者より少額の料金を徴するに過ぎざるなり、又鑛業區域の衛生事項に就ては各炭山にありては多大の注意を拂ひ難疫の豫防は勿論坑内外の清潔を旨とし居るを以て鑛山労働者の不衛生を爲さざる限り傳染病の如きは殆んど鑛業地を襲はず

◎火葬場、納骨堂及墓地

鑛山労働者の死亡に就ては鑛夫勞役扶助規則に據り救済する外其家族の死亡に對しても炭山より懇篤なる取扱をなすこと一般なり而して特に火葬場の設備をなし鄭重無料にて茶毘に附し遺骨は遺族の意志により其郷關に携帶菩提寺に埋葬するものあれど炭山經營の納骨堂又は墓地に葬るもの亦少からず或る炭山に於ては其所屬墓地に埋葬に限り墓碑一基を建設贈與す

第三節 組合炭鑛所在地一覽 (昭和八年一月一日現在)

三菱鑛業株式会社筑豊鑛業所	直方市上新入	第四坑	田川郡川崎村川崎
新入炭坑	鞍手郡劍村中山	斜坑	同 伊田町伊田
第六坑	同 山ヶ崎	山野鑛業所	同 嘉穂郡稻築村鴨生
第七坑	飯塚市	第一坑	同 同 漆生
第一坑	嘉穂郡庄内村有井	第二坑	同 同 鴨生
第四坑	同 稻築村鴨生	第三坑	同 同 鴨生
第五坑	同 庄内村網分	貝島炭鑛株式会社	下關市唐戸町二
第六坑	同 田川郡方城村伊方	大之浦鑛業所	鞍手郡宮田町上大隈
方城炭坑	嘉穂郡山田町上山田	二坑	同 同 同
上山田炭坑	田川郡後藤寺町	三坑	同 同 同
三井鑛山株式会社	同 奈良	五、八坑	同 同 同
田川鑛業所	同 大藪	六坑	同 同 同
第一坑	同 伊田町伊田	大辻炭鑛	同 同 同
第二坑	同 伊田町伊田	明治鑛業株式会社	遠賀郡香月町香月
第三坑	同 伊田町伊田	豐國鑛業所	戸畑市大渡通
		赤池鑛業所	田川郡糸田村
			田川郡上野村赤池

明治炭坑	新一坑	嘉穗郡 額田村 勢田	古河鑛業株式會社	西部鑛業所	鞍手郡 小竹町 新多
株式會社 麻生商店	飯塚市 立岩	飯塚市 立岩	飯塚鑛業株式會社	飯塚鑛業所	同 同
芳雄 上三緒炭鑛	同 上三緒	同 上三緒	三好鑛業株式會社	高松本坑	嘉穗郡 穗波村 平恒
山內炭鑛	同 下三緒	同 下三緒	高松新坑	高尾炭鑛	遠賀郡 折尾町 折尾
豆田炭鑛	同 嘉穗郡 桂川村 豆田	同 嘉穗郡 桂川村 豆田	住友炭鑛株式會社	忠限鑛業所	同 同
吉隈炭鑛	同 同 吉隈	同 同 吉隈	九州鑛業株式會社	木屋瀨鑛業所	同 同
網分炭鑛	同 庄內村 網分	同 庄內村 網分	金丸坑	秋山坑	同 同
赤坂炭鑛	同 同 赤坂	同 同 赤坂	野面坑	起行小松鑛業所	同 同
藏內鑛業株式會社	同 田川郡 添田町	同 田川郡 添田町	大正鑛業株式會社	中鶴第一坑	同 同
藏內鑛業所	同 同	同 同	中鶴第二坑	同 同	同 同
峰地一坑	同 同	同 同			
大峰炭坑	同 同	同 同			
一坑	田川郡 大任村	田川郡 大任村			
二坑	同 川崎村	同 川崎村			
大正鑛業株式會社	同 遠賀郡 中間町 中間	同 遠賀郡 中間町 中間			

嘉穗鑛業株式會社	戶畑市 大渡通	海老津炭坑	遠賀郡 岡垣村 戶切
嘉穗鑛業所	嘉穗郡 上穗波村 元吉	香春鑛業株式會社	田川郡 勾金村 中津原
宮尾鑛業株式會社	田川郡 勾金村 仲津原	共同石炭株式會社	同 同
宮尾鑛業所	同 同	島廻炭坑	築上郡 宇之島町
大君鑛業株式會社	遠賀郡 折尾町 折尾	日吉炭坑	田川郡 川崎村
大君高尾鑛業所	同 水卷村 古賀	中山鑛業株式會社	嘉穗郡 大隈町 牛隈
久恒鑛業株式會社	嘉穗郡 大隈町 牛隈	中山炭坑	嘉穗郡 山田町 下山田
漆生炭坑	同 同	平山鑛業株式會社	同 同
岩崎炭鑛	遠賀郡 香月町	平山鑛業所	戶畑市 大渡通
小林鑛業所 新手段鑛	遠賀郡 中間町	第一坑	嘉穗郡 桂川村 土師
深坂鑛業所	遠賀郡 中間町	第二坑	同 同
野上鑛業合資會社	直方市 稻荷町	橋上鑛業株式會社	同 確井村 平山
山田炭坑	嘉穗郡 山田町 下山田	豐州炭坑	嘉穗郡 山田町 上山田
藤井鑛業株式會社	若松市 山手通 五丁目	田籠鑛業株式會社	同 同
香之浦炭坑	鞍手郡 西川村 室木	大和炭坑	田川郡 川崎村 池尻
新目尾炭坑	同 新延	玄王炭鑛	嘉穗郡 大隈町 牛隈
大成炭坑	同 同	同 同	山田町 上山田
海老津炭鑛株式會社	遠賀郡 香月町 楠橋	同 同	同 同

第九章 筑豐石炭鑛業組合 第三節 組合炭鑛所在地一覽

一七〇

久良知鑛業所新田川炭坑	田川郡川崎村池尻	庄司炭坑	嘉穗郡幸袋町中
木戸炭業株式會社	鞍手郡西川村新延	大山炭坑	同 桂川村九郎丸
旭炭坑	同 八尋	大西炭坑	同 鎮西村潤野
大谷炭坑	遠賀郡岡垣村戸切	大谷炭坑	同 大隈町牛隈
金丸綠炭坑	鞍手郡木屋瀬町野面	大昇炭坑	同 山田町熊ヶ畑
樋口鑛業所	嘉穗郡山田町上山田	新赤池炭坑	同 同 山田町熊ヶ畑
合資會社高江炭坑	遠賀郡香月町馬場山	白山炭坑	同 同 山田町熊ヶ畑
佐與炭坑	嘉穗郡額田村佐與	宮ノ上炭坑	同 同 山田町熊ヶ畑
小竹炭坑	鞍手郡小竹町勝野	本入炭坑	同 同 山田町熊ヶ畑
峠鑛業所杏拔二坑	同 同	百立炭坑	同 同 山田町熊ヶ畑
中津原炭坑	田川郡勾金村中津原		
秋山鑛業所新高江炭坑	鞍手郡木屋瀬町		
安倍炭坑	嘉穗郡山田町上山田		
江藤鑛業所	鞍手郡西川村室木		
本大城炭坑	嘉穗郡額田村勢田		
猪之鼻炭坑	同 山田町上山田		
野口鑛業所	鞍手郡西川村八尋		
筑紫炭坑	嘉穗郡山田町上山田		

◎組合役員

當組合の總長は其の第一回に於て石野寛平、次に龍崎中和、稻垣徹之進、安達仁造、安川敬一郎、麻生太吉を経て松本健次郎現任たり、常議員は組合成立以後幾多の更迭ありしが目下左の十六名在任す。

總長 松本健次郎 (大正八年三月就任)	
常議員 伊藤傳右衛門 (明治四十二年三月就任)	常議員 貝島太市 (昭和六年十一月就任)
同 長谷川恭平 (大正十年三月就任)	同 長崎團次郎 (昭和六年十一月就任)
同 藏内次郎兵衛 (大正十一年三月就任)	同 三好徳行 (昭和六年十一月就任)
同 久恒貞雄 (昭和三年三月就任)	同 野上辰之助 (昭和六年十一月就任)
同 谷村良太 (昭和三年三月就任)	同 林新作 (昭和七年三月就任)
同 上野榮太郎 (昭和三年三月就任)	同 横尾帝力 (昭和七年七月就任)
同 安川清三郎 (昭和三年十二月就任)	同 中島萬藏 (昭和七年七月就任)
同 野田勢次郎 (昭和四年三月就任)	
同 吉田磯吉 (昭和四年十一月就任)	

幹事 田中豊三

昭和八年二月二十三日印刷
昭和八年三月八日發行

非賣品

編輯者

小林英男
福岡縣若松市旭小路四百十一番地

印刷者

吉田万造
福岡縣若松市山手通四丁目八五ノ一

印刷所

吉田印刷所
福岡縣若松市山手通四丁目八五ノ一
電話 六五二番

福岡縣若松市旭小路四百十一番地

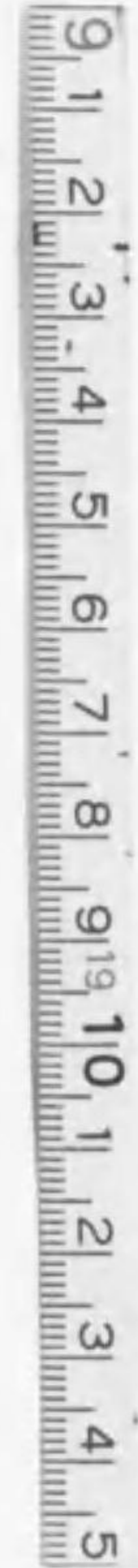
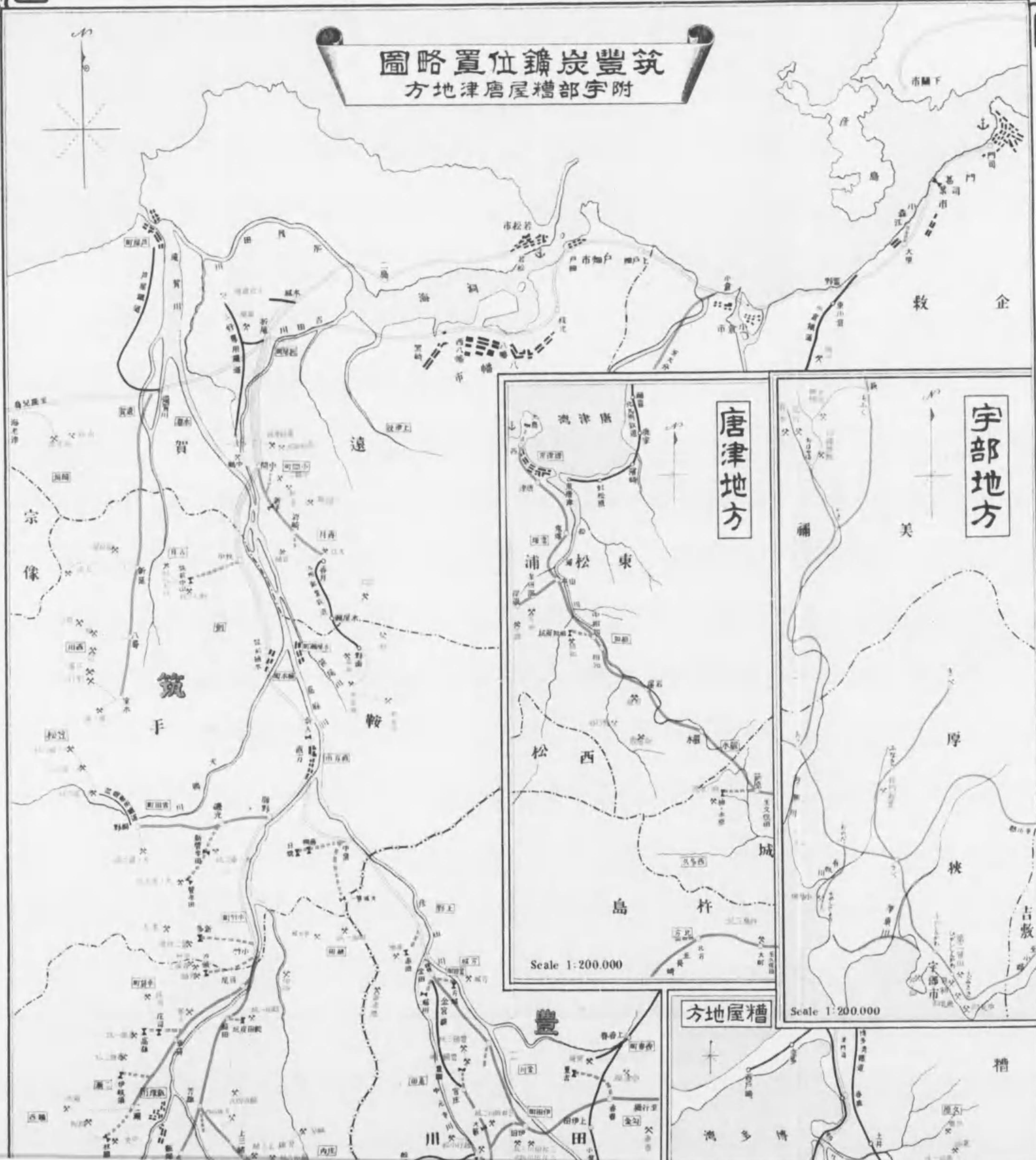
發行所

筑豊石炭鑛業組合事務所

電話 長一〇九番
振替 福岡一五七八七番

筑豊炭鑛位置略圖
附宇部槽屋唐津地方

昭和七年二月八日下関製炭司本部検査済



昭和八年二月二十三日印刷
昭和八年三月八日發行

非賣品